

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	FHD基礎演習A						
担当教員	崔 童殷・笹崎 綾野						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション分野におけるアパレルの企画・設計・製作までの一連の過程を実践的に学ぶ。						
授業の概要	<p>FHD基礎演習A・Bでは、2クラスに分かれ、前・後期で一貫した内容を履修する。ファッション領域では、デザイン・設計製作に関わる「モノのデザイン」、仕組みづくりに関わる「コトのデザイン」について捉え、ファッションにおけるデザイン思考・設計製作・ビジュアルマーチャンダイジング(VMD)・販売・売上げまでの一連の過程を実践的に学ぶ。</p> <p>前期は、「モノのデザイン」について重点的に学び、エコバックのデザインと設計製作を行う。デザインでは、イメージを表現し、形にするプロセスを学び、特に、イメージしたテキストの柄をデザインすることを目的にする。イメージしているテキストの柄はIllustrator, Photoshopなどのデザインソフトを用いてデザインし、生地メディアでプリントしオリジナルのデザインを完成する。設計製作では、デザインしたテキストを用い、使い手(購入者)の年齢や性別、使用目的や使用感を考慮しつつ、デザインにそった設計や製作を試みる。さらに、企画書、アイテム画、素材、縫製事項、寸法を記した縫製仕様書、製作時間や材料費などのコストを算出した資料をA4ファイルにまとめ、後期授業の資料とする。</p>						
到達目標	アパレルの企画、設計、生産までの工程を理解し、実践できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. モノづくりの考え方及び企画書づくり 3. モノづくりのイメージーション 4. エコバックをデザインする 5. テキスタイルデザインに挑戦 6. Illustrator, Photoshopを使った柄のデザイン 7. Illustrator, Photoshopを使った柄のデザイン 8. デザイン加工及び生地メディアにプリント 9. 縫製仕様書づくりと用具の使い方(ミシン、アイロン) 10. エコバックの設計と型紙づくり 11. 布の裁断、印しつけ 12. 縫製① 13. 縫製② 14. 縫製③ 15. 資料づくり(A4ファイル)及び前期のまとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	資料提出(50%)、作品提出(50%)で評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	FHD基礎演習A						
担当教員	崔 童殷・笹崎 綾野						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション分野におけるアパレルの企画・設計・製作までの一連の過程を実践的に学ぶ。						
授業の概要	<p>FHD基礎演習A・Bでは、2クラスに分かれ、前・後期で一貫した内容を履修する。ファッション領域では、デザイン・設計製作に関わる「モノのデザイン」、仕組みづくりに関わる「コトのデザイン」について捉え、ファッションにおけるデザイン思考・設計製作・ビジュアルマーチャンダイジング(VMD)・販売・売上げまでの一連の過程を実践的に学ぶ。</p> <p>前期は、「モノのデザイン」について重点的に学び、エコバックのデザインと設計製作を行う。デザインでは、イメージを表現し、形にするプロセスを学び、特に、イメージしたテキストの柄をデザインすることを目的にする。イメージしているテキストの柄はIllustrator, Photoshopなどのデザインソフトを用いてデザインし、生地メディアでプリントしオリジナルのデザインを完成する。設計製作では、デザインしたテキストを用い、使い手(購入者)の年齢や性別、使用目的や使用感を考慮しつつ、デザインにそった設計や製作を試みる。さらに、企画書、アイテム画、素材、縫製事項、寸法を記した縫製仕様書、製作時間や材料費などのコストを算出した資料をA4ファイルにまとめ、後期授業の資料とする。</p>						
到達目標	アパレルの企画、設計、生産までの工程を理解し、実践できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. モノづくりの考え方及び企画書づくり 3. モノづくりのイメージーション 4. エコバックをデザインする 5. テキスタイルデザインに挑戦 6. Illustrator, Photoshopを使った柄のデザイン 7. Illustrator, Photoshopを使った柄のデザイン 8. デザイン加工及び生地メディアにプリント 9. 縫製仕様書づくりと用具の使い方(ミシン、アイロン) 10. エコバックの設計と型紙づくり 11. 布の裁断、印しつけ 12. 縫製① 13. 縫製② 14. 縫製③ 15. 資料づくり(A4ファイル)及び前期のまとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	資料提出(50%)、作品提出(50%)で評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	FHD基礎演習A						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ハウジング領域（インテリア、住居、まちづくりの三分野）に関わる専門科目入門についての基礎的な知識を習得する演習である。と同時に、それがキャリアにどのように関係しているのか、おおよそを理解する。						
授業の概要	4年間のハウジング領域で学ぶ専門科目のなかで最も基礎の導入を行なう演習科目で、その重要性からして必修科目として位置づけている。授業概要については、まず前期の基礎演習Aでは、ガイダンス、領域での学習内容やキャリアについて概説し学生からの発表・意見交換を行なう、ついで住空間のデザインについて調査の方法と現地調査を含めた発表、そしてグループでのまちづくりゲームや簡単な図形を書くなどである。後期の基礎演習Bについては、インテリアデザインの考え方や見学と調査発表、ついでハウジング領域での辞書作りと居住史の発表、そしてまちづくりの風景を描き美しいまちとは何かを考えるなどある。以上盛り沢山であるが、専任教員三人で各演習A、Bともに5コマずつオムニバス形式で担当する。						
到達目標	これから4年間で学ぶ専門教育の内容を知り、その基礎的キーワードや概念を掴む。それと自分の進む道とを結びつけて考えるきっかけを掴む。						
授業計画	<p>以下増永担当</p> <p>第1回 基礎演習A、B通してのガイダンス（演習の目的、各5コマでの学びの概説）</p> <p>第2回 ハウジング分野の学びの広がりや深さ（大まかに各分野を理解する、課題を出す）</p> <p>第3回 課題の発表と意見交換</p> <p>第4回 ハウジング領域のキャリアについて8重要性を知る、自分のことであり考え始める、課題を出す）</p> <p>第5回 課題の発表と意見交換</p> <p>以下米原担当</p> <p>第6回 ガイダンス、レポート課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書の探し方、</p> <p>第7回 住空間の魅力（スライドレクチャー）</p> <p>第8回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート</p> <p>第9回 第2課題の見学先に関する資料収集（文献、WEB）、レポート作成</p> <p>第10回 第2課題の発表と講評</p> <p>以下中林担当</p> <p>第11回クイズ・世界の都市/美術史概観（作業と基礎知識が並行してすすみます）</p> <p>第12回話しあいによる「迷宮の建設」？/美術史4区分</p> <p>第13回アイスブレイク各種/印象派とはなにか</p> <p>第14回大きなリングの木を書いてみよう/風景画の楽しみ</p> <p>第15回ちょっとした模写/北斎はすごい</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回違った分野の教員の講義であるが、まずは出席し自分の将来や専門分野の基礎の基礎であり、課題を真面目に取り組むことが大事である。また、関連の分野について、ウェブなどで調べ、積極的に質問すると、一層理解が進む。						
授業方法	演習であり、現地や図書館、ウェブなどで調査し発表し意見交換するといった双方向で学んでいく						
評価基準と評価方法	各教員ごとに評価（レポートや調査発表など（半分くらい）と出席状況（半分くらい）しそれを総合して個々の人の評価にする。						
教科書	なし。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	FHD基礎演習A						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ハウジング領域（インテリア、住居、まちづくりの三分野）に関わる専門科目入門についての基礎的な知識を習得する演習である。と同時に、それがキャリアにどのように関係しているのか、おおよそを理解する。						
授業の概要	4年間のハウジング領域で学ぶ専門科目のなかで最も基礎の導入を行なう演習科目で、その重要性からして必修科目として位置づけている。授業概要については、まず前期の基礎演習Aでは、ガイダンス、領域での学習内容やキャリアについて概説し学生からの発表・意見交換を行なう、ついで住空間のデザインについて調査の方法と現地調査を含めた発表、そしてグループでのまちづくりゲームや簡単な図形を書くなどである。後期の基礎演習Bについては、インテリアデザインの考え方や見学と調査発表、ついでハウジング領域での辞書作りと居住史の発表、そしてまちづくりの風景を描き美しいまちとは何かを考えるなどある。以上盛り沢山であるが、専任教員三人で各演習A、Bともに5コマずつオムニバス形式で担当する。						
到達目標	これから4年間で学ぶ専門教育の内容を知り、その基礎的キーワードや概念を掴む。それと自分の進む道とを結びつけて考えるきっかけを掴む。						
授業計画	<p>以下増永担当</p> <p>第1回 基礎演習A、B通してのガイダンス（演習の目的、各5コマでの学びの概説）</p> <p>第2回 ハウジング分野の学びの広がりや深さ（大まかに各分野を理解する、課題を出す）</p> <p>第3回 課題の発表と意見交換</p> <p>第4回 ハウジング領域のキャリアについて8重要性を知る、自分のことであり考え始める、課題を出す）</p> <p>第5回 課題の発表と意見交換</p> <p>以下米原担当</p> <p>第6回 ガイダンス、レポート課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書の探し方、</p> <p>第7回 住空間の魅力（スライドレクチャー）</p> <p>第8回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート</p> <p>第9回 第2課題の見学先に関する資料収集（文献、WEB）、レポート作成</p> <p>第10回 第2課題の発表と講評</p> <p>以下中林担当</p> <p>第11回クイズ・世界の都市/美術史概観（作業と基礎知識が並行してすすみます）</p> <p>第12回話しあいによる「迷宮の建設」？/美術史4区分</p> <p>第13回アイスブレイク各種/印象派とはなにか</p> <p>第14回大きなリングの木を書いてみよう/風景画の楽しみ</p> <p>第15回ちょっとした模写/北斎はすごい</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回違った分野の教員の講義であるが、まずは出席し自分の将来や専門分野の基礎の基礎であり、課題を真面目に取り組むことが大事である。また、関連の分野について、ウェブなどで調べ、積極的に質問すると、一層理解が進む。						
授業方法	演習であり、現地や図書館、ウェブなどで調査し発表し意見交換するといった双方向で学んでいく						
評価基準と評価方法	各教員ごとに評価（レポートや調査発表など（半分くらい）と出席状況（半分くらい）しそれを総合して個々の人の評価にする。						
教科書	なし。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	FHD基礎演習B						
担当教員	中村 茂・徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ビジュアルマーチャンダイジング(VMD)・販売・売上げ・販売活動の促進に至るまでの一連の過程を実践的に学ぶ。						
授業の概要	FHDデザイン基礎演習Bでは、ファッション領域における学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、前期と同じ2クラスに分かれて7回ずつ演習を行う。最後は、プレゼンテーション能力を養う。 ・前期に制作したエコバックを松蔭祭で販売するために必要なセールスプロモーションツールとして、フライヤー(A4)と展示ディスプレイプラン(A3×2)を各グループで制作する。(中村) ・松蔭祭で販売した売上高と達成率の計数管理を習得するとともに購買時の消費者行動を読み取る。前期から学んだ一連の過程をグループごとにPower Pointでまとめる。(徳山)						
到達目標	ファッション領域において物づくりから販売までのプロセスを理解し、分析力、表現力、デザイン力、文章力のスキルが身に付いた。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション セールスプロモーション課題(フライヤー・ディスプレイ)概要説明 2. フライヤー制作要件・プロセスについて(目的、情報、ヴィジュアル、レイアウト、キャッチコピー) 3. ディスプレイ構成・演出について(VMD概要、展示空間、ディスプレイ演出、POP) 4. グループ構想・制作(グループ作業) 5. グループ案プレゼン(フライヤー・ディスプレイ案をpptで説明) 6. フライヤー印刷・ディスプレイ準備(展示レイアウト・セールスプロセスシミュレーション) 7. 予備日(松蔭祭:2・3日) 8. 販売した売上高と達成率の計算 9. 販売時の消費者行動を分析・考察 10. 各グループにて前期からの学びを理解し、今後の企画を提案 11. 各自にて前期からの学びをレポート 12. Power Pointの練習および発表資料の制作 13. 発表資料の制作 14. プレゼンテーションⅠ:各グループにて発表 15. プレゼンテーションⅡ:各グループにて発表 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	提出物60%、発表40%						
教科書	プリントを配布						
参考書	授業中に紹介						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	FHD基礎演習B						
担当教員	中村 茂・徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ビジュアルマーチャンダイジング(VMD)・販売・売上げ・販売活動の促進に至るまでの一連の過程を実践的に学ぶ。						
授業の概要	FHDデザイン基礎演習Bでは、ファッション領域における学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、前期と同じ2クラスに分かれて7回ずつ演習を行う。最後は、プレゼンテーション能力を養う。 ・前期に制作したエコバックを松蔭祭で販売するために必要なセールスプロモーションツールとして、フライヤー(A4)と展示ディスプレイプラン(A3×2)を各グループで制作する。(中村) ・松蔭祭で販売した売上高と達成率の計数管理を習得するとともに購買時の消費者行動を読み取る。前期から学んだ一連の過程をグループごとにPower Pointでまとめる。(徳山)						
到達目標	ファッション領域において物づくりから販売までのプロセスを理解し、分析力、表現力、デザイン力、文章力のスキルが身に付いた。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション セールスプロモーション課題(フライヤー・ディスプレイ)概要説明 2. フライヤー制作要件・プロセスについて(目的、情報、ヴィジュアル、レイアウト、キャッチコピー) 3. ディスプレイ構成・演出について(VMD概要、展示空間、ディスプレイ演出、POP) 4. グループ構想・制作(グループ作業) 5. グループ案プレゼン(フライヤー・ディスプレイ案をpptで説明) 6. フライヤー印刷・ディスプレイ準備(展示レイアウト・セールスプロセスシミュレーション) 7. 予備日(松蔭祭:2・3日) 8. 販売した売上高と達成率の計算 9. 販売時の消費者行動を分析・考察 10. 各グループにて前期からの学びを理解し、今後の企画を提案 11. 各自にて前期からの学びをレポート 12. Power Pointの練習および発表資料の制作 13. 発表資料の制作 14. プレゼンテーションⅠ:各グループにて発表 15. プレゼンテーションⅡ:各グループにて発表 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	提出物60%、発表40%						
教科書	プリントを配布						
参考書	授業中に紹介						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	FHD基礎演習B						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ハウジング領域（インテリア、住居、まちづくりの三分野）に関わる専門科目入門についての基礎的な知識を習得する演習である。と同時に、それがキャリアにどのように関係しているのか、おおよそを理解する。						
授業の概要	4年間のハウジング領域で学ぶ専門科目のなかで最も基礎の導入を行なう演習科目で、その重要性からして必修科目として位置づけている。授業概要については、まず前期の基礎演習Aでは、ガイダンス、領域での学習内容やキャリアについて概説し学生からの発表・意見交換を行なう、ついで住空間のデザインについて調査の方法と現地調査を含めた発表、そしてグループでのまちづくりゲームや簡単な図形を書くなどである。後期の基礎演習Bについては、インテリアデザインの考え方や見学と調査発表、ついでハウジング領域での辞書作りと居住史の発表、そしてまちづくりの風景を描き美しいまちとは何かを考えるなどある。以上盛り沢山であるが、専任教員三人で各演習A、Bともに5コマずつオムニバス形式で担当する。						
到達目標	これから4年間で学ぶ専門教育の内容を知り、その基礎的キーワードや概念を掴む。それと自分の進む道とを結びつけて考えるきっかけを掴む。						
授業計画	<p>以下米原担当</p> <p>第1回 ガイダンス、インテリアデザインの考え方、課題「インテリアエレメントの研究」の説明</p> <p>第2回 文献およびWEBによるリサーチ、レポート作成</p> <p>第3回 インテリアショップの見学（時間振替えて引率）</p> <p>第4回 レポート課題の発表と講評、手直し・追加調査の指示</p> <p>第5回 レポートの手直しとまとめ</p> <p>以下増永担当</p> <p>第6回ハウジングデザインとは何か</p> <p>第7回ハウジング用語を覚えよう（1）</p> <p>第8回ハウジング用語を覚えよう（2）</p> <p>第9回 私の居住史を振り返る（1）</p> <p>第10回私の居住史を振り返る（2）</p> <p>以下中林担当</p> <p>第11回復習・19世紀の社会/正三角形で立体を描く</p> <p>第12回模写1・木を描いてみよう</p> <p>第13回模写2・町並みを描いてみよう</p> <p>第14回模写3・色も塗ってみよう</p> <p>第15回美しい町とはどんなものか</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回違った分野の教員の講義であるが、まずは出席し自分の将来や専門分野の基礎の基礎であり、課題を真面目に取り組むことが大事である。また、関連の分野について、ウェブなどで調べ、積極的に質問すると、一層理解が進む。						
授業方法	演習であり、現地や図書館、ウェブなどで調査し発表し意見交換するといった双方向で学んでいく						
評価基準と評価方法	各教員ごとに評価（レポートや調査発表など（半分くらい）と出席状況（半分くらい）しそれを総合して個人の評価にする。						
教科書	なし。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	FHD基礎演習B						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ハウジング領域（インテリア、住居、まちづくりの三分野）に関わる専門科目入門についての基礎的な知識を習得する演習である。と同時に、それがキャリアにどのように関係しているのか、おおよそを理解する。						
授業の概要	4年間のハウジング領域で学ぶ専門科目のなかで最も基礎の導入を行なう演習科目で、その重要性からして必修科目として位置づけている。授業概要については、まず前期の基礎演習Aでは、ガイダンス、領域での学習内容やキャリアについて概説し学生からの発表・意見交換を行なう、ついで住空間のデザインについて調査の方法と現地調査を含めた発表、そしてグループでのまちづくりゲームや簡単な図形を書くなどである。後期の基礎演習Bについては、インテリアデザインの考え方や見学と調査発表、ついでハウジング領域での辞書作りと居住史の発表、そしてまちづくりの風景を描き美しいまちとは何かを考えるなどある。以上盛り沢山であるが、専任教員三人で各演習A、Bともに5コマずつオムニバス形式で担当する。						
到達目標	これから4年間で学ぶ専門教育の内容を知り、その基礎的キーワードや概念を掴む。それと自分の進む道とを結びつけて考えるきっかけを掴む。						
授業計画	<p>以下米原担当</p> <p>第1回 ガイダンス、インテリアデザインの考え方、課題「インテリアエレメントの researched」の説明</p> <p>第2回 文献およびWEBによるリサーチ、レポート作成</p> <p>第3回 インテリアショップの見学（時間振替えて引率）</p> <p>第4回 レポート課題の発表と講評、手直し・追加調査の指示</p> <p>第5回 レポートの手直しとまとめ</p> <p>以下増永担当</p> <p>第6回ハウジングデザインとは何か</p> <p>第7回ハウジング用語を覚えよう（1）</p> <p>第8回ハウジング用語を覚えよう（2）</p> <p>第9回 私の居住史を振り返る（1）</p> <p>第10回私の居住史を振り返る（2）</p> <p>以下中林担当</p> <p>第11回復習・19世紀の社会/正三角形で立体を描く</p> <p>第12回模写1・木を描いてみよう</p> <p>第13回模写2・町並みを描いてみよう</p> <p>第14回模写3・色も塗ってみよう</p> <p>第15回美しい町とはどんなものか</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回違った分野の教員の講義であるが、まずは出席し自分の将来や専門分野の基礎の基礎であり、課題を真面目に取り組むことが大事である。また、関連の分野について、ウェブなどで調べ、積極的に質問すると、一層理解が進む。						
授業方法	演習であり、現地や図書館、ウェブなどで調査し発表し意見交換するといった双方向で学んでいく						
評価基準と評価方法	各教員ごとに評価（レポートや調査発表など（半分くらい）と出席状況（半分くらい）しそれを総合して個人の評価にする。						
教科書	なし。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学I (被服構成)						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アパレル生産プロセスや人間と衣服構成の関係を理解する						
授業の概要	この授業では、衣服の構成に関する根本的な事項の理解を促す。生産方式などによる衣服の分類、人体計測、原型の種類と参考寸法、原型とパターンの作図、パターンメイキング手法、部位の名称などの衣服構成に必要な基本要素について概説する。さらに、生地や紙などで身の回りにある立体物を包み、それを平面に展開し、構造を確認する作業からどのようなラインがどのようなフォルムになるのか、といった立体と平面との関係を捉えさせ、身体を包みこむ衣服のパターンと比較、分析させる。						
到達目標	人間を衣服との関係または糸や織物の生産プロセスおよび服の構造を理解する						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . 授業全般に関するオリエンテーション 2 . 衣服の定義、衣服構成に必要な基本要素に関する理解。 3 . 人体尺度と衣服寸法との関係 4 . 人間の造形的特性、外形、体表区分などの理解 5 . 人体骨格、筋肉の構造 6 . 各種身体計測法…マルチン計測法他 7 . 人体の形体と衣服設計 (衣服設計時考慮すべき人体特性及び動作適合性との関係把握) に関して説明する。 8 . 衣服製作およびアパレル生産システムの理解 9 . 体表の平面展開と衣服パターン 10 . 衣服原型の作図① (身頃原型、袖原型) 11 . 衣服原型の作図② (スカート原型) 12 . 衣服原型の展開 13 . ファッション素材の企画 (素材企画の概念と特性の理解、情報収集の必要性およびマーケットリサーチ過程) 14 . 縫製及び仕上げに関する理解 (ミシンとステッチの種類および仕上げ) 15 . 授業のまとめ、評価、試験：前期の内容を見直し復習する。 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	糸や織物、人間と服に関係する資料を調べ、参考にすること。						
授業方法	配布プリント、スライドの内容にそって講義する。						
評価基準と評価方法	発表、レポート、試験、出席状況を加味する。						
教科書	アパレル設計・生産論 Clothing Construction 社団法人 日本衣料管理協会						
参考書	授業中に紹介						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学II (材料)						
担当教員	横山 早美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活を支える被服材料の性能を学ぶ						
授業の概要	布(繊維集合体)は、繊維、空気、水分から成る複合材料である。繊維の性質と集合体構造により決定される布の性質が被服材料としての要求性能を満足していることを理解する。現代の衣生活を支える被服材料の歴史、多種多様な材料と性能、被服の目的・用途に応じた最適材料の選択、素材から一次・二次製品への過程、繊維製品の組織、製造法、加工法などについて、日常生活の衣料の選択、使用、管理の場でこうした知識を応用、発展させることにより衣生活をより豊かなものにするのを期待する。						
到達目標	被服材料(素材)の種類についての知識を学びます。簡単な実験も加えながらわかり易くそして実生活に役立つ内容です。次に、人間の生理機能から求められる被服材料(素材)の性能について考えていきます。						
授業計画	第1回：被服材料とは 第2回：被服材料の性能と特徴(天然繊維；綿繊維について) 第3回：被服材料の性能と特徴(天然繊維；麻繊維について) 第4回：被服材料の性能と特徴(天然繊維；毛繊維について) 第5回：被服材料の性能と特徴(天然繊維；絹繊維について) 第6回：被服材料の性能と特徴(化学繊維について) 第7回：被服材料の性能と特徴(再生繊維；レーヨンについて) 第8回：被服材料の性能と特徴(再生繊維；キュプラ・ポリノジックについて) 第9回：被服材料の性能と特徴(半合成繊維；アセテートについて) 第10回：被服材料の性能と特徴(合成繊維；ナイロンについて) 第11回：被服材料の性能と特徴(合成繊維；ポリエステルについて) 第12回：被服材料の性能と特徴(合成繊維；アクリルについて) 第13回：被服材料に要求される性能(人間の生理機能から考える) 第14回：被服材料の性能改善と新素材 第15回：まとめ・期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容)	見学等は実施しません。						
授業方法	講義では、スライドやビデオを使用し、わかりやすい内容に工夫します。						
評価基準と評価方法	試験(70%)、授業中課題・小テスト(30%)						
教科書	毎回の講義中で資料を配布します。						
参考書	日下部信幸著；生活のための被服材料学 家政教育社						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学III (管理・衛生)						
担当教員	横山 早美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活を支える被服材料の管理と衛生を学ぶ						
授業の概要	衣服はヒトの身体を気候の変化から保護する基本的な機能を果たす。ヒトの皮膚や体温の生理的機能と温度・湿度、被服材料の性質の関係に基づき、快適、衛生的で効率的な衣生活のための被服管理と被服衛生について、被服の洗浄と洗剤、洗濯機と洗濯の条件、漂白・しみ抜き、洗濯後の仕上げと保存、繊維製品の取り扱い、被服の衛生的条件、被服による気候調節、被服の熱的・水分性能と保温性・快適性、被服の運動機能性、被服の安全性などの基礎を学ぶ。						
到達目標	新品の洋服も着用、洗濯（クリーニング）、収納（管理）を繰り返えし、いつかは廃棄やリサイクル等によって手元からなくなります。本講義では、主に洗濯による被服の消耗について科学的な視点から学び、普段の衣生活に役立つ学びを目標とします。						
授業計画	第1回 被服管理・衛生について「洗濯は、なぜ必要か」 第2回 被服の汚れ 「汚れの種類・性質・付着機構」 第3回 汚れの除去 「汚れを除去する材料（洗濯用水）について」 第4回 汚れの除去 「汚れを除去する材料（洗剤）について」 第5回 汚れの除去 「汚れを除去する材料（洗濯方式）について」 第6回 洗浄機構 「洗剤による汚れ除去機構（水系①）」 第7回 洗浄機構 「洗剤による汚れ除去機構（水系②）」 第8回 洗浄機構 「洗剤による汚れ除去機構（非水系）」 第9回 洗浄力試験法 「洗浄力試験と評価」 第10回 漂白と増白 「漂白剤の種類とその作用」 第11回 しみ抜き 「しみ抜きの原理と除去方法について」 第12回 被服の仕上げ 「糊付けと柔軟仕上げ」 第13回 被服の保管 「保管中の損傷の種類とその原因」 第14回 被服の保管 「保管中の保存法」 第15回 まとめ・期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学等における授業は実施致しません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート・小テスト（30%）と期末テスト（70%）の総合評価です。						
教科書	毎回の講義で資料を配布します。						
参考書	吉永フミ, 多田千代, 西出伸子 共著: 新版 被服整理学 その実践: 光生館 中西茂子, 岩崎芳枝, 斉藤昌子, 他2名 : 被服整理学 : 朝倉書店						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	川嶋 守彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	絵画を基本にしたイメージング方法の研究とその実践。						
授業の概要	アート、とりわけ絵画には言葉や言語を介さずに自らのイメージの持つ力で他者とのコミュニケーションの可能性を示すものであり、日々の会話やジェスチャーと同じ表現の一形態にすぎません。その具体的表現方法を当実習を通して楽しみながら学びます。簡単なデッサンから始め、着彩、構図、画面構成、発想法。最終課題の自由制作へ授業は進んでいきます。また着想の仕方や構想の展開を絵画のみにとらわれず、あらゆる表現形態や可能性を模索し、毎回設定されたテーマから体験していきます。						
到達目標	作品の実製作を通して物や現象と向き合いイメージを定着するという体験をし、各自の個性に丁寧に向き合いながら独自の発想法の確立と、あらゆる表現に履修者が積極的に関わられることを目的としています。						
授業計画	第1回 ガイダンス (授業内容の説明) 第2回 石膏デッサン (簡単な幾何模型を用いたデッサン) 第3回 石膏デッサン 第4回 静物デッサン (身の回りの物をモチーフとしたデッサン) 第5回 静物デッサン 第6回 彩色画 (アクリル絵具による静物画) 第7回 彩色画 第8回 イメージの抽象化 (静物画をもとにした抽象化の考察) 第9回 半分名画 (名画から発想する絵画) 第10回 10のインスピレーション (10パターンのイメージング) 第11回 イメージの発見、発掘 (カメラを使った制作) 第12回 アートを観賞する (美術施設へのアートの見学) 第13回 自由制作構想 (各自がテーマを見つけ出し具体化の構想を練る) 第14回 自由制作 (自らが見つけたテーマで制作) 第15回 自由制作 (自らが見つけたテーマで制作とその講評)						
授業外における学習 (準備学習の内容)	第12回 アートを観賞する (美術施設へのアート見学) については美術展の営業時間内、展示期間中に見学できない場合や県外への美術展には授業日以外の日を設定する場合があります。(施設観賞料金、交通費は各自の負担となる)						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	出題テーマに対する理解、応用、技術、発想力、熱心さ (受講姿勢)、出席日数 (10回以上の出席) をトータルで判断。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	イメージに基づいた平面から立体への造形						
授業の概要	<p>本科目では、デザインイメージの発想法とそのイメージを形にする手法をファッション領域の実習形式で習得し、イメージを基に衣服をデザインし、立体裁断法で試作・製作することを目的とする。</p> <p>実習内容として、まず、イメージを基に造形する方法について、ファッションデザイナーの事例から学ぶ。次に、デザインの題材(テーマ)を決定し、それについてスタイル画の上にマーカ―や布などの自由な素材でデザインを描き、イメージに基づいたデザイン発想の訓練を行う。その平面上のデザインを基に、ハーフサイズボディで立体的にイメージを構築し、平面から立体への形の変化とイメージを立体化する方法について学ぶ。最後に、実物大ボディの上に造形し、作品を仕上げる。ここでは、各々のテーマにそって製作を行う為、デザインテーマ、デザイン画、試作品、実物作品を写真資料としてファイリングし、授業内容をまとめる。</p>						
到達目標	イメージにそった立体の衣服造形ができる。また、アイロンのかけ方(地の目直し)、ミシン・ロックミシンの正しい使い方を習得できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとアイロン、ミシンなど用具の使い方を学ぶ。 2. デザイン発想法① コレクション雑誌から好きなデザイナーを3名取り上げ、発想イメージ、イメージがどのように造形されているか、テイスト分類、色彩、素材、シルエットについてまとめる。 3. デザイン発想法② A4ファイルにまとめる。 第4回にむけて、テーマを決め、イメージボードに使う写真や雑誌を持参する。 4. テーマ設定 イメージボード作成 5. デザイン画① 衣服のベースの形は指定する。デザイン画には、ベースの形は書いてある。その上に、テーマやイメージにそった絵を描いたりや布で装飾する(コラージュのように作る)。デザインに用いる副資材を準備する。 6. ハーフサイズボディで試作する 7. 立体裁断① 前身頃(ワンピース) 8. 立体裁断② 後身頃(ワンピース) 9. 実物製作① 裁断、印し付け 10. 実物製作② 縫製 11. 実物製作③ 装飾、造形 12. 実物製作④ 装飾、造形 13. 資料制作① イメージボード、デザイン画を縮小コピーする。 14. 資料制作② 15. まとめと発表 作品発表・講評会を行う。 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業後学習：授業内で製作課題が終わらない学生は、次回の授業までに終わらせる。						

授業方法	実習
評価基準と評価方法	実物作品（70%）、資料ファイル（30%）で評価する。
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「パソコン・グラフィック・アートの制作」						
授業の概要	パソコンのグラフィックソフトの入門として、フライヤーやグリーティングカードの制作を課題とする基礎実習を行う。文字や基本図形、画像などのオブジェクト入力、移動・回転・拡大縮小などの基本操作を習得するとともに、素材集やオンラインのクリップアートを活用したデザイン方法を習得する						
到達目標	グラフィックソフトの基本操作を習得し、簡単なグラフィックアート作品を制作できる。						
授業計画	1 : オリエンテーション - システムの使い方、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインについて - 2 : Illustratorの基本操作 3 : タイポグラフィ・デザイン - 1 - 4 : タイポグラフィ・デザイン - 2 - 5 : ピクトグラム・デザイン - 1 - 6 : ピクトグラム・デザイン - 2 - 7 : ダイアグラム・デザイン 8 : Photoshopの基本操作 - 1 - 9 : タイポグラフィ中心のポスター 10 : ピクトグラムを活用したポスター 11 : Photoshopの基本操作 - 2 - 12 : 画像を効果的に構成したポスター 13 : リーフレット・デザイン - 1 - 14 : リーフレット・デザイン - 2 - 15 : 作品講評						
授業外における学習(準備学習の内容)	日常的に関心を持ってグラフィックソフトのアート作品のデザインを見る習慣を心がける。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	提出作品70%、平常点30%で評価します。						
教科書	特に教科書は指定しません。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	中村 博明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	ものに対する想いを育む。						
授業の概要	デザインスキル能力向上の一部として、ごく身近なファッションやインテリア関連小物の制作を行なう。イメージやコンセプトを具体的な物として実現するプロセスに習熟すると同時に、実際に制作することを通して“もの”あるいは素材に対する想いを育むことを目的とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージをラフスケッチから図面、現物へと次第に具体化していく技術の習得 ・細部（ディテール）の重要さの理解 ・デザインの定石の習得 ・工作技術の習得 						
授業計画	<p>第1回：授業の内容・目標の説明。石ころや雑草をよく観察して細密な絵を描く。</p> <p>第2回：木と他素材（真鍮、アクリ等）を組合わせて作るペンダント等のデザインをする。</p> <p>第3回：ペンダントの制作（図面作成）</p> <p>第4回：ペンダントの制作（部品制作）</p> <p>第5回：ペンダントの制作（組み立て）</p> <p>第6回：ペンダントの制作（整形）</p> <p>第7回：ペンダントの制作（仕上げ）</p> <p>第8回：ケント紙と特殊塗装で作る小箱のデザインをする。</p> <p>第9回：小箱の製作（図面作成）</p> <p>第10回：小箱の制作（部品型紙作成）</p> <p>第11回：小箱の制作（部品制作）</p> <p>第12回：小箱の制作（組み立て）</p> <p>第13回：小箱の制作（整形）</p> <p>第14回：小箱の制作（塗装下地）</p> <p>第15回：小箱の制作（仕上げ）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・感動する気持ちを持って、身のまわりのあらゆる物をよく見る。 ・自分の気に入ったものを自主的にスケッチやデッサンし、手がデザインの道具になるよう練習しておく。 						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	各課題作品の評価：70%、制作態度：30% 欠席は減点対象とする。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	ファッションイラストの基礎スキルをマスターする						
授業の概要	ファッションデザインでは、身体の立体感やプロポーション、動きを理解することが重要である。ここでは、ファッションデザイン（ファッションおよびテキスタイルデザイン）に必要なスキルを身につけるとともに人物デッサン、クロッキー、描画テクニックなどファッション・ドローイングの基本となる実習を行う。また、マーカーやパステル、水彩、アクリルなど各種画材の特性を把握させ、衣服のフォルム、色彩、素材感、バランスなどを表現する描写テクニックを養成する。最終的に、イメージしたデザインを最も効果的に現す技術の習得を目標とする。						
到達目標	ファッションデザイン画を基本から作品作りまでに到達する						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「授業の進め方及び方針の説明」 2. 物体の観察及びデッサン線の練習 3. 明暗・立体感の表現 4. 人体のプロポーション及び動きの理解 5. 人物デッサン①（顔・手・足など） 6. 人物デッサン②（ポーズ） 7. 人物デッサン③（クロッキー） 8. 衣服の表現①（ハンガーイラスト） 9. 衣服の表現②（ハンガーイラスト） 10. テキスタイルの風合いや柄の表現① 11. テキスタイルの風合いや柄の表現② 12. 彩色（色鉛筆） 13. 彩色②（マーカー） 14. 作品制作 15. 作品完成及び発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	身の回りの物をドローイングする練習をすることとファッション雑誌のスタイルを分析する練習をすると役に立つ。						
授業方法	毎回、プリントを配布する。そのプリントに添って実習する。						
評価基準と評価方法	作品提出（40%）およびレポート（30%）、作品発表（30%）を加味する。						
教科書	プリントを配布します。参考書は、授業中に紹介。						
参考書	クロッキー帳またはスケッチブック、ボード、絵具（色鉛筆、マーカー）などを準備すること						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	パソコングラフィックによるヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン						
授業の概要	パソコンのグラフィック・ソフトを利用したヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎実習を行います。タイポグラフィ、ピクトグラム、ダイアグラムなどの視覚言語の要素的性質を理解し、実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定したポスター、リーフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれた美的なイメージをデザインできることを目標とします。						
到達目標	タイポグラフィ、レイアウトデザインの要点を理解し、簡単なエディトリアル作品を制作できる。						
授業計画	1 : オリエンテーション - システムの使い方、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインについて 2 : Illustratorの基本操作 3 : タイポグラフィ・デザイン - 1 - 4 : タイポグラフィ・デザイン - 2 - 5 : ピクトグラム・デザイン - 1 - 6 : ピクトグラム・デザイン - 2 - 7 : ダイアグラム・デザイン 8 : Photoshopの基本操作 - 1 - 9 : タイポグラフィ中心のポスター 10 : ピクトグラムを活用したポスター 11 : Photoshopの基本操作 - 2 - 12 : 画像を効果的に構成したポスター 13 : リーフレット・デザイン - 1 - 14 : リーフレット・デザイン - 2 - 15 : 作品講評						
授業外における学習(準備学習の内容)	日常的に目にするリーフレット、パンフレットなどのエディトリアルデザインに関心を持つ。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	提出作品を評価します。						
教科書	特に教科書は指定しません。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	吉田 文男						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	生活空間を立体的に掌握する						
授業の概要	デザイン関連の基礎学習として、空間認識向上面で製図とは異なった意味で模型制作は重要であり、特にハウジング分野では習熟すべき不可欠のスキルである。本実習では2年次以降の多様な模型制作のスタートとしてあるいはパソコンによるCGなどでは表現しにくい空間イメージ掌握を目的に、初歩的な模型制作を行う。実習内容は、模型制作の意味の解説と材料や実際の模型作品の紹介から始めて、インテリアと家具模型、住居、店舗などを紙やスチレンボードなどの材料で制作していく。						
到達目標	建築主に住宅を分かり易く説明するツールとしての模型を作成するにあたって、多種にわたる模型の表現方法や材料等を実際に組み立て制作するうえで、基本となる技法を学ぶ。						
授業計画	第1回 建築模型制作の基礎についてのガイダンス 第2回 実習課題1「サイコロ模型の制作」 第3回 実習課題2「茶室の起し絵模型の制作」課題説明と模型制作 その1 第4回 実習課題2 模型制作 その2 第5回 実習課題3「木構造軸組模型制作」課題説明と模型制作 その1 第6回 実習課題3 模型制作 その2 第7回 実習課題3 模型制作 その3 第8回 実習課題3 模型制作 その4 第9回 実習課題3 模型制作 その5 模型完成、及び提出 第10回 実習課題3 模型制作 その6 第11回 実習課題3 模型制作 その7 完成、提出 第12回 実習課題4「小住宅(別荘)」課題説明と模型制作 その1 第13回 実習課題4 模型制作 その2 第14回 実習課題4 模型制作 その3 第15回 実習課題5 模型作品の発表と講評会。						
授業外における学習(準備学習の内容)	次回の授業内容を事前に伝えますので、教科書を事前に目を通しておくこと。 模型は完成すれば大きな達成感が得られます。丁寧に作ろうとすればその分どうしても時間がタイトになりがちです。次回の実習までに少しでも時間が取れば、授業時間以外にも制作を進めることで、実習がより楽しくなります。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常の課題提出と最終課題の出来映えに、平常点である受講態度等を加味して総合的に判断をする。実習であり、課題は出席して授業時間に説明を聞かないと作業は進めない。故に欠席は減点とする。(評価比率: 平常課題40%、最終課題30%、平常点30%)						
教科書	[模型で学ぶ] 建築構法入門 在来木造編 改訂版 井上書院 ISBN978-4-7530-1618-1						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリアデザインの基礎的な表現図法を学ぶ。						
授業の概要	<p>インテリアスペースや住空間をデザインするためには、製図板やCADでの製図をする前や合間に、頭に描いたイメージをまず、手描きのドローイングでスケール感やプロポーションをできるだけ正しくとらえ、表現してみることが重要である。この授業では、平面図・立面図・断面図といった二次元の図法や、アイソメトリック、アクソメトリック、1点透視図法などの基本を学びながら、デザインに必要な様々なドローイングのスキルを身につけるための課題に取り組む。また課題の題材については、デザイン・リサーチを行って理解を深め、ドローイング課題とともに発表、講評する形式で授業をすすめる。</p> <p>キーワード：インテリアデザイン、表現図法、作品制作</p>						
到達目標	課題作品の制作を通し、インテリアデザインの基礎知識と手描きによる表現図法、プレゼンテーションの基本を習得する。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよびインテリアの考え方について。図法を用いた家具のスケッチの練習。</p> <p>第2回 様々な椅子のデザインを表現する。現物や模型を実測しながら、三面図と三次元の図法（アクソメ、アイソメ、キャビネット等）を用いたドローイングを描く。</p> <p>第3回 様々な椅子のドローイングに、着彩（色鉛筆）と文字による補足を加え、トータルにデザインを表現する。「一人暮らしのインテリア」課題説明。収納の考え方、デザインの方法を説明。</p> <p>第4回 システム収納家具を用いた各部収納をデザインする。</p> <p>第5回 収納デザインの発表。平面図の描き方解説。「一人暮らしのインテリア」課題平面図（スケルトン）のトレース。</p> <p>第6回 インテリアエレメントの配置、エスキース。</p> <p>第7回 平面図作成。</p> <p>第8回 展開図の描き方解説。展開図作成。</p> <p>第9回 平面図と展開図の描き込み、着彩。</p> <p>第10回 一点透視パースの描き方練習問題。</p> <p>第11回 一点透視パースの作成。</p> <p>第12回 各ドローイングのチェックと修正、補足。</p> <p>第13回 作成したドローイングをスキャナーで画像データ化し、パソコンでレイアウトする（Illustratorを使用）。</p> <p>第14回 Illustratorでドローイングに文字とインテリアエレメントの画像を加え、全体のレイアウトを整えて、プレゼンテーションボードに仕上げる。</p> <p>第15回 プレゼンテーションボードのチェックと修正。プリントアウトし、発表と講評を行なう。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	家具、建材のショールームなどの課題に関連する見学および専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自積極的に行なうこと。 (FHD基礎演習Bのハウジング領域のクラスで行う内容と連動するので、留意のこと)						
授業方法	実習						

評価基準と評価方法	平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。 (評価比率：小課題30%、最終課題作品40%、平常点30%)
教科書	プリントを配布する。
参考書	「インテリア・スケッチ Super トーク」(長谷川矩祥著、グラフィック社) その他推薦する本を授業中に紹介するので、各自参考にする本、住宅雑誌等を購入すること。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーIII (イメージリサーチ演習)						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	変化する社会に適応、街ゆく人のイメージリサーチとショップ選びのマーケティングリサーチを学ぶ。						
授業の概要	本稿では、「生活者」と「企業側」としての2つの側面を捉え、「ライフスタイルをつくる上げ実行できる生活者」と「その生活者のニーズに対応した業態化・商品化への動きを提案できる企業」の両側面からファッション・マーケティングを学ぶ。生活者のファッションチェック、流行色の取り入れ方をリサーチし、生活者のライフスタイルをまとめる。神戸・大阪の専門店・量販店・百貨店の店舗を比較し、生活者のファッションイメージを分析するとともにショップのリサーチを分析する。						
到達目標	ファッションの見方やイメージの捉え方を理解し、シーズンごとに流行を分析する力を養った。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (課題テーマ、方針・進め方の説明) : 各自、リサーチするショップを考える。 2. 私のファッションチェック 3. 流行色のフィールドを調査 4. 流行色のリサーチ結果をグラフ化し、分析 5. JR尼崎駅前「COCOE」のフィールド調査。JR尼崎駅前付近の街ゆく人のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチを実施。 6. JR尼崎駅前「COCOE」のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチをまとめる。 7. 阪急西宮ガーデンズのフィールド調査。阪急西宮ガーデンズ付近の街ゆく人のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチを実施。 8. 阪急西宮ガーデンズのイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチをまとめる。 9. 阪急西宮ガーデンズとJR尼崎駅前「COCOE」の比較検討をする。 10. 大阪(梅田)のフィールド調査。大阪駅(梅田)付近の街ゆく人のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチを実施。 11. 大阪(梅田)のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチをまとめる。 12. 三宮のフィールド調査。三宮駅付近の街ゆく人のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチを実施。 13. 三宮のイメージリサーチとショップのマーケティングリサーチをまとめる。 14. 大阪と三宮のイメージリサーチを比較する。 15. JR尼崎駅前「COCOE」と阪急西宮ガーデンズ、大阪と三宮のイメージリサーチを発表する。 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	レポート70%、発表30%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	杉原淳子著『ファッション・マーケティング』(嵯峨野書院)						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーIII (イメージリサーチ演習)						
担当教員	中林 浩						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>戸外に出て調査をしどんな風物・景観があるのかを図示する授業です。「デザインサーベイ」といってもいいかな。この授業が対象とする地域という対象は、多面的で豊かな内容をもちます。山があり川があり、お店や工場があり住宅があり、鉄道があり道路があります。自然物がそれぞれの法則で存在しているなかで、人間が生活をしています。まず、そういう基本的なことを体感することが大切です。それを図として表現する基礎を学びます。基本的な態度や技術を学ぶといってもひとつの授業です。たくさんのことはできません。ちょっとしたマッピングの練習といったところでしょうか。でも、みんなマップを書くのが苦手ですね。とくに簡略化することが。写真を撮ったり記述したり絵やマップにしあげます。これらを経て、都市やまちづくりへの興味を深めてもらいます。自分が体感したことを表現するには訓練がいるというのがわかるでしょう。あつ、そして調査中のハプニングにも期待します。だれかに話しかけられたとか、道に迷ってしまったとか。つまりそのときにしか起こらなかった記録が重要なのです。</p>						
授業の概要	【「授業のテーマ」参照、わたしにはこういうものをテーマ・概要・到達目標・授業方法というように細切れには書けないのです、思考が平板になってしまいます】						
到達目標	【「授業のテーマ」参照】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 リサーチの準備—なにを調べるのか 2 リサーチの準備—どこで調べるか 3 リサーチの準備—どのように調べるか 4 リサーチ1—踏査・メモ 5 リサーチ1—スケッチ・写真・マップ 6 かんたんまとめ 7 リサーチ2—踏査・メモ 8 リサーチ2—スケッチ・写真・マップ 9 かんたんまとめ 10 リサーチ3—踏査・メモ 11 リサーチ3—スケッチ・写真・マップ 12 まとめ作業—ややかんたんに 13 まとめ作業—くわしく 14 まとめ作業—完成1 15 まとめ作業—完成2 						
授業外における学習(準備学習の内容)	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。「やってみなければ分からない」という言葉は保守的な慣習を他人に強制する時に使用する(「マーフィの法則」より)。						
授業方法	【「授業のテーマ」参照】						
評価基準と評価方法	ほとんどを提出物によって採点する。参加の積極性を加味することもある。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーIII (イメージリサーチ演習)						
担当教員	増永 理彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	低層、中層、高層の典型的住宅地を現地調査などすることにより、日本の都市住宅の現状を知る						
授業の概要	阪神特に神戸地域で、低層戸建、中層そして高層集合住宅地の典型的事例を取り上げて、各種文献資料によりデザイン関連の知識を学習しさらに、実際各々の現地をデザインサーベイしまとめあげる。このことで、戸建住宅や中高層集合住宅に対する具体的デザインイメージ、あるいはコンセプトを掴む。						
到達目標	低層、中層、高層の各住まいの空間特徴とデザインする上での課題を掴み、自分の言葉で人に語れる						
授業計画	第1回 ガイダンス・・・演習の目的・意義、方法などの説明 第2回 低層戸建住宅（例えば舞多間、ワシントン村）・・・概要説明・発表のポイント 第3回 低層戸建住宅とは何か、各自図書館など資料・文献を調べた結果を発表 第4回 現地調査 第5回 現地調査結果の発表と討論 第6回 中層住宅：例えば、住吉（震災復興）、GH御影（団地再生）概要説明 第7回 中層住宅とは何か、各自図書館など資料・文献を調べた結果を発表 第8回 現地調査 第9回 調査結果の発表と討論 第10回 高層住宅：浜甲子園団地（団地再生）、ハット神戸（震災復興）概要説明 第11回 高層住宅とは何か、各自図書館など資料・文献を調べた結果を発表 第12回 現地調査 第13回 調査結果の発表と討論 第14回 高齢者向け集合住宅・・・概要説明・発表のポイント 第15回 高齢者住宅とは何か、各自図書館など資料・文献を調べた結果を発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分もしくは、クラスメートの住まいについて住み心地や困っていることなどをお互い交換・交流しあうと演習に役立つ。						
授業方法	講義、文献調査・現地調査、討論など						
評価基準と評価方法	平常点30%、レポート+発表70%						
教科書	プリント配布						
参考書	「マンション 企画・設計・管理」 学芸出版社						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーⅣ（カラーコーディネート演習）						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	色彩の知識から演習を通じ幅広く理解する						
授業の概要	色彩には物理的、化学的、生理的、心理的な面などがある。それらの多岐にわたる領域から色彩の根本原理を理解し、応用力を養うために常識的な内容から順序を踏み、体系的に学ぶ。「色とは何か」という疑問を持ちながら、色彩の性格を理解し、色の表し方や色彩調和、色彩の知覚的効果、色彩の感情効果、色彩の美的効果を中心に理解する。次に、色彩の基礎的知識を得た上で応用編として、ファッション・ハウジングの配色計画を考える。						
到達目標	色彩原理を理解し、色彩調和を身に着け、ファッションコーディネートやインテリアコーディネートの応用が可能になった。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：色の本質を説明 2. 色の体系：日本色研配色体系（P.C.C.S.）の基礎を復習 3. 配色①：色相、トーンをもとにした配色を演習 4. 配色②：ナチュラルハーモニー・コンプレックスハーモニーの配色を演習 5. 雑誌から配色①・②のコーディネートを考える 6. 配色③：ドミナイト、トーンオントーン、トーンイントーンの配色を演習 7. 配色④：トータル、カマイユ、フォカマイユの配色を演習 8. 配色⑤：トリコロール、ビコロール、マルチカラーの配色を演習 9. 配色⑥：セパレーション、グラデーションの配色を演習 10. 雑誌から配色③・④・⑤・⑥のコーディネートを考える 11. Work paper で復習しましょう 12. インテリアカラーコーディネートの配色を演習 13. 好きな色が主体の理想の部屋づくり 14. 女性のトレンド感性のポジショニングからコーディネートを演習 15. 雑誌からトレンドの配色をコーディネート 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	毎回、演習形式で行う。配色を演習する。						
評価基準と評価方法	課題100%						
教科書	財団法人日本色彩研究所監修『fashion color co-ordinate work paper 配色実習台紙』（日本色研事業株式会社） 財団法人日本色彩研究所監修『インテリアカラーブック』（日本色研事業株式会社） 財団法人日本色彩研究所監修『新配色カード199b』（日本色研事業株式会社） 尚、『新配色カード199b』を1年で購入した学生は、購入しなくてよい。						
参考書	授業内にて紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV (プレゼンテーション演習)						
担当教員	岸 一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	■建築の企画・計画・設計および提案のプロセスを学び、プレゼンテーションのテクニックを習得する。						
授業の概要	■店舗併用住宅の計画を課題として、企画書・コンセプト・プランニング・スケッチ・パースなどの手法を学び、プレゼンテーションボードを作成する。						
到達目標	<p>■完成した作品を発表し、講評を行う</p> <p>■提出内容について</p> <p>1) 企画書 A4サイズにて2~3枚程度 (タイトル表紙は除く) 左とじとする</p>						
授業計画	<p>第01回 プレゼンテーションとは (課題の説明・進め方) ※PPT使用</p> <p>第02回 企画書の作成 (コンセプト計画・情報収集)</p> <p>第03回 企画書の作成 (エスキースチェック)</p> <p>第04回 企画書の作成 (エスキースチェック)</p> <p>第05回 企画書の作成 (エスキースチェック)</p> <p>第06回 企画書のまとめ (エスキースチェック)</p> <p>第07回 企画書提出 (プランのまとめ)</p> <p>第08回 基本計画の進め方 (土地利用計画・配置ゾーニング) ※PPT使用</p> <p>第09回 図面作成 (平面・立面・外観イメージスケッチ)</p> <p>第10回 図面作成 (平面・立面・断面・インテリアイメージスケッチ)</p> <p>第11回 図面作成 (平面・立面・設計コンセプト)</p> <p>第12回 図面作成 (最終チェック)</p> <p>第13回 プレゼンテーション (表現技法) ※PPT使用</p> <p>第14回 プレゼンテーション (表現技法)</p> <p>第15回 プレゼンテーション (提出)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	■住宅会社での総合研究所での体験学習の実施 (学外研修)						
授業方法	パワーポイントを使った講義を交えた実習						
評価基準と評価方法	出席回数と作品の完成度との総合評価とする。 作品提出期限も厳守すること (減点対象) 総合点が59点以下の場合は単位を取得できない。						
教科書	<p>■1) 積水ハウス総住研見学2) テキスト 「スケッチ」 1,000円/冊</p> <p>■「スケッチパースのテクニック」1,500円/冊</p> <p>※購入方法については授業内で説明する。</p>						
参考書	<p>授業中に資料は配布する</p> <p>■スケッチパースのテクニック</p> <p>著者：岸 一</p> <p>発行：アトリエLabo TEL/06(6536)3166 FAX/06(6536)3113</p> <p>定価：2,000円</p>						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV（プレゼンテーション演習）						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションブランドの商品企画について学ぶ						
授業の概要	この演習では生産された衣服のプレゼンテーションがどのような方法で行われているのかを理解させ、その基本的な企画力の育成をめざす。ショップなどの空間におけるVMDを含めたプレゼンテーションについて解説し、それらのパッケージや広告などを合わせた総合的な演出についての調査から、商品に付加価値をつけるイメージがどのように演出されているのかという手法とその効果の分析を行わせる。それを参考に、各自の独創的なプレゼンテーションを提案させ、企画書、資料を作成させる。						
到達目標	ファッションブランドの商品を企画するプロセスやマーケットを読む力を身につける。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションおよび全体の授業の流れについて説明する 2. アパレル産業の構造を理解する 3. アパレルマーチャンダイジング 4. アパレルマーケティング <ol style="list-style-type: none"> ①マーケティングの必要性と定義 ②マーケティング戦略 ③マーケティングミックス 5. 消費者を知るために/市場調査 <ol style="list-style-type: none"> ①市場調査 ②ファッション企業における市場調査 6. ブランドの持つ価値観/ブランドイメージとコンセプト設定と展開 7. ファッション商品企画Ⅰ－ブランド名とブランドポリシーづくり 8. ファッション商品企画Ⅱ－ブランドイメージおよびターゲット設定 9. ファッション商品企画Ⅲ－スタイルマップづくりおよびアイテム企画 10. ファッション商品企画Ⅳ－デザイン提案① 11. ファッション商品企画Ⅳ－デザイン提案② 12. ファッション商品企画Ⅴ－販促・宣伝企画案 13. ファッション商品企画まとめ① 14. ファッション商品企画まとめ② 15. ファッション商品企画案発表および評価 						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常生活の中でファッション商品を見て分析する習慣を持つことやファッション雑誌を分析する学習						
授業方法	配布プリント、スライド、フィールド調査による進む						
評価基準と評価方法	レポート（30%）、企画書（30%）、発表（40%－2回）による評価						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV (プレゼンテーション演習)						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションの企画を通じてプレゼンテーションを演習する。						
授業の概要	企画するにあたり、アパレル企業やデザイナーズブランド等を取り上げ、関連した資料および情報を多方面から収集し、企画するプロセスを分析し理解する。同時に、イメージの作り方、企画の技法や進め方を習得する。最後に学んだ手法を用い、自分だけのブランドを企画し発表・講評することで企画能力を向上させ、プレゼンテーションするセンスを磨くことを目的としている。						
到達目標	テーマに基づき、関連した資料や情報を収集する能力、企画するプロセスを分析し理解する能力を身に付け、プレゼンテーションのセンスを養った。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (課題テーマ、方針・進め方の説明) 2. 企画の技法① 帰納的方法と演繹的方法を学ぶ 3. " ② KJ法の進め方 4. " ③ ブレーンストーミング法の進め方 5. " ④ チェックリスト法の進め方 6. " ② 特性要因図法とトリー法の事例と特色 7. " ② フリーマップ法と連関図法 (戦略マップ法) の事例 8. 技法を用いて演習し、発表 9. 企画原案 (アイデア・構想) の考え方 10. グランド・ポニョニングマップの演習 11. 女性のトレンド感性のポニョニング演習 12. ターゲット設定の演習 13. ターゲット設定のプロセスの発表 14. コンセプト設定の演習 15. コンセプト設定のプロセスの発表 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	課題50%、発表50%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	杉原淳子著『ファッション・マーケティング』 (嵯峨野書院) 日本衣料管理協会刊行委員会編『アパレル企画—基礎と演習—』 (財団法人日本衣料管理協会)						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV (プレゼンテーション演習)						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	パソコン上のグラフィックソフトを利用し、紙媒体のパンフレット・チラシ・ポスターなどの印刷物のレイアウトデザインの基本を習得する。写真・図表やテキストを読みやすく分かりやすくかつ美しくプレゼンする技法について学ぶ。						
授業の概要	企業やブランドは常に変化するファッションイメージをカタログなどの印刷物やネット上のページを通じて発信している。それらの画面デザインの基本は、写真・図表などのヴィジュアルなイメージと言語情報であるテキストをバランス良く紙面やスクリーン上にレイアウトすることでコミュニケーションを円滑に行うことである。そのためにパソコン画面上でグラフィックソフトの機能を活用し一定のテーマに基づきイメージや情報を的確にプレゼンするために必要な技法や手法、デザインのルールについて実習を通じて学ぶ。						
到達目標	既存のブランドイメージをはじめとする各自のテーマに従って、10数ページのA4サイズパンフレットの内容を編集しページを構成し、レイアウト・デザインを完成させる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) タイポグラフィ -1- 3) タイポグラフィ -2- 4) 写真の扱い -1- 5) 写真の扱い -2- 6) 写真の扱い -3- 7) A4サイズのフライヤー -1- 8) A4サイズのフライヤー -2- 9) レイアウトの注意点 -1- 10) レイアウトの注意点 -2- 11) A3サイズポスター -1- 12) A3サイズポスター -2- 13) B4サイズ三つ折りリーフレット -1- 14) B4サイズ三つ折りリーフレット -2- 15) 講評 						
授業外における学習(準備学習の内容)	普段から雑誌、カタログの誌面などを観察し、どのような意図でヴィジュアルイメージやテキストがレイアウトされているのかに関心を持つ。また、それらの中で自分が優れていると思われるサンプルを収集する。						
授業方法	演習・実技						
評価基準と評価方法	出席状況、授業中の積極性、実習課題などの平常点40%と、最終作品をそれぞれ60%で評価します。						
教科書	特に無し。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーV (プレゼンテーション演習)						
担当教員	矢代 恵						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリアプレゼンテーション技法の習得						
授業の概要	<p>プレゼンテーション技法を学ぶことで、設計し考えた内容を、より解りやすく説得力をもって人に伝える力を習得する。</p> <p>店舗併用住宅のリノベーション計画と全体模型を製作する。 コンセプト・プランニング・デザイン計画といった設計プロセスに基づき、平面図・立面図計画の後S=1/100の模型を製作する。 完成した模型の写真を撮り、タイトル・コンセプト・平面図・立面図・模型写真・イメージ写真などでプレゼンテーションファイルをつくり発表、講評を行う。</p>						
到達目標	コンセプト・プランニング・デザイン計画、模型制作、プレゼンテーションファイル製作により、イメージをより解りやすく人に伝えるレベルの高いプレゼンテーション能力を身につける。						
授業計画	<p>店舗併用住宅のリノベーション計画。 立地条件、家族構成、店舗内容などを条件設定し、コンセプトに基づきデザインし、表現をする。</p> <p>第1回 プレゼンテーション・模型製作説明・コンセプト検討 第2回 コンセプト・平面図エスキース 第3回 平面図エスキース 第4回 平面図エスキース 第5回 平面図・立面図エスキース 第6回 平面図・立面図CAD入力 第7回 平面図・立面図CAD入力 第8回 CAD入力・模型製作 型紙貼付 第9回 模型製作 平面図・外壁切り出し 第10回 模型製作 外壁切り出し・窓加工 第11回 模型製作 組み立て・敷地作成 第12回 プレゼンテーションファイル説明・模型撮影 第13回 イメージ写真等収集・レイアウト 第14回 レイアウト・プレゼンテーションファイル作成 第15回 作品発表・講評</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	製作スピードは各自違いがあるため、エスキース、CAD入力、模型制作など各段階において授業の進捗状況に合わせて、遅れがないよう授業時間外に課題製作を進める必要があります。						
授業方法	プロジェクターを使った講義を交えた実習						
評価基準と評価方法	成績は出席回数と作品提出期日(遅れるほど減点)、作品の完成度によって評価する。 総合点が59点以下の場合単位を取得できない。						
教科書	授業中に資料配布						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシー入門／イメージリテラシー論						
担当教員	中村・崔・笹崎・増永・中林						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション・ハウジングデザインにおけるイメージの重要性						
授業の概要	コンピュータを中心とするメディアの発達により視覚偏重の進む現代社会ではイメージが与える影響力は増大している。そうした背景のもとにファッションやハウジングデザインの世界において、デザイナーが展開する豊かなイマジネーションや、デザインプロセスに表れる多様な役割の実例などを通じて、その重要性を理解するため各専門領域の担当者によるオムニバス授業を行う。全体は導入部分（3回）、ファッション領域（3回×2）、ハウジング領域（3回×2）で構成される。						
到達目標	ファッション、ハウジング領域におけるイメージの豊かさや必要性に触れることで、イメージリテラシー科目の目標であるイメージの生成や解釈の重要性について理解し、独自のイマジネーションの世界を再認識し、その多様な展開の可能性を実感する。						
授業計画	1) オリエンテーション 2) 中村 3) 中村 4) 崔 5) 崔 6) 崔 7) 笹崎 8) 笹崎 9) 笹崎 10) 増永 11) 増永 12) 増永 13) 中林 14) 中林 15) 中林						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に無し。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	各講師からのレポート課題70%と平常点30%。						
教科書	無し。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアエレメント論						
担当教員	米原 慶子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリアを構成するモノたちのデザイン						
授業の概要	家具や照明、グラフィックなど、インテリアデザインにおけるエッセンシャルなエレメントに着目し、モダンデザインの黎明期から現代までの、主要な空間とデザインの変遷をたどる。産業革命によって生み出されたモダンデザインの源泉をたどり、アール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920～30年代のムーブメントを経て戦後、アメリカ、イタリア、スκανジナビアや日本で生み出された優れたデザインのインテリアエレメントとそのデザイナー達について学ぶ。 キーワード：家具・照明、建築空間、デザイン史						
到達目標	西洋と日本の近現代を中心に、デザイン潮流と各時代の名作デザイン、デザイナーに関する知識を習得する。各自の好きなデザイン、デザインの傾向を見つける。						
授業計画	第1回 ガイダンス（授業の概要、進め方と学習目標）、インテリアエレメントの楽しみ方 第2回 モダンデザインVSクラシック／西洋古典の空間とインテリアエレメント 第3回 モダンデザインVS和のデザイン／日本の伝統空間とインテリアエレメント 第4回 デザインの美学 身近に楽しむクラシックと和のデザイン 第5回 モダンデザインの黎明ージャポニズム／万国博覧会とアーツ・アンド・クラフツ 第6回 アール・ヌーヴォーのデザイン 第7回 初期近代建築とアール・デコのデザイン 第8回 1920年代ー第1次世界大戦後のデザイン・ムーブメント 第9回 巨匠達の時代とデザイン 第10回 ミッド・センチュリーのアメリカ・イタリア・日本 第11回 北欧のデザイナー達 第12回 ポスト・モダンの時代 第13回 全体のまとめ、期末レポート中間報告、質疑応答 第14回 現代のデザイナー達ー ゲストスピーカーによる自作の紹介とミラノ・サローネ報告 第15回 期末レポートの発表と提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回参考資料を紹介するので、興味のあるテーマについて、各自で学習を深めること。テーマ関連の建築やショールーム見学を積極的に行うのが望ましい。						
授業方法	講義（スライドレクチャー）						
評価基準と評価方法	毎回のミニレポート（出席点と平常点含む）および期末レポートの成績（評価比率：毎回のミニレポート60%、期末レポート40%）						
教科書	「カラー版 世界デザイン史」 監修：阿部公正 出版社：美術出版社 ISBN：4-568-50174-1						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアスペース論						
担当教員	十亀 啓						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリア空間の基礎を修得する						
授業の概要	<p>住宅の内部空間は様々な生活行為を機能的に行い、美しく安全、快適に住まうために、各部が適切な寸法、形、材料、工法によって造られ、全体として調和のとれた合理的なものとなるよう、設計されなければならない。</p> <p>そのために、木造、鉄骨造、RC造の各構造や、外部条件に応じた設計の考え方を身につけて、モジュール及び各部基準寸法、仕上げ、造作、色彩計画、設備計画などについて学ぶ。またインテリアコーディネーター試験に出題された問題に取り組み、解説することで理解を深める。</p>						
到達目標	目的と条件に見合ったインテリアを創造する為に必要な基礎知識を学習します。空間の表面的な装飾を施す前に、見えない部分も含めて 知る必要のある大切な事項を修得する事ができます。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 概説 2 生活とインテリア 3 寸法とモジュール 4 住宅の構造（木造） 5 住宅の構造（その他の構造） 6 木材と和の空間 7 家具と洋の空間 8 造作と建具 9 床下地と仕上 10 壁下地と仕上 11 天井下地と仕上 12 インテリアの関連設備 13 インテリアの色彩 14 まとめと試験 15 試験の解説と質疑応答 						
授業外における学習（準備学習の内容）	どの回も空間を考える上で関連しています。毎回の授業内容をまとめ、整理しておきましょう。試験の準備のためだけでなく、将来、実際の設計活動においても良い資料となります。又、欠席した場合は次回までに自己学習をして整えた上で出席する事が大切です。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小演習50% 期末試験50% 受講態度を大いに考慮し、2/3以上の出席日数を加味する						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリント使用 ・ 「素材・建材ハンドブック」CONFORT増刊 (株)建築資料研究社 						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアデザイン実習						
担当教員	長瀬 りか						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	住空間のインテリア計画とその表現 ーライフスタイルや美意識に応じたインテリアデザインを考えるー						
授業の概要	住宅および店舗のインテリアデザインの計画手法、表現手法を学ぶ。各空間の機能性と造形性、関係性について参考事例を見ながら学ぶ。制作課題は「マンション住戸のリノベーション」、「店舗併用住宅のインテリア」の2つで、機能的な動線計画や収納等の配置、設備計画に基づくプランニングを行い、家具や造作、仕上げ材も含めた詳細なデザインを考え、平面図、展開図、3Dパース等で表現する。 キーワード：インテリアデザイン、コーディネート、3D-CAD						
到達目標	インテリアデザインの基本となる計画手法と表現手法を習得する。 CADの3Dによる表現手法を習得する。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、住宅のインテリアデザインの考え方と表現（全般の解説） 第1課題 「マンション住戸のリノベーション」課題説明、参考事例の紹介。 家族像・生活像設定、住戸平面図に家具シンボルを配置（CAD/2D）。</p> <p>第2回 第1課題 参考事例の紹介、解説。レイアウト調整し、平面図作成。</p> <p>第3回 第1課題 CAD/3D基本操作解説、3Dスケルトンモデルに家具シンボル、壁など3Dインテリアエレメントを配置。</p> <p>第4回 第1課題 簡易な3Dシンボルの作成、3Dモデルの着色（カラーコーディネート）、3Dパースの作成。</p> <p>第5回 第1課題 3Dモデルから展開図の作成。</p> <p>第6回 第1課題 インテリアエレメントの仕上げ選択。画像取り込み、キャプションの作成。</p> <p>第7回 第1課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト、まとめ</p> <p>第8回 第2課題 「店舗併用住宅のインテリアコーディネート」課題説明。 平面図から主要室の3Dスケルトンモデル作成、開口部の表現。</p> <p>第9回 第2課題 インテリアエレメントの選択、3Dシンボルの作成と配置。</p> <p>第10回 第2課題 仕上げ材の選択、レンダリングによるテクスチャとライティングの表現</p> <p>第11回 第2課題 3Dパースの作成、数面の取り出し</p> <p>第12回 第2課題 テクスチャ、ライティング等調整</p> <p>第13回 第2課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト、まとめ</p> <p>第14回 第2課題 発表と講評。手直し・追加事項のチェック⇒図面追加、修正、提出。</p> <p>第15回 第2課題 他クラスと合同の発表講評会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自行なうこと。 家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行なうこと。						
授業方法	実習（CADも使用）＋ミニ講義						
評価基準と評価方法	平常点30%、第1課題の成績30%、第2課題の成績40%とする。						

教科書	図解 インテリア設計の実際 第1版 著者：小宮 容一 出版社：株式会社オーム社 ISBN：4-274-10095-2 その他、プリントを配布。
参考書	インテリアデザイン・コース—インテリアデザインの基本から実践まで 著者：トムリス タンガズ 出版社：グラフィック社 ISBN-10: 4766117557 コンパクト建築設計資料集成「住居」 (日本建築学会編、丸善第2版) その他、授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアデザイン実習						
担当教員	米原 慶子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	住空間のインテリア計画とその表現 -ライフスタイルや美意識に応じたインテリアデザインを考える-						
授業の概要	住宅および店舗のインテリアデザインの計画手法、表現手法を学ぶ。各空間の機能性と造形性、関係性について参考事例を見ながら学ぶ。制作課題は「マンション住戸のリノベーション」、「店舗併用住宅のインテリア」の2つで、機能的な動線計画や収納等の配置、設備計画に基づくプランニングを行い、家具や造作、仕上げ材も含めた詳細なデザインを考え、平面図、展開図、3Dパース等で表現する。 キーワード：インテリアデザイン、コーディネート、3D-CAD						
到達目標	インテリアデザインの基本となる計画手法と表現手法を習得する。 CADの3Dによる表現手法を習得する。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、住宅のインテリアデザインの考え方と表現（全般の解説） 第1課題「マンション住戸のリノベーション」課題説明、参考事例の紹介。 家族像・生活像設定、住戸平面図に家具シンボルを配置（CAD/2D）。</p> <p>第2回 第1課題 参考事例の紹介、解説。レイアウト調整し、平面図作成。</p> <p>第3回 第1課題 CAD/3D基本操作解説、3Dスケルトンモデルに家具シンボル、壁など3Dインテリアエレメントを配置。</p> <p>第4回 第1課題 簡易な3Dシンボルの作成、3Dモデルの着色（カラーコーディネート）、3Dパースの作成。</p> <p>第5回 第1課題 3Dモデルから展開図の作成。</p> <p>第6回 第1課題 インテリアエレメントの仕上げ選択。画像取り込み、キャプションの作成。</p> <p>第7回 第1課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト、まとめ</p> <p>第8回 第2課題 「店舗併用住宅のインテリアコーディネート」課題説明。 平面図から主要室の3Dスケルトンモデル作成、開口部の表現。</p> <p>第9回 第2課題 インテリアエレメントの選択、3Dシンボルの作成と配置。</p> <p>第10回 第2課題 仕上げ材の選択、レンダリングによるテクスチャとライティングの表現</p> <p>第11回 第2課題 3Dパースの作成、数面の取り出し</p> <p>第12回 第2課題 テクスチャ、ライティング等調整</p> <p>第13回 第2課題 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）のレイアウト、まとめ</p> <p>第14回 第2課題 発表と講評。手直し・追加事項のチェック⇒図面追加、修正、提出。</p> <p>第15回 第2課題 他クラスと合同の発表講評会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自行なうこと。 家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行なうこと。						
授業方法	実習（CADも使用）＋ミニ講義						
評価基準と評価方法	平常点30%、第1課題の成績30%、第2課題の成績40%とする。						

教科書	図解 インテリア設計の実際 第1版 著者：小宮 容一 出版社：株式会社オーム社 ISBN：4-274-10095-2 その他、プリントを配布。
参考書	インテリアデザイン・コース—インテリアデザインの基本から実践まで 著者：トムリス タンガズ 出版社：グラフィック社 ISBN-10：4766117557 コンパクト建築設計資料集成「住居」 (日本建築学会編、丸善第2版) その他、授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	家族社会学						
担当教員	青木 加奈子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「家族」再考						
授業の概要	産業化以降、家族を取り巻く環境は急速に変化してきた。離婚・再婚の増加や結婚年齢の上昇、結婚をしても子どもを持たない選択をする夫婦等、従来の「両親と子ども」からなる家族とは異なる家族が多く見られるようになった。一方、家庭内においては、家庭内暴力(DV)やひきこもり、親族間での殺人等、家族をめぐる問題が連日メディアで取り上げられている。そもそも家族とは一体なんだろうか。授業では、私たちにとってあまりにも身近な存在である家族を、社会との関わりの中から改めて問い直し、さまざまな角度から議論していく。						
到達目標	①「家族」が、普遍的なものではなく、時代や社会状況によって変化しうるものであることを理解する。 ②「家族問題」「家族の変化」と言われている現象について、客観的・批判的に考える力をつける。						
授業計画	第1回 インTRODakション：家族とは何か？ 第2回 歴史のなかの家族 第3回 戦後の家族 第4回 配偶者選択：結婚する？しない？ 第5回 さまざまなパートナー関係（受講生によるプレゼン） 第6回 子どもを持つ選択、持たない選択 第7回 ケアと家族①：育児をめぐる問題 第8回 ケアと家族②：育児の主体は誰？ 第9回 ケアと家族③：育児の社会化へ向けて（受講生によるプレゼン） 第10回 ケアと家族④：介護か問題になるとき 第11回 「家族だから」という言葉が持つ重圧 第12回 孤立する家族 第13回 ひとり親、ステップファミリーがかかえる問題 第14回 外国の事例：北欧社会と家族 第15回 まとめ：家族のゆくえ						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前学習：現在私たちは、各種メディアでさまざまな家族を確認することができる。それらに日頃から意識して注目するように心がけつつ、授業で課されるミニレポートやディスカッションでアウトプット（＝自分の考えを述べること）が出せるように、考える習慣をつけておく。 事後学習：授業内容をもう一度自分なりに整理し、自分の考えをまとめる。また、次回授業までに課題を作成する。						
授業方法	講義中心。受講生には、ディスカッションやグループワークによって出された見解を報告する機会を設けるので、積極的な態度で講義に臨むこと。						
評価基準と評価方法	期末試験 50%、授業中の課題 30%、受講態度 20%						
教科書	ない。授業中にプリントを配布する。						
参考書	必要に応じて、授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	カラーデザイン論（色彩検定3級対応）						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カラーの基礎を学びデザインに活用できる応用力を学ぶ。						
授業の概要	カラーやコーディネート入門科目である。主な内容は、色とは、色の混合、照明、色彩心理、色彩調和、色彩調和論など演習を取り入れながら理解する。レベルは、色彩検定3級レベルを習得する。カラーは、ファッションの範囲だけでなく、インテリアやハウジングの他分野への領域にも広がり、生活全般と関わっている。ここでは、ファッションだけでなくインテリアやハウジングの領域まで基礎的知識を習得する。						
到達目標	デザインの本質であるカラーを中心に、衣服・インテリア・ハウジングとしてのデザインをより効果的に表すためのカラーとの関係も含め、カラーの基礎を理解した。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：色とは 2. 色はなぜ見えるのか。 3. 色の表示 4. 色彩心理 5. 色彩調和 6. ファッションと色彩 7. インテリア・ハウジングと色彩 8. 色彩効果と中間試験 9. マンセルシステム、オストワルトシステム、NCS 10. 色のイメージと連想 11. 配色技法1：ドミナントカラー、セパレーション・アクセント・グラデーション効果、 12. 配色技法2：トーンオントーン、トーンイントーン、トータル配色 13. 配色技法3：カマイユ、フォカマイユ、トリコリアル、ピコロール配色 14. 配色調和論 15. 色彩計画、最後に試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	教科書を中心に進める。						
評価基準と評価方法	試験80%、提出物20%						
教科書	大井義雄、川崎秀昭共著：『カラーコーディネーター入門 色彩』、監修財団法人日本色彩研究所『文部科学省後援 色彩検定 公式テキスト3級』、監修全国服飾教育者連合会（A・F・T）『新配色カード199b』（日本色研事業株式会社）						
参考書	授業中に紹介。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ガーデニング論						
担当教員	清水 光次						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	庭づくり・ガーデニングは暮らしを彩り、楽しむためのもの。庭を楽しむための基礎的知識の習得とデザイン実習。						
授業の概要	質という面で住まいを考えると、建物としての「家」と「屋外環境」そして「インテリア」の3つは相互に関係している。単なる「外構」ではなく、楽しむための「庭あるいはガーデンを語れること」が住まいのデザインの幅を大きく広げることに繋がると考えている。この講義では、「屋外環境をいかに形にしていくか」を、機能面だけではなく、デザインやテクニカルな要素だけでもなく、庭やバルコニーの楽しみとは何かといったことにも踏み込んで考えていきたい。						
到達目標	1、将来、趣味としてのガーデニングに興味を持ったときに、それを楽しめるための素養を身につける。 2、住宅産業や造園業の現場での実践的な基礎的スキルと知識を習得する。						
授業計画	次のトピックを扱う予定である。ただし、順序は必ずしもこの限りではない。 1、スタイル別に庭のデザインを整理する（日本） 2、スタイル別に庭のデザインを整理する（外国） 3、住まいの庭の居心地の良さや楽しみとはなにかを考える 4、住まいの庭の実例研究（失敗例に学ぶ） 5、街並みのデザインについて考える 6、外構・庭・エクステリアの構成要素を整理する 7、植栽デザインの基礎 8、ガーデニングにしたい植物（樹木） 9、ガーデニングにしたい植物（灌木） 10、ガーデニングにしたい植物（花やグランドカバー） 11、庭のデザイン手法（アプローチ編） 12、庭のデザイン手法（主庭編） 13、バルコニーガーデンを学ぶ 14、植栽の管理とメンテナンス 15、庭づくりに関する業種と現場のアラカルト						
授業外における学習（準備学習の内容）	下記をレポートとして提出を求める。 ・キャンパス内の「庭」を考察する。 ・通学路の街並みを考察する。 ・ハウジングにおけるガーデニングデザイン。						
授業方法	・主として、モニター（実際の庭やそれらの図面などの実例及び植物の写真等）を見ながらの講義とする。 ・講義の後半は、実践としての簡単な庭のデザイン演習を取り入れた講義とする。 ・教科書を元に、庭づくり・ガーデニングのノウハウやポイントを解説する。 ・宿題を出すことがある。						
評価基準と評価方法	主として中間演習・期末演習をもとに評価するが、授業内の演習や授業態度（出席率含む）も成績に加味する。配分は以下のとおり。 中間デザイン演習20%、期末デザイン演習50%、授業内デザイン演習15%、平常点15%。						
教科書	自分流に楽しむ「気まま」な庭づくり 第二版 著者：清水光次 出版社：メタ・ブレーン ISBN4-944098-36-7						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	景観論						
担当教員	中林 浩						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>世界と日本には多様な景観が存在することを画像を見てもらいます。農村・中小都市・大都市、そして途上国と先進国、いろいろですね。ただ、先進国の大都市の景観が中心の紹介になります。景観の保全をめぐる、各地でさまざまな形の努力がはらわれていることがわかります。それとかかわって景観法はじめ景観行政や文化財保護制度が発達してきた歴史を学びます。世界遺産についてもくわしく話します。</p> <p>むずかしそうな話もありますが、観光案内を見るように講義を受けてもらうのもこちらの意図するところですよ。どのような観点をもてば、より楽しい観光ができるのかを知ってもらいたいと考えます。またこうした態度をもつ観光客がより豊かな地域を育てることになります。</p> <p>とくに京都・大阪・神戸という関西の大都市とその周囲の都市景観について具体的な検討を行います。とりわけわたしがかわった高層ビル建設反対運動などの紹介をします。</p> <p>映像をたくさん使う講義で、話の途中で画像をたくさん見せます。最後の30分は動画をほぼ毎回見せます。さいきんではテレビでも紀行というか地域を紹介した番組が増えましたね。動画がより景観を理解するのを助けます。たくさんストックがあるので、珠玉の景観動画をお楽しみください。</p>						
授業の概要	【「授業のテーマ」参照、わたしにはこういうものをテーマ・概要・到達目標・授業方法というように細切れには書けないのです、思考が平板になってしまいます。テーマ・概要・到達目標……、これらは同じものの別の側面なのにそれを分けて書く方がいいシラバスだとはお笑いだ】						
到達目標	【「授業のテーマ」参照】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 景観・風景とは 2 いろいろな景観・農村編 3 いろいろな景観・中小都市編 4 いろいろな景観・大都市編 5 景観保全・町並み保存運動の歴史 6 景観法のしくみ+テスト1 7 文化財行政の発展 8 世界遺産制度のしくみ 9 都市の世界遺産 10各地の景観まとめ 11観光・レクリエーションのあり方 12京都の景観破壊——せっかくの文化財・自然環境がここまで壊されるとは 13大阪の景観破壊——かつては「水の都」と称されていたのに 14神戸の景観破壊——高架道路と高層ビルはひどいですね、デザイン都市？ 15景観問題のまとめ+テスト2 						
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	【「授業のテーマ」参照】						
評価基準と評価方法	ほとんどを授業中のテスト2回で採点します。授業への参加の積極性を加味することもあります。シラバス内クイズ「2回国境を越えないと海に出られない国はどこでしょう」。						
教科書							
参考書	授業中に紹介します。新書などでつよく勧めるものがあります。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築一般構造						
担当教員	中村 博明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	建築のハード面の概要						
授業の概要	鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造について概論的に学習する。 構造物の強さ、弱さ、変形の仕方等が実感できるよう実験を通して学習する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造についての概論的な知識の習得 ・構造的センスの習得 ・構造力学の基礎知識の習得 						
授業計画	第1回：授業の説明 構造を考える意味（導入）…薄い紙で強い柱を作るコンクール 第2回：構造力学の基礎の基礎 第3回：鉄筋コンクリート造（1）構造原理 第4回：鉄筋コンクリート造（2）構造形式 第5回：鉄筋コンクリート造（3）鉄筋とコンクリート 第6回：鉄筋コンクリート造（4）配筋のしくみ 第7回：鉄筋コンクリート造（5）梁と柱の配筋 第8回：鉄骨造（1）構造形式、鋼材 第9回：鉄骨造（2）鉄骨造の実際 第10回：木造（1）構造形式 第11回：木造（2）木材 第12回：木造（3）基礎 第13回：木造（4）軸組 第14回：木造（5）小屋組、床組 第15回：全体のまとめ 及び 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業毎に復習を必ずする。 学習した事と、実際に近辺にある建築の部分とを照らし合わせて確認する努力をする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点：30%、小テスト：20%、期末試験：50% 欠席は減点対象とする。						
教科書	レジュメ配布						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築関連法規						
担当教員	長瀬 りか						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	住宅に関わる建築基準法および関連法規の基礎知識の習得						
授業の概要	住宅の企画・設計・販売およびインテリア関連の仕事に就くために最低限必要な建築基準法の基礎知識と建築関連法規の概要を、参考事例などを見ながら学ぶ。将来の実務で不可欠な基礎的内容および2級建築士やインテリアコーディネーターなどの資格試験の学習にも役立つ内容を中心に解説する。 キーワード：建築基準法、建築関連法規、住宅、インテリア						
到達目標	建築基準法の基本的な事項の習得と現代の住宅に関する関連法規の概略把握						
授業計画	第1回 ガイダンス、「法の目的、用語の定義」 第2回 建築基準法の基礎1「面積、高さ」＋小テスト 第3回 建築基準法の基礎2「採光、換気、階段」 第4回 建築基準法の基礎3「建築設備と構造」＋小テスト 第5回 建築基準法の基礎4「防火、耐火1」 第6回 建築基準法の基礎5「防火、耐火2、内装制限」＋小テスト 第7回 建築基準法の基礎6「避難設備1」 第8回 建築基準法の基礎7「避難設備2」＋小テスト 第9回 建築基準法の基礎8「道路、用途地域」 第10回 建築基準法の基礎9「容積率と建ぺい率」＋小テスト 第11回 建築基準法の基礎10「高さ制限、日影規制」 第12回 建築基準法の基礎11「地区計画、建築協定」＋小テスト 第13回 関連法規1「建築士法、消防法」 第14回 関連法規2「宅建業法、バリアフリー法ほか」＋小テスト 第15回 講義のまとめ＋レポート						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後にノート、プリントなどを整理し、疑問点があれば次回授業時に質問して、各自理解を深めてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点30%、小テスト＋レポート70%とする。欠席した場合は減点対象。						
教科書	基礎教材『建築法規』 発行年月 2007年09月 ISBN:978-4-7530-1745-4 出版社：井上書院 その他、プリントを配布。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築計画学						
担当教員	中林 浩						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>建築の平面計画、つまり間取りの話です。設計のための基礎理論といってもいいでしょう。実際ににラフな設計をする作業のある講義となります。</p> <p>前半は住宅の計画を扱います。それに先立ち住宅の歴史を概観します。庶民の住宅を中心にお話ししますが、その過程で桂離宮についてはすこしくわしく話をします。これは天皇の別荘で、庶民とはかけ離れているようですが、日本の住宅市のなかでは重要なものです。みなさん桂離宮を知らないでしょう。しかし、日本の建築のなかでは世界の人びとに一番有名なのです。</p> <p>そして現代住宅の平面の発展を学びます。現代日本にかなり根付いているといつてよい「2DK」といういい方には深い歴史があります。西山卯三という研究者が第二次大戦中の研究により食寝分離論といつ理論をうみだしました。その説明は欠かせません。かんたんな住宅の設計・集合住宅の配置計画の演習をします。</p> <p>後半では商業施設・図書館・集会所・小学校など各種建築の平面計画のあり方を学びます。たとえば郵便局などは窓口以外はどうかっているのか知らないでしょう。ホテルとか劇場も客としての空間しか知りません。たくさんのことはできないので、課題のひとつはみなさんのなじみのある、というかかならず利用した経験をもつ小学校です。あともうひとつは各自で選んでもらいましょうか。</p>						
授業の概要	【「授業のテーマ」参照、わたしにはこういうものをテーマ・概要・到達目標・授業方法というように細切れには書けないのです、思考が平板になってしまいます】						
到達目標	【「授業のテーマ」参照】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本住宅の系譜 2 農家・町家・長屋、庶民の住宅の歴史を話しているんだけど、天皇の別荘である桂離宮の話2も及ぶのだけど、この桂離宮を知らないひとが多いのがショック、日本の建築でもっとも有名なものなのに、前は20歳にならないと入れなかったのだが、18歳になった、ここで桂離宮へ行くことをすすめる 3 現代住宅の分類 4 小住宅における秩序 5 2DKや3LDK 6 住宅平面のいろいろ 7 建築平面演習1 8 集合住宅の展開 9 住宅の系譜まとめ 10 建築平面のいろいろ (図書館) 11 建築平面のいろいろ (商業施設) 12 建築平面のいろいろ (集会所) 13 建築平面のいろいろ (小学校) 14 建築平面演習2 15 建築平面演習3 						
授業外における学習(準備学習の内容)	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	【「授業のテーマ」参照】						
評価基準と評価方法	ほとんどを提出物で採点する。授業への参加の積極性を加味することもある。						
教科書							
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築材料学						
担当教員	清水 光次						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	建築・住宅・内装を構成する材料（＝建築材料、コンクリート・木材・鋼材・ガラス・内装材など）に関する基礎知識を習得する。						
授業の概要	建築物は、骨組みである構造体、内外壁、屋根、内部の間仕切りなどの造作や、建具、電気や衛生といった設備類から成り立ち、各々が多様な材料から作られている。 住居やインテリアのデザインに際してのみならず、それらを考え、論じるときに、建築やインテリアを構成するものがどのような材料から作られており、それぞれどのような性質を持ち、どのような使い方をすればいいかを知ることが大切である。それを知らなければ、建築や空間デザインはできないといっても過言ではない。この講義では、建築の構造体となる木材・コンクリート・鋼材を中心に、内部造作材や内装仕上げ材にいたるまで、どのような種類があり、それぞれどのような特性を持ち、どのように使われているのかを学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウジング関係の仕事（デザイン・設計・施工・監理など）に就く上で必要となる、基礎的な建築材料の知識を習得する。（二級建築士の資格取得希望者は必須） ・仕事ではなくとも、生活者の常識として知っておきたい知識を習得する。（マンション購入時や戸建住宅新築時などに役立つように） 						
授業計画	<p>次のトピックを扱う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、建築材料の概要（歴史・分類・性能） 2、木材（1）日本建築と木材、種類と特徴 3、木材（2）強度、構造、規格、等級 4、木材（3）その他使用方法など 5、コンクリート（1）コンクリートの性質・調合 6、コンクリート（2）種類、強度 7、コンクリート（3）破壊実験 8、鋼材（1）鉄の歴史、性質、腐食、規格 9、鋼材（2）その他 10、焼成品（タイル、レンガ、瓦、衛生陶器など） 11、ガラス 12、石 13、左官材料・ボード類・塗料 14、内装仕上げ材（クロス、カーペットなど） 15、機能性材料（断熱材や防水材ほか） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の予習と復習。 常に身の回りの建築空間を見て、部位別に使われている材料を確認する。						
授業方法	主として、教科書を中心とした講義形式。 できるだけ実物（材料サンプル等）に触れて、理解を深める。						
評価基準と評価方法	小テスト70%、平常点（出席率含む）30%。 小テストは4回を予定。						
教科書	やさしい建築材料 第二版 著者：松本進 出版社：学芸出版社 ISBN978-4-7615-2417-3						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築施工学						
担当教員	田邊 昭						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	土曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	建築物の生産方法の研究						
授業の概要	建築物を生産するためには多くの人々の役割分担と協力、効率的に生産するための技術、多くの建築材料を供給するための社会的なシステム等が必要となります。教科書や実務上の資料及び建築現場の見学等を通して、建築物の生産手順や関連技術等を学びます。						
到達目標	基礎工事、躯体工事、仕上げ工事等の建築物生産各工程の仕組みや留意点等を学び、さらには設計や維持管理を含めた建築生産全体における施工の位置付け等を学ぶことにより、将来の建築士として必要な知識を取得する。						
授業計画	01) 4/13(土) 建築生産とは何か 02) 4/20(土) 着工準備～施工計画の立案 03) 4/27(土) 工程計画～工程管理 04) 5/11(土) 仮設工事・準備工事 05) 5/18(土) 学外工事現場見学 06) 5/25(土) 土工事、地業・基礎工事 07) 6/01(土) 鉄筋工事 08) 6/08(土) 型枠工事 09) 6/15(土) コンクリート工事、中間試験 10) 6/22(土) 鉄骨工事(工場製作) 11) 6/29(土) 鉄骨工事(溶接) 12) 7/06(土) 鉄骨工事(現場施工) 13) 7/13(土) 屋根・防水工事 14) 7/20(土) 仕上げ工事 15) 7/27(土) 設備工事、期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を目を通してきてください。 授業後学習：授業内容を復習するための課題を配布しますので、各自解答し、次の授業で提出してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題30%、試験70%						
教科書	「初学者の建築講座 建築施工(改訂版)」大野隆司 監修 中澤明夫、角田誠 著 市ヶ谷出版社 ISBN978-4-87071-121-1						
参考書	「図解 建築現場用語辞典」渡辺光良 編著 ナツメ社 ISBNコード：978-4-8163-3936-3 「建築現場実用語辞典[改訂版]」建築慣用語研究会編 井上書院 ISBNコード：978-4-7530-0030-2						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築デザイン実習						
担当教員	植田 道則						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	ライフスタイルの一部としての商業デザイン						
授業の概要	<p>デザインの感性を豊かにする題材として、商業施設を取り上げます。</p> <p>①日常生活の中から、好きなショップを数例レポートしその店が街を魅力的にしている部分について考えます。商業デザインの基礎を学びます。</p> <p>②①で学んだことを展開し、課題敷地の中で店舗付き住宅のデザインを行います。</p>						
到達目標	<p>第一目標：コンセプト立案（自分でデザインする楽しさを実感する。）</p> <p>第二目標：デザインの展開（デザインの基礎知識を習得する。）</p> <p>第三目標：プレゼンテーション（相手にイメージが伝わる手ごたえを実感する。）</p>						
授業計画	<p>第1回 【課題発表とオリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆課題発表・課題敷地見学（六甲八幡宮） 具体的な敷地を設定し、その敷地を実際に見て、店舗付き住宅（約100~150㎡）の設計を行う。 店舗は雑貨屋、服屋、カフェ、レストランを想定しています。 ◆ライフスタイルを豊かにする商業建築紹介 海外の先端商業施設事例を音と映像により紹介 <p>第2回 【コンセプトとは】 【コンセプトワーク】 【イメージとの醸成】</p> <p>第3回 【コンセプトレビュー】 各自のコンセプトを全員で考えます。</p> <p>第4回 【プログラムとアクティビティ】 必要な部屋や、部屋と部屋のつながりを考えます。</p> <p>第5回 【平面エスキース1】 平面プランの骨格を考えます。</p> <p>第6回 【平面エスキース2】 平面プランの骨格を考えます。</p> <p>第7回 【平面エスキース3】 平面プランの肉付けを考えます。</p> <p>第8回 【断面計画1】 断面計画をステップを踏みながら書いていきます。</p> <p>第9回 【断面計画2】 断面計画の骨格を考えます。</p> <p>第10回 【断面計画3】 平面・断面計画から空間や立体の構成を考えます。</p> <p>第11回 【学外研修（フィールドワーク）：「神戸元町・旧居留地のまちづくり」】</p> <p>神戸らしさとライフスタイルを創り出す商業建築を見てその魅力について考えます。</p> <p>第12回 【模型作製1】 これまでの平面断面から模型をつくっていきます。</p> <p>第13回 【模型作製2】 模型に対して、色や光の演出を行います。</p> <p>第14回 【模型作製3】 模型を仕上げ、写真撮影を行います。</p> <p>最終報告会のためのプレゼ準備を行います。</p> <p>第15回 【デザインレビュー+プレゼンテーション】</p> <p>各人のデザインについてディスカッションし理解を深めあう。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	イメージを伝えるのは図面だけではありません。言葉、模型、スケッチ、イメージ写真等、自分にあった表現方法を、授業以外でも模索し、この機会を通して身につけるようにしてください。						
授業方法	<p>第1回：データスライド等を用いた講義</p> <p>第1回、第11回：フィールドワーク</p> <p>第3回：グループ学習他</p> <p>第4-14回：実技演習、プレゼ資料作成（パワーポイント資料作成）</p> <p>第15回：全体デザインレビュー+プレゼ指導</p>						
評価基準と評価方法	授業の出席率75%（レポート有）、成果物評価15%、最終発表10%として、一旦評価をし授業の取り組みを加えて、総合評価する。						
教科書	特になし						
参考書	特になし（授業の中でプリントを配ります。）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築デザイン実習						
担当教員	中村 博明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	六甲八幡神社境内に計画する、小規模集合住宅の設計						
授業の概要	具体的な建築物の調査・研究を通して、その建築に対する設計者、建築主、利用者等の想いを理解する。それを踏まえて、建築をデザインするにあたって何を重視すべきかについての自分なりの考えをしっかりと持つ。その考えを建築デザインにどのように反映させていくか、設計演習課題を通して習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地特性の読み解き ・コンセプトの練り上げ ・魅力的な空間の構想 ・狭義の建築デザイン技術の習得 						
授業計画	第1回：授業の説明、課題の説明 第2回：エリアレポートの作成、発表、講評 第3回：コンセプトレポート作成、サイトプランエスキス 第4回：コンセプトレポート発表、サイトプランエスキス練り上げ 第5回：住棟エスキス 第6回：住棟エスキス練り上げ、住戸エスキス 第7回：住戸エスキス練り上げ 第8回：図面作成（1）・平面図 第9回：図面作成（2）・断面図 第10回：図面作成（3）・立面図 第11回：スケッチパース、図面仕上げ 第12回：模型作製（1）・部品の図面作成 第13回：模型作製（2）・部品作製 第14回：模型作製（3）・組み立て 第15回：合評会						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな建築、インテリアの写真からスケッチを起こす。 ・自分の好きな建築の図面資料を雑誌等から入手し、それをフリーハンドでトレースする。 ・どのような生活が自分にとって望ましいか、好ましいか、常に考える。 						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点：30%、成果品の評価（過程を含む）：70% 欠席は減点対象とする。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	構造力学						
担当教員	宮越 晃						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	土曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	建築構造の力学理論の研究						
授業の概要	建築物を安全に設計するために各種構造理論の基礎としての構造力学を理解することが不可欠である。建物に作用する力を把握し、それに対し構造物がどのように抵抗し、挙動するかを考えながら、力の流れと変形の力学を学びます。構造力学が簡単な力学原理から出発し複雑な構造を解析できることを、教科書に沿って丁寧に解説します。						
到達目標	構造力学を学ぶことにより、様々な構造形式の建築物の構成が理解できるようになる。構造力学は一般建築構造の基礎知識のひとつであり、将来建築士試験のための学習を始めるに当り、構造分野の学習がスムーズに行える能力を養うことを目標とする。						
授業計画	1) 9/28 (土) 構造力学に必要な基礎知識…力の単位、直角三角形の性質(ピタゴラスの定理、相似)、建築構造のモデル化 2) 10/5 (土) 力とモーメント 3) 10/12(土) 力の合成と分解 4) 10/19(土) 力の合成と分解についての演習 5) 10/26(土) 力の釣合いと力の釣合い式 6) 11/2 (土) 力の釣合い式を用いた演習 7) 11/9 (土) 質疑応答と中間試験 8) 11/30(土) 静定構造物…反力の算定方法、単純梁・片持ち梁の反力算定 9) 12/7 (土) 静定構造物…静定ラーメンの反力算定 10) 12/14(土) 静定構造物の反力算定についての演習 11) 12/21(土) 断面力の算定…片持ち梁 12) 1/11 (土) 断面力の算定…単純梁 13) 1/25 (土) 断面力の算定…静定ラーメン 14) 2/1 (土) 断面力の算定についての演習 15) 2/8 (土) まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: 演習問題のある課題を配布するので、予め予習を兼ねて各自で解くこと(自力で解くことにより分からない点が明確になり、目的意識を持って授業に参加できるようになる)。 授業後学習: 授業で行ったところの教科書の例題は、解答を見ないで再度各自で解いてみる。解けなかったときは教科書の解説を読んで理解すること(構造力学は積み重ねの学問であるから、分からないまま先に進まないようにして下さい)。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験50%、課題50%						
教科書	「初学者の建築講座 建築構造力学(初版)」元結正次郎、大塚貴弘 著 市ヶ谷出版社 ISBN: 978-4-87071-013-9						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	室内環境論						
担当教員	岡村 圭子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	室内環境の成り立ちと環境調整のための技術						
授業の概要	建物は、構造的に安全であること、美しいことに加え、その中で人が快適に暮らせることが必要です。室内環境は光・熱・空気・音といった物理的要素から成り立っており、私たちは日々これらから影響を受け生活しています。これらの環境要素が室内においてどのような現象として現れ、それが人の健康にどのように影響しているか、これらをどうコントロールすればより快適な環境が得られるか、また、環境調整の技術をどのように設計に組み込んでいくかを考学びます。						
到達目標	学生自身の生活環境を材料に、採光や照明、空気や熱、湿気の振る舞い、騒音や遮音について、基本的事項の理解と現状の分析、改善、環境設計の考え方を身につけることを目標にします。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 室内環境の要素とその単位 2. 音の基礎知識 3. 建物の音響性能 4. 空気の質と流れ 5. 通風と換気 6. 熱の伝わり方 7. 体感温度 8. 外界気象 9. 日照環境 10. 建物の熱性能 11. 熱還流率の計算 12. 湿気と結露 13. 人の視覚と光・色 14. 照明の方法 15. まとめとレポート講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：次回の授業内容に対応する事項（例えば自室の照明、日当たり、騒音、湿気の害など）について現状を観察する。 授業後学習：基本的事項についての確認レポートまたは課題に取り組むことで理解を深める。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題50%、レポート50%で評価。						
教科書	『設計のための建築環境学』日本建築学会編、彰国社 ISBN978-4-395-00894-0						
参考書	授業中に提示						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住居史						
担当教員	笠原 一人						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	住居の歴史を学ぶ						
授業の概要	住居は人類の誕生とともに存在する。世界中各地で、その地域で手軽に入手でき、容易に建築できる素材・部材によって、住居は作られてきた。しかし近代になると、科学技術が飛躍的に発展し、新たな部材・部品、建設技術が発展し、施工の管理も行き届き、世界中で同じような住居が供給されるようになった。そんな中で、これまでの住居の歴史を振り返り、それらを通じて今後のあり方を考えることは重要である。本講義では、西欧にも触れるが主に日本の住居の様式史を中心に講義する。住宅がどのような社会的背景の中で、どのように造られ、変容してきたかを理解することを目的とする。						
到達目標	住居の歴史や背景、時代ごとの建物の仕組みや空間構成などを理解できるようになる。その理解は、現代の新しい住居を生み出すための糧になる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 原始時代の住宅 竪穴住居と高床住居 3. 古代の住宅 寝殿造とその変容 4. 中世・近世の住宅 1 書院造と数寄屋 5. 中世・近世の住宅 2 民家と町屋 6. 近代の住宅 1 洋風住宅 7. 近代の住宅 2 住宅改良運動 8. 近代の住宅 3 集合住宅と郊外住宅地 9. 近代の住宅 4 モダニズムの住宅 10. 近代の住宅 5 戦時下と戦後復興 11. 近代の住宅 6 戦後モダニズムの住宅1 1950年代 12. 近代の住宅 7 戦後モダニズムの住宅2 1960年代 13. 現代の住宅 1 ポストモダンの住宅1 1970年代 14. 現代の住宅 2 ポストモダンの住宅2 1980年代 15. 現代の住宅 3 多様化する住宅 1990-2000年代 期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容)	普段から雑誌や書籍などで、優れた住宅作品に親しむようにしてほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席20% 期末テスト80%						
教科書	なし						
参考書	【新版】 図説・近代日本住宅史 内田青蔵・大川三雄・藤谷陽悦 編著 鹿島出版会 ISBN: 978-4-306-04493-7						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住宅再生論						
担当教員	増永 理彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代の大きな課題である住宅の再生について、その実態を知る。						
授業の概要	日本古来の木造家屋である町家や農家・商家などの多くは、忘れられ消滅しつつある。しかし、近年環境共生あるいは住文化や伝統の継承という面から反省が生じ、出来るだけ長く利活用することが望ましいという傾向にある。各地で町家や農家などの再生も展開しつつある。一方また、高度経済成長期には住宅を大量に生産・消費・廃棄してきた。この大量に供給されたマンションや公共賃貸住宅団地も、建替えが進んでいる。このような背景下で、ストック住宅を如何にリニューアルし再生すべきか、課題は山積している。これらの問題を考えながら現地見学し、実情を掴みながら、その構造を理解し今後のあり方を考えていく。						
到達目標	公的賃貸住宅とマンションの再生実態を知り、何が問題かを把握する。						
授業計画	第1回「住宅再生」を学ぶ目的 第2回町家の再生の実態・・・スライド 第3回町家の再生の事例、再生現場をみる 第4回農家再生の実態と事例・・・DVD 第5回：公共賃貸住宅の再生の現状 第6回：同潤会アパートの再生・・・DVD 第7回：浜甲子園団地見学・・・+レポート提出 第8回：リノベーション実態・・・UR賃貸住宅の事例：向ヶ丘団地、ひばりが丘団地・・・DVD 第9回：居住者の参加による再生・・・多摩平の森、武蔵野緑町団地・・・スライド+パンフ 第10回：ゲストスピーカーによる講義 第11回：マンションの再生・・・総論 第12回：建替えの実態と方法・・・DVD 第13回：「老朽マンション」の建替え実態・「新狭山ハイツ」・・・スライド 第14回：マンション再生について討論する 第15回：住宅再生を考える・・・試験+レポート						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の住んでいる住まい（実家）の物理的問題点を把握し、どこを改善、再生すればいいか、具体的に考えること。						
授業方法	・講義、見学、発表、討論 ・ゲストスピーカーによる事例報告						
評価基準と評価方法	平常点30%、試験・レポート70%、						
教科書	プリント						
参考書	団地再生—公団住宅に住み続ける—（クリエイツかもがわ）、増永理彦、 isbn:978-4-86342-009-0						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住文化論						
担当教員	加茂 みどり						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の住文化・住まい方研究						
授業の概要	<p>目的：住居・居住に関する文化・ニーズ、及びその実現に寄与する計画論的・技術論的發展の経緯を理解し、さらなる発展の方向性を考える能力を養成する。</p> <p>概要：住居史をみると、家族などの生活者が住居のなかで安全・安心そして快適にいかに住みこなすか、時代の様々な制約のなかで格闘してきたことが良く判る。本論では、そのなかで住居内におけるより快適に住むための試みや住居設備に着目し、まずは、日本におけるその歴史をたどり生活者と住居の快適性追求を確認する。その上で、今日急速に進みつつある住宅・住宅設備等の進展あるいは更新について、現状を生活との関連で具体的に分析し、課題を整理し今後の方向を考えていく。</p>						
到達目標	日本の住宅を議論検討する際の論点を学ぶ。						
授業計画	第1回：講義概要 第2回：住宅の機能 第3回：住宅計画の変遷 第4回：世界各国の住まい 第5回：ライフスタイルと住様式 第6回：家族の変容と住宅・住宅設備 第7回：少子高齢化と住宅・住宅設備 第8回：設備計画の変遷 第9回：環境共生住宅の事例 第10回：環境保全と住宅・住宅設備 第11回：空間構造の可変性と住宅・住宅設備 第12回：まち・コミュニティと住宅・住宅設備 第13回：地域性と住宅 第14回：まとめ（1） 第15回：まとめ（2） 期末レポート						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだことを適宜復習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席点50%、期末レポート50%。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活エコロジー論						
担当教員	永村 悦子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	快適な生活とエコロジー						
授業の概要	<p>快適な暮らしを求めてきた結果、現在の地球環境にはさまざまなひずみが生じてきた。本講義では、次の世代へより良い地球環境を残すために、生活の中で、また生活とかわる産業で何が行われているか、何ができるかを考える。</p> <p>具体的には、生活の基本である衣服や住まいにかかわるエネルギー消費、廃棄物など環境負荷について正しく理解し、快適性を犠牲にすることなく、環境負荷の少ない生活を目指すための環境技術について学ぶ。</p> <p>生態系の一部である私たちの生活が、環境とどのようにかかわっているかを知ること、つまりエコロジー的観点で暮らしを見つめることが授業の目的である。</p>						
到達目標	エコロジーかつ快適な暮らしを实践するため、また作り手側として提案するときに、現状の問題点を自ら探り、解決にむいけて考えることができる。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：環境共生・エコロジー</p> <p>第3回：地球環境問題(1)</p> <p>第4回：地球環境問題(2)</p> <p>第5回：生活と環境負荷(1) エネルギー消費</p> <p>第6回：生活と環境負荷(2) 廃棄物</p> <p>第7回：快適な衣環境</p> <p>第8回：快適な住環境</p> <p>第9回：環境負荷低減(1) 省エネルギー</p> <p>第10回：環境負荷低減(2) 衣服の材料とリサイクル</p> <p>第11回：環境負荷低減(3) 住まいの材料とリサイクル</p> <p>第12回：環境負荷低減(4) ライフスタイル</p> <p>第13回：エコハウスの事例</p> <p>第14回：エコプロダクツの事例</p> <p>第15回：まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>予習として、授業計画にある各回のテーマに関連することがらを生活の中から見だし、問題意識を持って授業に臨むこと。</p> <p>また授業で扱った内容は、自らの暮らしや他の専門科目の取り組みに、積極的に反映させる。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト40%、授業内レポート30%、期末テスト30%						
教科書	プリント配布						
参考書	授業内に紹介する						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活福祉学						
担当教員	稲見 直子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家族・地域の変化と生活福祉の再考						
授業の概要	本授業では、現代の家族や地域社会をめぐる変容について社会的に考察し、生活福祉が果たす役割について考える。具体的には、ある現象が単に起きているのではなく「なぜそうなのか」を考えるとともに、社会の諸問題の解決策を生活福祉という視点から考える。						
到達目標	本授業の内容は、個々の身近な問題であるため、ハウジング分野ファッション分野ともに基礎知識として理解することが望ましい。さらに、プレゼンや試験では自らの考えを論理的に表現する力を身につけてもらう。						
授業計画	第1回 イントロダクションー「生活福祉学」とはなにか。 第2回 家族の現在Ⅰ 第3回 家族の現在Ⅱー映画「クレイマー・クレイマー」 第4回 家族の歴史ー近代家族の誕生 第5回 ジェンダーⅠーグループプレゼンテーション 第6回 ジェンダーⅡ 第7回 女性の労働と生活福祉 第8回 家事労働と生活福祉 第9回 ケアと生活福祉 第10回 現代の家族をめぐる諸問題ー暴力・ひとり親家庭 第11回 ビジュアル教材（未定） 第12回 地域社会と生活福祉Ⅰ 第13回 地域社会と生活福祉Ⅱ 第14回 住まいと生活福祉 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞に目を通し、日々の社会問題に関心を持ってください。						
授業方法	講義を基本とするが、グループディスカッションやグループプレゼンテーションの機会も設ける。また、ビジュアル教材を積極的に取り入れることで、現代の生活福祉をめぐる諸問題の理解を深める。						
評価基準と評価方法	出席30%、課題20%、試験50% ただし、出席は特別な理由がない限り、2/3以上を必要とする。						
教科書	特になし						
参考書	一番ヶ瀬康子・尾崎新編著、1994、『講座生活学7 生活福祉論』光生館。 落合恵美子、1997、『21世紀家族へ』有斐閣選書。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活文化概論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化を基礎として身近な生活文化を学ぶ。						
授業の概要	本講は、人間生活の基礎を文化的側面から解明するものである。その学問的内容は、衣食住の生活をはじめ生活経営、生活経済、生活管理、自然環境など多様な専門分野から構成されている。これらは、人と人、人とモノ、モノとモノの関わりが強く、ライフデザインを形成している。時代とともに変わり行く生活を快適かつ円滑に運営するための知識を学び、これらを通じて日常生活のなかで「自分の身近な様子」「身近なモノや空間への興味」が持てるよう、日本文化を踏まえながら解説する。						
到達目標	身近な日本文化の見方や読み取りかたがわかり、ファッションやハウジングのデザインに応用する力が身に付いた。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 日本人と生活文化 3. 春夏秋冬と日本人の秩序感覚 4. 時代の移り変わりとともに変化してきた日本の色 5. 箸や茶碗の高級道具 6. 日本独自の食文化 7. 日本と欧米の違い—食の文化— 8. 日本と欧米の違い—インテリアの文化（1）— 9. 畳と絨毯の違い—インテリアの文化（2）— 10. 靴の文化と裸足の文化 11. 「間」の文化とは 12. 「間」の文化—結界と気持ちのけじめ— 13. 「礼」の文化 14. 「着る」の文化 15. 年中行事の由来 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像やビデオを使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	定期試験70%、提出物30%						
教科書	横川公子編著：『「生活環境の知」を考える』シリーズ1 生活の美学を探る』、光生館						
参考書	授業中に紹介。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活防災学						
担当教員	増永 理彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地震と原発に関する実態と防災の基礎知識を修得						
授業の概要	2011年の東日本大震災では、地震・津波そして原発事故により甚大な被害があった。この大震災の社会や経済に与える影響はきわめて大きい。かつ、本学のある神戸では1995年に大地震による大被害を受け、近いうちに、東海・東南海・南海の巨大地震襲来の可能性が指摘されている。原発事故も可能性がないわけではない。FHD学科学生にとっても、地震を中心に深刻かつ大きな災害についての基本的知識をより深く身につけ実態を知り、その上で防災について自分なりに考え判断することはきわめて大事なことである。そこで、阪神・淡路、東日本そして原発と、三つの大災害を取り上げ、基礎から実践まで幅広く学び、かつ日常生活面での防災を考える。						
到達目標	地震と原発に関して基本の知識（メカニズム、被災の実態、防災・減災）を身につけ、自ら考えるきっかけを掴み、具体的に防災・減災をイメージし実践する						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 福島第一原発事故の実態 3. 福島第一原発事故の被害 4. 原子力発電とはなにか 5. 放射能の影響 6. 今後のエネルギー（電力）を考える 7. 地震・津波の発生メカニズム 8. 耐震性を考える 9. 阪神大震災の被害とまちづくり 10. 人と防災未来センターの見学 11. 人と防災未来センターの見学後の個人別発表 12. ゲストスピーカー（東日本大震災の実態） 13. 東日本大震災の被害と復興まちづくり（1） 14. 東日本大震災の被害と復興まちづくり（2） 15. まとめ <p>注：講義の準備・教材の都合で、項目の入れ替わりはある</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	この授業の履修に当たっては、マスコミでの原発や震災関連の話題は豊富であることから、新聞やテレビなど関心を持って読んで・見て・考え、是非授業でも発表すること。また、生活防災は自分の日常生活の重要問題であり、大地震は近未来にありうるし、福島原発事故の影響は大きく深刻。積極的に授業に取り組むこと。						
授業方法	座学的な講義方法は出来るだけ少なくして、DVD鑑賞、学生からのレポート作成や発表、現地見学・ゲームや討論など多様な方法を採用						
評価基準と評価方法	レポート70%、発表30%。ただし欠席した場合には減点。						
教科書	プリント配布						
参考書	東日本大震災 復興の正義と倫理、塩崎賢明他、クリエイツかもがわ、978-4-86342-103-5						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究(制作)のテーマを基に衣装製作を行う。						
授業の概要	衣装製作では、「コンセプト・テーマ制作」「舞台衣装製作」「製作技術の追求」「歴史研究を基にした衣装再現制作」「アート・メディアに関わる衣装製作」「ユーザーに配慮した衣服設計」などあらゆる視点からテーマを抜き出し、製作を行う。卒業研究(制作)では、デザイン特別演習で学んだテーマ設定、資料・文献調査、デザイン発想、デザイン画作成までの内容を受け、テーマにそった設計・製作技術の向上、研究成果をまとめて発表するプレゼンテーション能力の向上を目的とし、4年間の学びを総括する。						
到達目標	衣装の発想からデザイン、設計、製作に至る一連の製作過程が理解でき、デザインどおりに設計・製作できる力が身に付いた。						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(卒業制作の進め方、テーマ・進捗状況の確認、計画表作成) 2. 提出物について(実物製作、ポートフォーリオ、レポート、ボード) 3. 作品製作指導「試作①」 4. 作品製作指導「試作②」 5. 作品製作指導「試作③」 6. 作品製作指導「試作④」 7. 作品製作指導「本布製作①」 8. 作品製作指導「本布製作②」 9. 作品製作指導「本布製作③」 10. 作品製作指導「本布製作④」 11. 作品製作指導「本布製作⑤」 12. 作品製作指導「本布製作⑥」 13. 中間発表に関する指導① 14. 中間発表に関する指導② 15. 中間発表に関する指導③/前期のまとめ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. オリエンテーション(進捗状況の確認、ポートフォーリオ作成法、レポート・ボードの形式) 17. ショーの構成・音楽・ヘアメイクに関する指導 18. ポートフォーリオ作成① 19. ポートフォーリオ作成② 20. ポートフォーリオ作成③ 21. レポート作成に関する指導① 22. レポート作成に関する指導② 23. レポート作成に関する指導③ 24. レポート作成に関する指導④ 25. ボード作成に関する指導① 26. ボード作成に関する指導② 27. 卒業研究要旨作成に関する指導 28. 卒業研究発表に関する指導① 29. 卒業研究発表に関する指導② 30. 卒業研究発表に関する指導③/まとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: 研究計画にそって、資料収集や衣装製作準備を行うこと。 授業後学習: 次の授業までに課題を行うこと。						
授業方法	演習形式(個人指導を含む)						
評価基準と評価方法	発表(20%)、制作作品(50%)、ポートフォーリオ・レポート・ボード(30%)で評価する。						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	崔 童殷						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	興味あるテーマを見つけ楽しく「研究」しよう。						
授業の概要	ファッションの専門領域では、大きくファッションデザイン系（モノづくり及びデザイン）、ファッションイメージ系（流行及び消費者購買パターン分析）、ファッションビジネス系（企画及び生産）などその範囲が非常に広く研究されています。この授業では、ファッションデザイン系（モノづくり及びデザイン）の領域を中心に興味がある内容で研究を行うように指導します。疑問を持った内容をテーマに文献を調べたり、インタビューを行ったり調査を行うなど理論的に論じる力を身につけると共に、4年間学んだ様々な教育内容及びモノづくりのスキルを生かし、作品制作の完成・発表できるように指導を行います。						
到達目標	卒業作品制作や論文をまとめること						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションでは研究方針と進め方について説明 2. 研究の全体の流れを考える <ol style="list-style-type: none"> ①論文（研究計画書） ②制作（作品およびポートフォリオ制作計画案） 3. 研究テーマ（論文テーマと制作テーマ）やキーワードまとめの話し合い 4. 研究の背景や目的のまとめ 5. 研究関連文献調査のまとめ 6. 研究Ⅰ－論文（文献、論文、研究関連情報収集①） 制作（作品制作①） 7. 研究Ⅱ－論文（文献、論文、研究関連情報収集②） 制作（作品制作②） 8. 研究Ⅲ－論文（調査①） 制作（作品制作③） 9. 研究Ⅳ－論文（調査②） 制作（作品制作④） 10. 研究Ⅴ－論文（調査③） 制作（作品制作⑤） 11. 研究Ⅵ－論文（調査結果まとめ①） 制作（作品制作⑥） 12. 研究Ⅶ－論文（調査結果まとめ②） 制作（作品制作⑦） 13. 研究Ⅷ－論文（分析結果の考察） 制作（作品制作⑧） 14. 中間発表のプレゼンテーション準備 15. 中間発表 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 中間発表の評価の討論および研究のまとめ方 17. 研究－論文（研究成果物のまとめ①） 制作（作品およびポートフォリオ制作のまとめ方の説明） 18. 研究－論文（研究成果物のまとめ②） 制作（作品およびポートフォリオ制作のまとめ②） 19. 研究－論文（研究成果物のまとめ③） 制作（作品およびポートフォリオ制作のまとめ③） 20. 研究－論文（研究成果物のまとめ④） 制作（作品制作完成①） 21. 研究－論文（研究成果物のまとめ⑤） 制作（作品制作完成②） 22. 研究－論文（研究成果物のまとめ） 制作（作品制作完成③） 23. 研究－論文（研究成果物の考察①） 制作（作品成果物の考察①） 24. 研究－論文（研究成果物の考察②） 制作（作品成果物の考察②） 25. 卒業研究概要の書き方 26. 卒業研究成果のポスター制作指導 27. 卒業研究成果のポスター制作 28. 卒業研究発表指導 29. 卒業研究発表練習 30. 卒業研究発表評価 						

授業計画	
授業外における学習（準備学習の内容）	4年間習ったすべてのテクニックを利用できることや決まった研究内容に関する文献調査を常に行いまとめること
授業方法	演習形式（個人指導も含む） プレゼンテーション、授業における貢献度、卒業作品制作過程における中間評価、最後の提出物の内容 各自のテーマに基づいて研究を進めるので、研究プロセスのスケジュールなどは責任をもって管理すること。
評価基準と評価方法	制作：衣装の制作、フォートフォリオ制作、研究レポート作成、A1パネル2枚制作 論文：論文作成、A1パネル2枚制作 これらの成果物を展示会や発表会でプレゼンテーションしてもらい評価する
教科書	個人研究内容の指導で知らせます。
参考書	個人研究内容の指導で知らせます。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	徳山 孝子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	ファッションに関わるテーマを一つ決め研究し、論文形式でまとめる方法を学ぶ。						
授業の概要	デザイン特別演習で学んだ知識をもとに、文化的なアプローチとしては、生活文化領域を中心に生活に身近なモノのデザインをテーマに、人間の精神的あるいは知的行為がどのように介在しているかを資料・文献収集、図像学的分析によって明らかにする。また、科学的なアプローチとしては、感性デザイン領域を中心に色や形をテーマとして、それらに対する心の動きを官能検査や統計解析によって科学的に解明する。これらの卒業研究から、ヒトの心がどのようにモノのデザインに作用しているかを理解し、デザイン設計や商品開発等に应用する。						
到達目標	論文を仕上げるプロセスを理解し、分析力、発想力、文章力が身に付いた。						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 2) テーマと研究方法の説明 3) 各自の研究について発表Ⅰ 4) 各自の研究について発表Ⅱ 5) 各自の研究について発表Ⅲ 6) 各自の研究について指導Ⅰ 7) 各自の研究について指導Ⅱ 8) 各自の研究について指導Ⅲ 9) 各自の研究について指導Ⅳ 10) 各自の中間発表について指導Ⅰ 11) 各自の中間発表について指導Ⅱ 12) 各自の中間発表について指導Ⅲ 13) 各自の中間発表について指導Ⅳ 14) 中間発表のプレゼンテーションⅠ 15) 中間発表のプレゼンテーションⅡ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 17) 研究成果と図表の作り方 18) 研究成果と卒論構成Ⅰ 19) 研究成果と卒論構成Ⅱ 20) 研究成果と考察・結論Ⅰ 21) 研究成果と考察・結論Ⅱ 22) 研究成果と考察・結論Ⅲ 23) 研究成果と考察・結論Ⅳ 24) 卒業論文の最終チェック 25) 卒業研究概要の書き方 26) 研究成果のボード作成について指導Ⅰ 27) 研究成果のボード作成について指導Ⅱ 28) 卒業研究発表について指導Ⅰ 29) 卒業研究発表について指導Ⅱ 30) 卒業研究発表（プレゼンテーション） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	演習形式（個人指導も含む）						
評価基準と評価方法	プレゼンテーション、授業における貢献度、卒業論文作成過程における中間評価、卒業論文の内容など提出物100%						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	中村 茂						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	「4年間の学習の集大成としてのファッション・コミュニケーション」						
授業の概要	デザイン特別演習を踏まえて、制作系のテーマとしてはファッション領域を中心とするメディア・デザイン、例えばファッションブランドのプロモーション・ツールなどのグラフィック・デザインや、ファッション現象のサーチ結果のエディトリアル・デザイン表現など、また、論文系のテーマとしては現代デザインの社会・文化的問題を発見・調査し、批判的検証・考察を加えて論文にまとめる。こうした卒業研究を通じて、積極的にデザインの在り方を提案し、社会貢献を果たすことを目的とする。						
到達目標	説得力のある印象に残るコミュニケーションを可能とするメディア・デザイン。						
授業計画	1) オリエンテーション 2) ~5) テーマの再検討と確立 6) ~10) 素材収集と取材 11) ~15) 縮約版パンフ制作 16) ~20) 完成版パンフ制作 21) ~25) 制作概要レポート、展示パネル制作 26) ~30) プレゼンテーション準備、表題集原稿作成						
授業外における学習(準備学習の内容)	各自のテーマに基づく情報収集、取材。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	平常点、論文または制作物の内容、完成度						
教科書	特に無し。						
参考書	必要に応じて紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	増永 理彦						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	4年間の学びの総括として、自分で課題を設定し、自分で解き筋道を立てて考え、それを文章や図面などで表現する。						
授業の概要	卒業研究は、論文と制作のうちどちらを選択してもよい。また、内容としては住居（住宅、住生活、居住全般）とインテリア（設計中心ではない内容）の二分野である。 1～3年生で学んだ「知恵」を基礎に、大学の学びの総まとめとして、何か少しでも新たなものを創出するという目標を持ち、意識的に取り組むことが重要である。そうすることにより、卒業後振り返ってみて何かやり遂げたという達成感を持つことができる。 大事なことは、自分でテーマを設定し、自分で粘り強く調べ、他人に聞きそしてまとめ、先行の研究や作品などからも学び、そして決められた条件に従い自力でまとめあげることである。						
到達目標	担当教員と学科での卒業研究審査に耐える水準を確保すること。						
授業計画	<p>1：卒研とは何か（1）テーマの設定方法・・・関心の分野の設定、研究企画を立てる、論文の書き方、制作イメージ提案、先行研究、</p> <p>2：卒研とは何か（2）年間の研究計画</p> <p>3：卒研とは何か（3）学生との討論</p> <p>4：学生のテーマ発表と討論（1）</p> <p>5：学生のテーマ発表と討論（2）</p> <p>6：学生のテーマ発表と討論（3）</p> <p>7：研究内容、計画の検討、発表、・・・先行研究、情報収集、文献読み込み、制作方法</p> <p>8：学生指導（1）</p> <p>9：学生指導（2）</p> <p>10：学生指導（3）</p> <p>11：学生指導（4）</p> <p>12：中間発表準備</p> <p>13：学生発表指導（1）</p> <p>14：学生発表指導（2）</p> <p>15：学生発表指導（3）</p> <p>16：論文、制作内容の骨子構築、確認・・・ゼミでの中間発表</p> <p>17：論文の作成指導①・・・情報、文献、調査、類似制作物の検討・イメージアップ</p> <p>18：調査の進め方</p> <p>19：類似作品の検索、検討</p> <p>20：学生指導（1）</p> <p>21：学生指導（2）</p> <p>22：学生指導（3）</p> <p>23：論文の作成指導②・・・原稿を書く、制作する</p> <p>24：学生指導（1）</p> <p>25：学生指導（2）</p> <p>26：学生指導（3）</p> <p>27：卒業研究のまとめ指導</p> <p>28：学生指導（1）</p> <p>29：学生指導（2）</p> <p>30：ゼミ内発表、講評</p> <p>31：プレゼンの準備</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマを設定し、資料を集め、読み、資常に自分で考える習慣をつける普段の努力を、少しずつでもいいからゼミ以外でも怠らないこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	ハウジング領域及び学科教員による審査を経た上で、平常点30%、研究（論文、制作）内容70%						

教科書	プリント配布
参考書	適宜紹介

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	米原 慶子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	ハウジングデザイン領域の建築設計、インテリアデザイン等の卒業制作						
授業の概要	デザイン特別演習を通じ、各自が考えた住空間デザインへの問題提起をテーマとし、提案的な卒業研究/制作に取り組む。 ゼミ形式で、各自のテーマに応じて必要な調査を行ない、随時発表・討論を行ないながら制作をすすめ、様々な住空間の計画・設計、インテリアデザイン等の作品にまとめる。 またそのプロセスについては、制作ノートにまとめる。 図面、模型、スライド等に表現し、プレゼンテーションを行なう。 キーワード：住空間、卒業制作、プレゼンテーション						
到達目標	各自興味のあるテーマについての理解、問題意識を深め、表現力を高めて、まとまった建築設計、インテリアデザイン作品に仕上げ、プレゼンテーションを行う。						
授業計画	第1回	ガイダンス、第1段階 「卒業制作のテーマに関する基礎研究」 敷地設定、参考作品など資料の収集と前提条件の整理					
	第2回	第1段階 敷地図、既存図の作成、 参考作品研究（図面トレース、スタディ模型制作等）、ヒアリング等					
	第3回	第1段階 参考作品、ヒアリング結果等の分析					
	第4回	第1段階 基礎研究のまとめ					
	第5回	第1段階 基礎研究の発表用パワーポイントの作成					
	第6回	第1段階 基礎研究の発表、第2段階の準備					
	第7回	第2段階 「基本計画」 エスキース					
	第8回	第2段階 エスキースチェック、修正					
	第9回	第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成					
	第10回	第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成					
	第11回	第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成					
	第12回	第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成					
	第13回	第2段階 まとめ、中間発表用パワーポイントの制作					
	第14回	第2段階 パワーポイントのチェック、修正					
	第15回	第2段階 中間発表と講評、夏休みの宿題計画					
	第16回	第3段階 夏休みの宿題のまとめ、第3段階の計画					
	第17回	第3段階 夏休みの宿題発表、第3段階「詳細設計」準備					
	第18回	第3段階 詳細図、パース、模型などの制作					
	第19回	第3段階 詳細図、パース、模型などの制作					
	第20回	第3段階のまとめ、中間発表用プレゼンテーションボードの制作					
	第21回	第3段階 中間発表、講評。追加修正事項の指導					
	第22回	最終段階 追加修正図面の作成					
	第23回	最終段階 プレゼンテーションボードの制作					
	第24回	最終段階 プレゼンテーションボードの制作					
	第25回	最終段階 プレゼンテーションボードのチェック					
	第26回	最終段階 制作ノートの整理、まとめ					

授業計画	第27回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのプリントアウト、学科提出 第28回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのチェック、修正 第29回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートの完成、最終提出。概要集用原稿の作成 第30回 最終段階 発表用パワーポイント、原稿の作成
授業外における学習（準備学習の内容）	興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。 テーマ関連の建築や展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。
授業方法	ハウジングデザイン領域の卒業作品制作を中心としたゼミナール。
評価基準と評価方法	評価比率は、最終作品の評価50%、中間段階の提出物20%、平常点30%とする。
教科書	
参考書	各自のテーマに応じて紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	地域貢献デザイン演習						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「地域イベントに積極的に参加し、学生の立場から貢献方法を提案する。」						
授業の概要	従来、課外活動として実施してきた兵庫県の県民ふれあいの祭典、神戸市の神戸ビエンナーレ、神戸ファッションウィークなどの関連イベントとの連携をさらに充実させるため、その実績を振り返り、併せてゲストスピーカーによる各イベントの紹介を通じて、地域貢献活動への積極的な参加を促進させるため演習を行う。						
到達目標	学生らしい視点を持って地域で実施されているイベントへの参加意識を高め、地域貢献への具体的提案を可能にする。						
授業計画	1) オリエンテーション 2) 神戸市・兵庫県の地域イベントについて 3) 従来のイベント参加 - 1 - 4) " - 2 - 5) " - 3 - 6) " - 4 - 7) " - 5 - 8) 神戸ビエンナーレについて ゲストスピーカー講演 9) 神戸デザイン都市について " 10) 神戸ファッションウィークについて " 11) 地域貢献デザイン提案 - 1 - 12) " - 2 - 13) " - 3 - 14) プレゼンテーション 15) 講評						
授業外における学習(準備学習の内容)	地域に対する関心を高め、イベントなどを積極的に見学する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点30%、レポート、プレゼンテーション課題70%で表現する。						
教科書	特になし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	テキスタイルデザイン演習						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	テキスタイルデザインに挑戦する						
授業の概要	テキスタイルをデザイン・生産するための基本知識習得を目的として衣服の素材であるテキスタイルの構造、性質、組織、生産、染色、加工技法などの特徴を知るとともにさまざまな民族に伝わる独自の染色・加工方法などを紹介及び理解する。これらの基礎知識に基づいて学生オリジナルのプリント柄や織物のデザインをテキスタイル専門CADソフトを用いて作品制作する。						
到達目標	テキスタイルに関する基礎や天然染色技法などを身につけるとともに、専門のテキスタイルデザインソフト4Dboxを用いたプリントデザイン、先染めデザイン、ニットデザインをマスターすることを目指す。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションおよび授業の全体の流れを説明する 2. ファッション製品の素材 3. 繊維からファッション製品になるまで 4. 糸、布をデザインすることとは？ 5. 染色技法について - ①天然染色、柿渋染め、藍染め 6. 染色技法について - ②型紙染め（シルクスクリーン） 7. テキスタイルCAD (4Dbox) の基礎を学ぶ 8. テキスタイルCAD—糸のデザイン 9. テキスタイルCAD—先染め（ストライプ、ボーダーデザイン） 10. テキスタイルCAD—チェック柄デザイン 11. テキスタイルCAD—花柄デザイン 12. テキスタイルCAD—ニットデザイン 13. テキスタイル柄の3Dマッピング 14. 作品制作 15. 作品発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Photoshop やIllustratorを併行して授業を進めるのでデザインソフトを使用できること						
授業方法	配布プリント、スライドの内容にそって実習する。						
評価基準と評価方法	作品提出（50%）およびレポート（20%）、作品発表（30%）						
教科書	特になし。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン企画論						
担当教員	石崎 真紀子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	ブランド・ショップ構築のための理論と方法						
授業の概要	消費者を魅了する新しいブランドやショップはどのように生まれてくるのか？ファッションからライフスタイル全体まで、ボーダレスな分野で活気つくブランドの実例をひもときながら、ブランドを企画するために必要なマーケティング知識、ターゲット設定、コンセプトづくり、商品企画、イメージ戦略、販促計画等、理論と方法を「マイブランド構築のプロセス」をシミュレーションしながら身につけていきます。						
到達目標	将来自分のブランドやショップを構築するための基本的な知識と方法を知ることができます。ブランドの意味や価値の創造について学び、ファッションビジネス、ライフスタイルビジネスに対して、理論的にアプローチすること、実践することができるようになります。						
授業計画	第1回 ファッションビジネスからライフスタイルへ拡大する市場について 第2回 マーケティング基礎知識 (1) 今の時代を読む 第3回 マーケティング基礎知識 (2) リサーチの手法 第4回 クラスタ分析 (1) クラスタを特徴づけるものとは 第5回 クラスタ分析 (2) さまざまな世代の特徴と商品志向の違い 第6回 ターゲット設定の仕方 (1) さまざまなブランド事例から見るターゲット設定 第7回 ターゲット設定の仕方 (2) ペルソナ分析、その事例と方法 第8回 ターゲット設定の仕方 (3) ライフスタイル分析について 第9回 ブランディングの重要性と意義 第10回 マイブランドを考える (1) コンセプトの立案 第11回 マイブランドを考える (2) 商品開発の方法と商品構成 第12回 マイブランドを考える (3) ショップ環境の考え方 第13回 マイブランドを考える (4) 販促方法・販促計画 第14回 マイブランドを考える (5) 販売戦略・接客サービス 第15回 マイブランドの発表と評価						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業後学習として、講義で習得した視点でさまざまなショップ、ブランド、顧客動向などを市場で観察し、マイブランド構築のための情報収集しましょう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート (課題制作) 70% 発表 30%						
教科書	毎回、資料を配付します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習A						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション・デザインの基礎知識を学ぶ。						
授業の概要	デザイン基礎演習Aではファッション領域における学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、毎回1課題、演習を行う。ファッションの作品を読み取る能力を養う。一般的デザインプロセスにおける情報生成の重要性を理解し、必要とされるコミュニケーション・スキルを習得する。消費者の立場から、自分のワードローブ、パーソナルカラーの分析を行い、アパレルデザインを成立させている基礎概念を理解する。生産企業の立場から、ファッション市場の要因となるファッションイメージや好み（テイスト）を分類・操作するスキルを習得する。ファッションの作品からデザインやカラーなどを分析し、デザイナーの思いを読み取る。						
到達目標	ファッション領域において消費者側や企業側のプロセスを理解し、分析力、表現力、デザイン力、文章力のスキルが身に付いた。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、今日のファッション分析 2. “My Fashion History EPISODES” 3. 「神戸コレクション」参加ブランドの比較 4. 「ファスト・ファッションブランド」の比較 5. 「私のファッション・リーダー（アイコン）」 6. ファッション情報収集 7. ライフスタイルと自己表現 8. ライフスタイルと購買行動 9. パーソナル・カラー 10. ワードローブチェック 11. マイブランド&マイブーム 12. ファッションと感性用語 13. ファッションと素材の分類 14. ファッションスタイルの分析 15. 神戸とファッション 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	演習形式。						
評価基準と評価方法	提出物100%						
教科書	プリントを配布。						
参考書	授業中に紹介。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎演習B						
担当教員	増永 理彦・中林 浩・米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	デザインとは何か、アーバンデザインに親しむ、住空間の魅力の3テーマ						
授業の概要	<p>●目的 テーマ：ハウジングデザインの学び方—インテリア、住居、まちづくりの3分野— (1) デザイン基礎演習A、Bは導入教育である。 ①高校までとは大きく違う大学での勉強や生活がスムーズに展開していくように、学科の専任教員が指導する。1年間にわたるFHD学科入門授業であり、少人数・演習形式で意見交換しながら、大学や学科でどのような専門的勉強をしていくのか、疑問に答える。 ②具体的には、FHD学科4年間での学習のイメージを掴むこと ・教育内容を専任教員から学ぶ・・・教員専門分野の基礎の基礎を紹介 ・勉強の仕方・・・高校までとはまるで違う大学の勉強 ・キャリアプランを考えるきっかけ・・・将来どの方向に進むか ③4クラス（HR的な基礎クラス）の双方向・小人数の演習であり、自由に意見を出して欲しい、</p> <p>(2) ハウジングデザイン領域での担当別狙い 増永：住居デザインとは何か、4年間でのどのような学習を積み上げるのか、およびキャリアについてについて、考えるきっかけを与えたい。 中林：景観学習の意義・欧米との違いなど概略学習し、また調査方法についても身につけさせる。 米原：ハウジングとインテリアのデザイン学習の意義・面白さを知り、具体的スキルの向上法についても体得させる。</p> <p>●概要 増永：ハウジングデザインの分野は勉強も将来の仕事もその範囲は幅ひろく、奥行きも深いことを少しでも理解してもらおう。そのことで、勉強や将来の仕事を考える場合に狭い“考え”や“こだわり”があるならば、それをいったん捨てて勉強に取り組むことの大事さを理解して欲しい。 中林：アーバンデザイン（都市の設計）の導入編である。よい町とはどういうものなのか、あるいは町の美しさをどうとらえたらいいかを考え話しあう。まちづくりゲームというような形式をとり楽しみながらできる演習とする。そのなかで美術史の学習をしたり、絵ごころを養う訓練をする。 米原：主題・・・住空間のデザイン（インテリア/エクステリア）とその学び方 目標・・・住空間のデザインについて、学習の意義や楽しさを知り、体験的・実践的な学び方を身につける。</p>						
到達目標	3テーマについて、何か獲得し、自分の言葉で話ができること。						
授業計画	<p>(増永担当) 第1回 本演習の全体、ハウジングデザインとは・・・、住居とデザインの拡がり 第2回 ビデオをみてハウジングデザインを考える (1) 第3回 ビデオをみてハウジングデザインを考える (2) 第4回 自分の住まいを解剖する</p> <p>(中林担当) 第1回 都市の写真「どこの国でしょう」、そして美術史の話 第2回 話しあいによる解決その1——「月で迷ったゲーム」 第3回 話しあいによる解決その2——「迷宮の建設ゲーム」 第4回 アーバンデザインの絵心、想像をたくましく</p> <p>(米原担当) 第1回 ガイダンス、レポート第1課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書の探し方、レポートの作り方 第2回 住空間の魅力（スライドレクチャー） 第3回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート 第4回 住関連の資格と職能について（講義） 第13回 現地調査の意義と方法などの説明会 第14回 調査、資料収集、分析 第15回 各自から発表</p> <p>ただし、今期は過年度生ようであるので、かなり変則的な形で授業を行う。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	オムニバスで、テーマは広いが、各担任の指示に従って、関連の資料や書籍などを読むことが大事						

授業方法	・ 3人の専任教員により、4コマずつのオムニバス方式と残り3コマの現地調査により進める。進め方は各教員独自の方法を探る。
評価基準と評価方法	・ 演習時の発表、レポート、出席、演習時の積極性などについて3人の専任教員により、計5コマずつの成績をつけ、総合評価する。詳細は各教員から説明する。
教科書	・ プリント配布
参考書	・ 随時紹介する

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	造形活動の心理学						
授業の概要	視覚的な芸術作品制作の基礎となる心理学的な知識を解説する。まず、見ることのメカニズムを絵画、幾何学的錯視、遠近法などから考え、画面の左右差を大脳の左右差と関連させる。次いで、子どもの描いた絵を取り上げて、描画の発達や創造性、絵に表れた心情などについて心理学から説明する。画面の左右差について簡単な実験を行う。授業を聴くだけでなく、紙と鉛筆を使った簡単な実習をまじえる。						
到達目標	一般的な視覚的体験と、視覚芸術の共通点を見つける。 デザイン制作に直ちに役立つ技量の養成というよりも、基礎となる知識の理解に重点を置く。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 美的欲求、マズローの欲求階層説、心理学と美学 2. サプリミナル単純接触効果 3. 無意識の諸相（ダリとフロイト） 4. 図と地と近代絵画 5. 幾何学的錯視 6. 恒常性 7. 遠近法 8. 色のイメージ 9. 大脳の左右差 10. 左右反転と美的判断 11. 構図について 12. 流行の心理学 13. 子どもの絵と対象の理解 14. 創造性の因子 15. 筆記試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	インターネットなどで授業内容に関する事柄を事前に調べる。授業で書き留めたノートを復習する。						
授業方法	講義、視聴覚教材、簡単な実習						
評価基準と評価方法	筆記試験（50%）と提出物など（50%）により総合的に評価を行います。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	仲谷・藤本「美と造形の心理学」（北大路書房）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	コンセプト・文献調査に基づいた衣服造形法の習得						
授業の概要	ファッション分野の基礎科目、ファッションデザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識やスキルを総合し、文化、社会、流行、生活、身体などあらゆる側面からファッションについて分析考察し、それらを衣服造形として表現する手法を学ぶ。一方で、衣服造形では、歴史的側面から形態、装飾技法を捉えることも可能である為、歴史的文献を解説し、衣装の再現製作を行う為の原書講読力や考察力を養う。ここでは、衣服造形におけるテーマ設定を重視し、さらに、資料・文献収集法、発表方法、デザイン画作成法、平面製図法や立体的断法についても学び、卒業研究のための基盤づくりを行う。						
到達目標	コンセプトや文献調査の結果をまとめ、それを基にした衣服造形力を習得できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：文献収集法の説明、テーマ設定 2. テーマ設定①：テーマの設定とキーワードの抽出 3. テーマ設定②：文献収集 4. テーマ設定③：「研究目的」をまとめる 5. テーマ設定④：「研究方法」を決める 6. 発表①：研究目的・研究方法、テーマ内容について発表する 7. 製作①：ポートフォリオ作成法 8. 製作②：デザイン構想1 9. 製作③：デザイン構想2 10. 製作④：デザイン画作成法と実践 11. 製作⑤：デザイン画作成 12. 製作⑥：デザイン画決定・素材決定 13. 製作⑦：パターン理論の説明と実践(パターン作成) 14. 発表②：発表原稿とパワーポイント作成 15. 発表③：発表・講評会 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習形式(個人指導を含む)						
評価基準と評価方法	課題発表 (50%)、課題提出 (50%)で評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「興味あるもの」を見つける						
授業の概要	ファッションデザイン実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培ったスキルを応用し、作品を制作する。初めに、これまで学んできたイメージ、歴史、身体、文化に関する知識を基に、各自の興味に沿ったコンセプトの設定、衣服のデザイン、素材、ボリュームのプランニングを提示する。その際、ファッションプレゼンテーション演習Ⅱと合わせて、企画、制作、発表という一連の流れを意識し、卒業研究・制作を視野に入れることが望ましい。次に、デザインした衣服の中から最もコンセプトを表現できる一体を選択、制作させる。						
到達目標	自分が興味があるものを見つけ、研究としてどう探っていくのかを学ぶ						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションおよび授業の全体流れの説明 2. 研究とは 3. 研究方法を学ぶ 4. 研究資料（文献、書籍、論文など）を調べる 5. 研究資料の分析および結果のまとめ方法 6. 研究テーマを決める （興味のある分野、キーワードなどをまとめ、研究テーマを決める） 7. 研究の目的を探り、研究計画を立てる 8. 研究、調査方法を考える 9. 研究資料（文献）調査－① 10. 研究資料（文献）調査－② 11. 研究資料の分析 - ① 12. 研究資料の分析 - ② 13. 調査・分析結果のまとめ - ① 14. 調査・分析結果のまとめ - ② 15. 成果物の発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献調べができるように図書館などで様々な文献を調べる学習						
授業方法	配布プリント、スライドの内容にそって実習する。						
評価基準と評価方法	レポート（40%－2回）、発表（60%－2回）を加味する。						
教科書	配布プリントを参考すること						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「着る・装う」という行為を様々な方法から学ぶ。						
授業の概要	3年次までに学んだ生活文化概論、ライフスタイル論、ボディーファッション論、感性デザイン論等の広範囲な知識を基礎に、時代、社会、地域等の背景を踏まえながら、「着る・装う」という行為に対する人間の心の動きまでを読み解ける力を養う。「着る」ことは、ヒトとモノの複合的な関係性から成り立ち、どのような側面を扱うかによって文化的にも科学的にもアプローチが可能になる。そのため複数ある実験や調査方法、官能検査、統計解析、資料・文献収集、画像学的分析等の方法から目的にあった手法を選択できるよう演習を通じて学ぶ。						
到達目標	テーマに基づき試料や情報を収集し、分析する手法を理解する。さらに分析力、発想力、文章力が身に付いた。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）： 2. 図書館の利用の仕方と文献収集 3. 文献のまとめ方 4. 論文の書き方の説明 5. 論文の書き方の練習、発表 6. 調査方法と実験方法の説明 7. アンケート作成の練習、発表 8. インタビューの練習、発表 9. 官能検査の説明 10. SD法の説明 11. 統計解析の演習① Excelを使って練習、発表 12. " ② ソフトSPSSによる練習（検定法） 13. " ③ ソフトSPSSによる練習（多変量解析） 14. 多変量解析による結果と読み方、発表 15. 文献資料のまとめ方 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業内にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	発表70%、提出物30%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	演習中に紹介。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>4年生での卒業研究へと続く都市計画・まちづくり・地域計画に関するゼミです。都市計画の歴史や都市のあり方の新しい理論を学習しつつ、具体的な地域の調査を行います。オリジナリティのある研究・制作ができるような準備をすることがいちばん重要なことです。文献購読、話しあい、調査、調査のまとめをします。「3年生論文」というようなかたちで、卒業論文にむけたものを作成します。A4で3枚ほどの短いものとします。各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのを基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもあります。木曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがあります。</p>						
授業の概要	【「授業のテーマ」参照、わたしにはこういうものをテーマ・概要・到達目標・授業方法というように細切れには書けないのです、思考が平板になってしまいます】						
到達目標	【「授業のテーマ」参照】						
授業計画	<p>ゼミであるから、ゼミ員の討論によって変わります。</p> <p>1 ゼミ1回め 2 ゼミ2回め 3 ゼミ3回め 4 ゼミ4回め 5 ゼミ5回め 6 ゼミ6回め 7 ゼミ7回め 8 ゼミ8回め 9 ゼミ9回め 10 ゼミ10回め 11 ゼミ11回め 12 ゼミ12回め 13 ゼミ13回め 14 ゼミ14回め 15 ゼミ15回め</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。</p> <p>「ゼミ」以外のものが2つ隠れています。なにとなにでしよう。このゼミでは言葉の遊びも大歓迎。</p> <p>ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ</p>						
授業方法	【「授業のテーマ」参照】						
評価基準と評価方法	ほとんどを提出物で採点します。参加の積極性を加味することがあります。						
教科書	新書を2冊ほど選定します（講義が始まってから）。						
参考書	授業中にたくさん紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション現象への関心とコミュニケーション・デザイン						
授業の概要	3年次までのデザイン基礎科目やイメージリテラシー科目の学習を基盤に、ファッション領域を中心とするデザインの記号的な側面を理解し、その背景や基盤となる社会・文化的要因への関心を高める。またそうした理解を踏まえて具体的な現象の中にテーマを探し、新たな視点からその分析や考察を試み、その結果を分かり易い視覚表現に編集することでパンフレットなどのメディアデザインを通じたコミュニケーションを目標とする。他方で創造的かつ魅力的なイメージ表現手法やメディア操作技法の習得も試みる。さらに卒業研究の前段階として各自の問題意識の深化とテーマの具体化を促す演習を行う。						
到達目標	各自のテーマの確立と卒研の予備的作品制作						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマ設定 (1) 従来の履修内容・関心事項、将来の進路などの検討 3. テーマ設定 (2) キーワードの整理と抽出 4. テーマ設定 (3) 研究目的・対象・方法・成果物の検討 5. 調査資料の収集・検索方法、調査計画・スケジュール 6. テーマ説明 (1) 質疑応答 7. テーマ説明 (2) 質疑応答 8. テーマ説明 (3) 質疑応答 9. 資料検討 (1) 収集資料の要約・整理 10. 資料検討 (2) 収集資料の要約・整理 11. 資料検討 (3) 収集資料の要約・整理 12. レポート概要・項目・目次の検討 13. レポート・提出物制作 (1) 14. レポート・提出物制作 (2) 15. プレゼンテーションと講評 						
授業外における学習(準備学習の内容)	各自のテーマを踏まえて関連資料の収集や取材を自主的に進めること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点(授業への積極的な参加、欠席の場合は減点) 20%、プレゼン 20%、レポート・成果物 60%						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	増永 理彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	4年での卒業研究のテーマを自ら設定すること						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本演習は、4年次での卒業研究（設計、論文）の準備段階と位置づけ、1～3年間前期で学んだことを基礎にしながら、自分でテーマを設定し、自分の考えることを論文レポートもしくは基本設計図等にまとめあげることが狙いである。 ・テーマは、インテリア（非設計）、住居全般から各自の興味・関心に応じて教員と相談しながら決める。 ・まとめ方として、レポート（論文）、基本設計かは各自選択できる。 						
到達目標	本演習終了後には、卒業研究のテーマが設定（意義・目的、調査方法の概要、あるいは制作の場合はそのコンセプトと具体的な作品などの概要）できていること						
授業計画	第1回 ガイダンス、特別演習のテーマ設定と進め方 第2回 テーマ設定・・・住宅の再生、高齢者居住、住居全般のなかで各自何を選ぶか 第3回 テーマ設定・・・各自のイメージメモを 第4回 テーマ設定・・・各自レポート 第5回 テーマ設定・・・各自のテーマの大枠設定 第6回 各自から関連資料・図書、設計作品の提示、イメージスケッチなど（1） 第7回 各自から関連資料・図書、設計作品の提示、イメージスケッチなど（2） 第8回 レポート骨子、スケッチ（1） 第9回 レポート骨子、スケッチ（2） 第10回 中間講評、見学会 第11回 まとめかた・・・レポートと基本設計の描き方 第12回 まとめる（1）レポートと基本を設計描く 第13回 まとめる（2）レポートと基本設計を描く 第14回 まとめる（3）・・・完成させる 第15回 全員による講評会						
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマ設定に関する書籍や資料を読み、考え、あるいはヒアリングなどを積極的に行なうこと。						
授業方法	演習形式、討論重視						
評価基準と評価方法	平常点30%、レポート70%						
教科書	プリント配布						
参考書	授業中に随時紹介						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究/制作につながる基礎研究とテーマ設定						
授業の概要	住空間のデザインについて、これまでの学びを振り返り、各自興味のあるテーマについて、学びを深める。近現代の建築家やデザイナーの作品を社会的、文化・芸術的視点から読み解きながら、問題意識を深めていく。関連する作品集や著書等を読み、また可能な限り見学して、思想や手法を学び、レポートにまとめる。またポートフォリオや小課題の制作、発表、討論を積み重ね、最終的に住空間デザインへの問題提起につなげ、卒業研究/制作のテーマ設定を行なっていく。 キーワード：住空間、問題意識、テーマ設定						
到達目標	各自興味のあるテーマについて、理解や問題意識を深め、卒業研究/制作のテーマ設定を行う。						
授業計画	第1回 ガイダンス、卒業制作のテーマ設定について、ポートフォリオの作り方 第2回 第1課題 ポートフォリオの作成 第3回 第1課題 ポートフォリオの作成 第4回 第1課題 発表と講評、第2課題 デザイナー/テーマ研究 課題説明 第5回 第2課題 参考資料検索、質疑応答 第6回 第2課題 参考作品資料の作成 第7回 第2課題 発表と討論、第3課題の説明 第8回 第3課題 3Dモデリングの練習 第9回 第3課題 3Dモデリングによるインテリアエレメントの作成 第10回 卒業制作のテーマ設定 中間発表と討論 第11回 第4課題 卒業制作のテーマについて 個別相談 第12回 第4課題 卒業制作のテーマについて 個別相談 第13回 第4課題 卒業制作のテーマについて 発表用パワーポイントの制作 第14回 第4課題 パワーポイントによる発表（ゼミ内）、講評 第15回 第4課題 パワーポイントの追加、修正						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。テーマ関連の建築や展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。						
授業方法	演習および実習（CADも使用）						
評価基準と評価方法	平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。（評価比率：小課題30%、最終課題40%、平常点30%）						
教科書	プリントを配布する。						

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザインの仕事						
担当教員	増永 理彦・中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションとハウジング両領域におけるキャリア形成への動機付け						
授業の概要	近年キャリア教育の必要性が高まり、本学でも授業科目のなかにキャリア・ビジネス系列として、組み込まれている。ただ、これらは全学的な共通科目であり、専門教育分野での基礎的キャリア科目はなかったため、今回新たに開設するものである。授業内容は、企業の第一線で働く先輩たちの専門的な仕事の実態を、ゲストスピーカーとしてオムニバス形式で話をしてもらう（ファッションとハウジングの両領域7コマずつ）						
到達目標	社会の第一線で積極的に働く多様なジャンルの企業人による最先端の授業を受けることで、現場・現実について幅ひろい知識を習得する。そのことにより卒業後の自らの方向を決めるきっかけとなし、あるいはそのヒントを掴む						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（増永理彦・FHD教員）</p> <p>第2回 ファッションデザインの世界（柘伸江・（株）ダブディビ・デザイン代表取締役）</p> <p>第3回 ファッションデザイナーの仕事（柘伸江・（株）ダブディビ・デザイン代表取締役）</p> <p>第4回 スポーツウェアの仕事（藤原一彦・（株）デサント企画開発部長）</p> <p>第5回 インナーウェアの仕事（岡本久美子・（株）ワコール企画開発課長）</p> <p>第6回 ブランドプロデュース（増田幾子・（株）マジョリティアンドマイノリティ代表取締役）</p> <p>第7回 バイヤーの仕事（岩高要子・（有）マトッティ専務取締役）</p> <p>第8回 ポジャギの仕事（李京玉・ポジャギ工房 k o e 主宰）</p> <p>第9回 インテリアの仕事（新治照美・インテリアコーディネーター協会関西会長）</p> <p>第10回 インテリアコーディネーターの役割</p> <p>第11回 建築設計事務所の仕事（松田亜紀・建築設計事務所）</p> <p>第12回 工務店の仕事（木村広美・デザインラ大蔵）</p> <p>第13回 照明の仕事（齊藤珠美・パナソニック照明事業部）</p> <p>第14回 カーペットファブリックの仕事（竹原・アートコア代表）</p> <p>第15回 家具関係の仕事（村上和美・（株）アクタス）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回異なった分野の先生方の講義であるが、どのような仕事の話なのか、ウェブなどで前もって自分で下準備しておく、より理解が早くかつ一層身につく						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のレポート（授業終了時に回収）（70%）と平常点（30%） ・ファッション領域は専任教員の中村、ハウジングデザイン領域は同じく専任の増永が評価などを担当し、全体総括は増永が担当する 						
教科書	なし						
参考書	授業で紹介する						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングインターンシップ						
担当教員	単位認定者：増永 理彦						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	インターンシップにより建築設計実務の実態を知る						
授業の概要	兵庫県建築設計監理協会などが実施する夏期インターンシップ（ワークスタディ）に参加して、10日間程度建築設計事務所にて実務研修を受ける実習科目である。そのことにより、社会現場から実践的かつ実務の仕事実態と設計スキルを学び、かつ、事務所所員などと人的交流することで、自分のキャリアイメージ形成にも役立たせる。						
到達目標	建築設計実務のある部分について、自分の言葉を駆使して語れるようにする。						
授業計画	<p>設計事務所での10日間実習内容（モデル）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所長による設計事務所の業務内容の説明、10日間のガイダンス ・着工前現場説明と現地見学・・・着工前のマンション（A） ・工事中現場説明と現地見学・・・工事中の戸建住宅（B） ・（A）についての設計図面類の解説 ・（A）戸建住宅注文主との打ち合わせ同席 ・（B）についての設計図面類の解説 ・（B）戸建住宅注文主との打ち合わせ同席 ・（A）についての模型制作 ・（B）についての仕上げ部材色彩計画 <p>前後の説明会・反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学内での担当教員からのインターンシップ内容説明と実習後の報告会 ・10日間の実習まとめと事務所所内会議での成果発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	インターンシップ先の企業について、事前によく調べておくこと。						
授業方法	上述のとおり						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の基準：研修日報とレポート提出（10月上旬） ・成績評価者：FHDのハウジング領域担当教員 						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングCAD実習						
担当教員	川瀬 琢己						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	2次元CADの習得と基本的な建築的思考						
授業の概要	ハウジングデザインの主要な表現方法である建築CADの基本を学ぶ。CADソフトには、VectorWorksを用いて、住宅の平面図や家具図等の2次元的制作を行うための図面表現と操作方法を修得する。図形描画と画像取り込みによるデザイン構成の課題や主要な建築家やデザイナーの作品を題材にしたトレース課題に取り組み、デザインについての理解を深めながら、各自のデザインに応用し、住宅の設計図を描いていく方法を身につける。(主に建築物を対象。)						
到達目標	住宅・家具図面のトレース、基本的な住宅設計を通じて2次元CADを習得。基本的な建築的思考についても知ることができる。						
授業計画	第1回 : ガイダンスと基本操作 第2回 : 基本操作演習Aと第1課題「木造住宅“箱の家” (設計: 難波和彦)のトレース」課題発表・手順0~2 第3回 : 基本操作演習Bと第1課題 手順3 第4回 : 基本操作演習Cと第1課題 手順4 第5回 : 基本操作演習Dと第1課題 手順5~6 第6回 : 第1課題 完成まで 第7回 : 第2課題「家具“ソラリス”(設計: 倉俣史朗)のトレース」 第8回 : 第3課題「RC住宅“Y-House”(設計: 妹島和世)のトレース」手順1~7 第9回 : 第3課題 手順8~完成まで 第10回 : 第4課題(合同課題)「六甲の小住宅(2階建)の設計」の課題発表 第11回 : 第4課題 エスキス 第12回 : 第4課題 CAD図面制作 第13回 : 第4課題 模型制作 第14回 : 第4課題 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 第4課題 プレゼンテーション及び講評会						
授業外における学習(準備学習の内容)	いわゆる予習は必要としないが、授業中に到達すべき点に達することができなかった場合、教室の空き時間を利用し作業を進めておく必要がある。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点15%、第1課題の成績15%、第2課題の成績10%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	書名 : 第2版 コンパクト建築設計資料集成 住居 著者 : 日本建築学会 出版 : 丸善 ISBN : 4621035894						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングCAD実習						
担当教員	長瀬 りか						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	2次元CADの習得と住宅設計の考え方・表現法の習得						
授業の概要	ハウジングデザインの主要な表現方法である建築CADの基本を学ぶ。CADソフトには、VectorWorksを用いて、住宅の平面図や家具図等の2次元的作図を行うための図面表現と操作方法を修得する。図形描画と画像取り込みによるデザイン構成の課題や主要な建築家やデザイナーの作品を題材にしたトレース課題に取り組み、デザインについての理解を深めながら、各自のデザインに応用し、住宅の設計図を描いていく方法を身につける。(主に建築物を対象。) キーワード：住宅設計、2次元CAD						
到達目標	住宅・家具図面のトレース、基本的な住宅設計課題を通じて、2次元CADによる製図・表現の基礎技術を習得するとともに、住宅建築の設計の進め方、考え方についての基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 : ガイダンスと基本操作 第2回 : 基本操作演習Aと第1課題「木造住宅“箱の家” (設計：難波和彦)のトレース」課題発表・手順0～2 第3回 : 基本操作演習Bと第1課題 手順3 第4回 : 基本操作演習Cと第1課題 手順4 第5回 : 基本操作演習Dと第1課題 手順5～6 第6回 : 第1課題 完成まで 第7回 : 第2課題「家具“ソラリス”(設計：倉俣史朗)のトレース」 第8回 : 第3課題「RC住宅“Y-House”(設計：妹島和世)のトレース」手順1～7 第9回 : 第3課題 手順8～完成まで 第10回 : 第4課題(合同課題)「六甲の小住宅(2階建)の設計」の課題発表 第11回 : 第4課題 エスキス 第12回 : 第4課題 CAD図面制作 第13回 : 第4課題 模型制作 第14回 : 第4課題 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 第4課題 プレゼンテーション及び講評会						
授業外における学習(準備学習の内容)	各課題は各回の授業計画に沿って解説を行い、課題制作を進めるため、授業時間内にその回に到達すべき点に達することができなかった場合は、次回までに教室の空き時間を利用し作業を進めておく必要がある。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点15%、第1課題の成績15%、第2課題の成績10%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	書名：第2版 コンパクト建築設計資料集成 住居 著者：日本建築学会 出版：丸善 ISBN：4621035894						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン概論						
担当教員	増永 理彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ハウジングデザインに関する基礎的知識の習得。						
授業の概要	ハウジングデザインに関する入門として、住居とそのデザインに関する概要を知る基礎的講義である。ハウジングデザイン論Ⅰ、ハウジングデザイン論Ⅱと連携し、3科目全体でハウジングデザインの基礎や大要を把握できるようにする。ハウジングデザインに関する科目では、唯一必修科目に指定されている。						
到達目標	日本の住まいの特徴、住居の歴史、住居の間取り、現代の課題などの基礎項目について、自分の言葉で語れるようになること						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、住まいの色々 (スライド) 2. 日本の住まいの特徴 3. 住居の歴史・・・中世まで (スライド) 4. 住居の歴史・・・近代 (スライド) 5. 住居の歴史・・・現代 (スライド) 6. これからの住居・・・スライド 7. 間取りの特徴・・・公室、 8. ビデオ+小テスト 9. 間取りの特徴・・・私室、 10. 高齢者の住まい (元気な高齢者)・・・スライド 11. 高齢者の住まい (要介護高齢者)・・・スライド 12. 住宅の分類と選択 13. 戸建住宅と集合住宅 14. 高層居住・・・+小テスト 15. これからの住まい・・・学生からの提案、レポート+発表 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	住まいについては、生活の基礎であり、新聞でも家庭欄に限らず、社会面や経済面でもよく記事が書かれている。日々の新聞をよく読むことが大事 (新聞取っていない学生は図書館にある)。あるいは、自分の住んでいる住まいのしくみや問題を考えると非常に役に立つ。						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使用する以外に、プリント配布あるいはビデオ、スライドなどを活用する。 ・毎回、ハウジングデザイン等に関する質問を受け付ける。次回にコメントをするなど、双方向の授業とする。 						
評価基準と評価方法	平常点：30%、小テスト+レポート70%						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・湯川聡子他 著「新版 住居学入門」(学芸出版社) i s b n : 9 7 8 - 4 - 7 6 1 5 - 2 2 3 7 - 7 						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・その他授業中に適宜紹介する 						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習Ⅰ						
担当教員	井上 晋一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4～5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	ハウジング設計の基礎知識の習得						
授業の概要	低層住宅の単体あるいは集住・集合体について、2～3の課題を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計までを行なう。一年次に学習した住居の基礎知識あるいは2年前期での「ハウジングCAD実習」で習得するスキルを使いながら、立地・環境あるいは場所性を読み取り自らイメージした低層住宅についてスケッチしたうえで、CADにより平面、断面、立面の一般図とパースを作成し模型などを作る。各々の課題について、クラス全員の参加で講評会を行い、自分の考えたことを他人に伝えるプレゼンテーション能力も涵養する。						
到達目標	住宅設計のコンセプトづくりから図面作成・模型製作・写真撮影・プレゼンテーションと建築設計の一連の行程を実践することにより、建築設計の方法論を習得できます。						
授業計画	第1回 : 設計製図の基礎 第2回 : 実習課題1 「小住宅(平屋)のトレース」の課題発表 第3回 : 実習課題1 平面図のトレース 第4回 : 実習課題1 断面図のトレース 第5回 : 実習課題1 立面図のトレース、及び提出 第6回 : 実習課題2 「小住宅(2階建)の模型制作」の課題発表 第7回 : 実習課題2 模型制作 その1 第8回 : 実習課題2 模型制作 その2 第9回 : 実習課題2 模型完成、及び提出 第10回 : 実習課題3 「六甲の小住宅(2階建)の設計」の課題発表 第11回 : 実習課題3 エスキス 第12回 : 実習課題3 CAD図面制作 第13回 : 実習課題3 模型制作 第14回 : 実習課題3 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 実習課題3 プレゼンテーション及び講評会						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業内容が高度なため、なるべく授業時間内に課題を完了させるための十分な準備が必要 授業前学習: 授業計画に従い、授業までに教科書の該当箇所を読んでください。 授業後学習: 学んだことを整理しノートにまとめておきましょう。次々に新しい知識を習得しなければならないため、1回1回十分に知識を習得しましょう。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点15%、第1課題の成績10%、第2課題の成績15%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
教科書							
参考書	コンパクト建築設計資料集成〈住居〉 新しい建築の製図、第2版、「新しい建築の製図」編集委員会編、学芸出版社、ISBN4-7615-2375-1						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習I						
担当教員	吉田 文男						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	住宅設計の基礎を学ぶ						
授業の概要	低層住宅の単体あるいは集住・集合体について、2~3の課題を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計までを行う。一年次に学習した住居の基礎知識あるいは2年前期での「ハウジングデザインCAD実習」で習得するスキルを使いながら、立地・環境あるいは場所性を読み取り自らイメージした低層住宅についてスケッチしたうえで、CADにより平面、断面、立面の一般図とパースを作成し模型などを作る。各々課題について、クラス全員の参加で講評会を行い、自分の考えたことを他人に伝えるプレゼンテーション能力も涵養する。						
到達目標	手書きの設計製図、CADによる製図、住宅の1/100ペーパー模型を作成することで、基本計画のプロセスを学習する。その後、具体的な住宅敷地を課題に、エスキス（プランニング）から始め、CADにて計画図を描画し模型を制作する。描いた図面（配置・平面・立面・断面）と制作した模型を用いて、計画図を作成し講評会で自らの計画意図を述べ、プレゼンテーションを行う。住宅設計における計画実務のプロセスを、実習を通じて理解できるように至りたい。また、他の学生の作品を見て様々なアイデアや表現があることも感じ取って欲しいものである。						
授業計画	第1回 : 設計製図の基礎 第2回 : 実習課題1 「小住宅（平屋）のトレース」の課題発表 第3回 : 実習課題1 平面図のトレース 第4回 : 実習課題1 断面図のトレース 第5回 : 実習課題1 立面図のトレース、及び提出 第6回 : 実習課題2 「小住宅（平屋）の模型制作」の課題発表 第7回 : 実習課題2 模型制作その1 第8回 : 実習課題2 模型制作その2 第9回 : 実習課題2 模型完成、及び提出 第10回 : 実習課題3 「六甲の小住宅（2階建）の設計」の課題発表 第11回 : 実習課題3 エスキス 第12回 : 実習課題3 CAD図面制作 第13回 : 実習課題3 模型制作 第14回 : 実習課題3 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 実習課題3 プレゼンテーション及び講評会						
授業外における学習（準備学習の内容）	普段何気なく見ている住空間において、いろいろな場面での寸法を頭に入れるべく観察を行う。例えば、ドアの中や高さ、天井の高さ、廊下の中や浴室・トイレの広さ、家具の寸法など。外観では窓のデザインや屋根の形状など。他にも駐車スペースの中や奥行き。また隣家との関係性（敷地境界線からの距離や隣り合う窓の位置）や外構（門・塀・植栽）などにも改めて目を向けて貰いたい。新たなデザインは多くの事例を知ることから引き出されてくるものである。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点15%、第1課題の成績10%、第2課題の成績15%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
教科書							
参考書	コンパクト建築設計資料集成（住居） 新しい建築の製図、第2版、「新しい建築の製図」編集委員会編、学芸出版社、ISBN4-7615-2375-1						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習II						
担当教員	川瀬 琢己						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	既存市街地のなかで、共に住み続けていくために、集合住宅という形で地域と如何に繋がっていくかを、具体的な場所の中で考える。						
授業の概要	中低層の共同住宅を、敷地を設定して、企画から基本設計を行う。立地、環境、地域の特性を読み解く力を高める。地域に対して、場所の持つ特性を把握し、適切で、積極的に働きかける建築的仕掛けを企画していく。イメージする集合住宅をスケッチした上で、CADにより平面、断面、立面の一般図を作成し、パース、模型も含めて、プレゼン用のパネルを作成する。各々の課題について、クラス全員の参加で講評会を行い、自分の考えたことを他の人に伝えるプレゼンテーション能力を高めていく。						
到達目標	具体的な敷地のなかで、地域、場所の特性を読み解き、自分のコンセプトを育て、建築の表現力を養ってほしい。						
授業計画	第1回：ガイダンス、課題趣旨説明と進め方 第2回：課題の仮想敷地状況調査による敷地特性の把握 第3回：全体計画のイメージとコンセプトづくり 第4回：課題のプランニング 第5回：課題のプランニング。第1次案作成の上、提出 第6回：第1次案返却して案を練り上げていく。 第7回：基本設計（作図、スケッチ、パース等の作成） 第8回：基本設計（作図、スケッチ、パース等の作成） 第9回：基本設計図の作成、提出 第10回：基本設計案の最終チェック 第11回：模型作成 第12回：模型作成 第13回：模型作成とプレゼン用レイアウト案を作成し提出 第14回：プレゼン案をチェックし、修正してプレゼンテーションの準備。 第15回：全員による講評会						
授業外における学習（準備学習の内容）	コンセプト作りや図面、模型の作製を授業時間外でも進めて欲しい。						
授業方法	パワーポイントやレジメを使って、事例紹介や設計の基本を講義 学生同士の考察に重点を置き、演習を中心に進めていきたい。						
評価基準と評価方法	出席状況と授業態度(意欲)：30%、欠席は減点対象 調査分析力、コンセプト、構想力、アイデア：25% 提出物、レポート、設計能力、表現力：30% プレゼン能力その他：15%						
教科書	特になし 必要と思われる場合は参考程度で紹介する。						
参考書	特になし 必要と思われる場合は参考程度で紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習II						
担当教員	黒田 達雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	中低層集合住宅団地におけるコミュニティ形成の仕掛けとしての囲み配置と外部空間の演出						
授業の概要	中低層住宅の単体あるいは集住団地について、仮想敷地を設定し、コンセプトづくりから基本設計を行う。ハウジング実習Iなどで学習した知識やスキルも使いながら、立地・環境あるいは場所生などの特性を読み取り、コミュニティ形成の仕掛けづくりとしての囲み配置や広場・外部空間の演出を主眼に、CADにより平面・立面・断面の一般図作成と簡易な全体模型も含めて、プレゼン用パネルまで作成する。また全員参加で講評会を行い、自分のコンセプトを他者に伝える。						
到達目標	本テーマは今日的課題で、この実習により実践的能力と他者を説得できるプレゼン能力も涵養する。また、想像(イメージ)し創造(クリエイティブ)することの喜びを味わってもらいたい。そして実践的・社会的意義のある学習への意欲を引き出したい。						
授業計画	第1回：ガイダンス、課題趣旨説明と進め方 第2回：課題の仮想敷地状況調査による敷地特性の把握 第3回：同上全体計画のイメージとコンセプトづくり 第4回：ゾーニングと人・車のネットワークによる配置計画づくり 第5回：同上第一次案作成し、担当講師に提出 第6回：同上案のチェックしたものを個々の学生に返却しながら、議論する。 第7回：同上修正と平面・立面・断面のエスキースとトレース 第8回：同上 第9回：同上各基本設計図第一次案を担当講師に提出 第10回：同上基本設計案のチェックしたものを個々の学生に返却しながら、指導する 第11回：同上基本設計の最終まとめ 第12回：同上模型作成 第13回：同上模型作製とプレゼン用レイアウト案作成し、担任講師に提出 第14回：プレゼン案チェックしたものを個々の学生に返却し、修正して完成させる 第15回：同上全員による講評会						
授業外における学習(準備学習の内容)	本課題を実習する前に、参考書として「低層集合住宅のレイアウト」GLC編・延藤安弘監訳(鹿島出版)と「広場の造形」カミロ・ジッテ著(美術出版)などを、本学の図書館にあれば目を通しておいて欲しい。						
授業方法	パワーポイントやレジメを使って、事例紹介や設計の基本を講義 後はできるだけマンツーマン形式で、コンセプトづくりから最終プレゼンパネル作成まで、個別に議論しながら進める。						
評価基準と評価方法	・出席状況と授業態度(意欲)：30% 欠席は減点対象 ・調査分析力、コンセプト、構想力・アイデア：20% ・提出物・レポート、設計能力、表現力：40% ・プレゼン能力その他：10%						
教科書	特になし、適宜必要なレジメ・プリントを配布						
参考書	特にないが、「授業外における学習」の欄で紹介した文献						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習III						
担当教員	黒田 達雄						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	近年、老朽化とコミュニティが崩壊しつつある集合住宅団地を、建て替え手法によるコミュニティの再生をめざして、その案を実践的なものとして追求する。						
授業の概要	高度成長期に大量供給された集合住宅団地も、画一的平行配置や老朽化、入居者の高齢化の中で、自治組織の低下などコミュニティの崩壊とパンダリズム（住環境崩壊）が進行している。また耐震化とバリアフリー化が求められる中、リスクは高いが団地全体の建て替えによるリニューアルも必要になっている。本実習では、「団地街区の再生」（建て替え）を、各自、基本設計のねらい（コンセプト）と建て替え手法・手順をまとめ、CADにより平面・立面・断面などを図面化し、全体模型も作成する。						
到達目標	今日的課題であるテーマを学ぶ中で、その実践的能力を身につけ、かつその計画案を他者に解りやすくプレゼンできる能力も涵養する。また、想像（イメージ）し創造（クリエイティブ）することの喜びを味わわせたい。						
授業計画	第1回：ガイダンス、課題趣旨説明と進め方 第2回：「団地再生」についての手法・手順についての基礎的講義 第3回：既存団地現地調査、六甲ケーブル下の鶴甲団地を予定 第4回：同上団地の状況分析とコンセプトづくりと入居者リスクの少ない建替え手順の検討 第5回：全体配置計画案とコミュニティ発生の仕掛け案を担任講師に提出 第6回：上記案チェックしたものを個別に返却し、各学生と共にコンセプトと配置計画をつめる 第7回：全体配置計画・建て替え手順のトレース 第8回：各棟の平面図トレース 第9回：各棟の立面図トレース 第10回：全体立面図・断面図トレース 第11回：上記全図面を完成 第12回：同上模型作製 第13回：同上模型完成とプレゼン資料作成 第14回：プレゼン用図面完成 第15回：全体講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	本課題の参考書として、本学の増永理彦先生著の「団地再生－公団住宅に住み続ける」（クリエイツかもがわ）を、事前に学習して欲しい。						
授業方法	パワーポイントやレジメを使って、事例紹介や設計の基本を講義、できるだけマンツーマン形式で、コンセプトづくりからプレゼン方法まで議論しながら進める。						
評価基準と評価方法	・出席状況と授業態度：30% 欠席は減点対象 ・調査・分析力、コンセプト・構想力：20% ・提出物、レポート、設計能力・表現力：40% ・プレゼン力・その他：10%						
教科書	特になし、適宜必要なレジメ・プリントを配布						
参考書	「授業外における学習」のところで紹介した「団地再生」（増永理彦著）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習Ⅳ						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	一定の広がりを持つ町の計画、アーバンデザインである。120m四方ほどの街区を単位として住宅・商店・公園・公共施設を配置します。景観のデザインや部分的なストリートファニチャーのデザインなども行います。しかし、これはたとえばです。受講者間の議論により変わることもありますよ。デザインサーベイというか、町の散歩をたくさんして、スケッチなどもしてみませんか。そして近年は9月も猛暑ですので、やっと涼しくなった10月を堪能するために、大学の周辺や大学のテニスコート横（ここは気持ちいい）で、散策をしたりスケッチをしたりもしたいと考えています。これも受講者間で話しあいましょう。						
授業の概要	【「授業のテーマ」参照、わたしにはこういうものをテーマ・概要・到達目標・授業方法というように細切れには書けないのです、思考が平板になってしまいます】						
到達目標	【「授業のテーマ」参照】						
授業計画	<p>上でいったように、受講者の話しあいによって、授業の進行のしかたを変えることがある。したがって、以下は例示です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1課題とする街区の提示 2街区の特徴 3事例研究 1 4事例研究 2 5事例収集の発表 6企画 7基本構想 1 8基本構想 2 9基本設計 1 10基本設計 2 11中心施設の設計 12平面図のしあげ 13立面図のしあげ 14断面図のしあげ 15講評 <p>というようなかたいものにはならないかもしれない。模造紙の上にみんなの思いをぶつけるようなコラージュができればいいかとも思っている。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	【「授業のテーマ」参照】						
評価基準と評価方法	ほとんどを提出物で採点する。授業への参加の積極性を加味することもある。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン論I						
担当教員	高坂 憲治						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	建築の基本である住宅は、住宅の発展史的に見ればその時代と深く結びつきながら変化してきました。また生活の文化的側面から見れば、雨露をしのぐいわば生命を維持する段階から個人の生活スタイルや個性の表出といったファッションな文化性をもった段階にまで広がりをもってきたといえます。このような住宅の中で集合住宅は、人が集まって住む住宅として都市住宅の大きな部分を占めています。本授業では、このような多彩な価値をもつ集合住宅の現代的な意味を解きほぐすことをテーマとします。						
授業の概要	授業は可能な限りスライド等映像を用いて進めます。住まいは一番身近な建築空間であり、最もイメージしやすい建築です。さまざまなライフステージにおいて住んでみたい集合住宅を考えるために、現地調査やワークショップ等により自ら集合住宅のプランニングを行います。						
到達目標	集合住宅に関する学習の導入部として、集合住宅がどのような要素（価値）によって成り立っているのかを理解し、自ら住んでみたい住宅をイメージすることが目標です。また、集合住宅の計画プロセスにおいて市民参加（エンドユーザー参加）型の計画手法を理解します。						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス （講義内容と講義の進め方）</p> <p>第2回：まちづくりと建築 （まちづくりにおける建築の果たす役割や建築家・コンサルタントの役割について考える。また、住宅をはじめとして建築のデザインやまちづくりに市民（エンドユーザー）が参加する方法について実例を紹介する）</p> <p>第3回：住宅のデザインと機能 （住宅のプランがどんな要素で成り立ち、住宅のデザインとどんな関わりをもっているか考える）</p> <p>第4回：都市の住宅と集まって住むことの意味 （京都の町屋における都市集住システムを例に集合住宅の原点を考える）</p> <p>第5回：集まって住む町の形態としての集落 （篠山市伝統的建造物保存地区をスライドにより紹介し、城下町と農村集落の構造を解き明かす）</p> <p>第6回：一戸建住宅派と集合住宅派 （一戸建住宅と集合住宅の違いを住み手の価値観から考える）</p> <p>第7回：ライフステージと住宅の選択 （人は転居する際どのように住宅を選択するのか。ライフステージに応じた住宅の選択から、集合住宅のあり方を考える）</p> <p>第8回：公的な集合住宅 （都市機構の住宅、市営住宅、県営住宅など買うてな集合住宅について解説し、実際に設計した実例をスライド等により紹介し、そのコンセプトを解き明かす）</p> <p>第9回：集合住宅の実例 （特徴のある集合住宅の実例をスライド等により紹介する）</p> <p>第10回：集合住宅の現地調査 （阪神間の特徴的な集合住宅の中から代表的な集合住宅の現地調査を行う）</p> <p>第11回：現地調査の結果の発表と討論 （見学した集合住宅の感想やお気に入りのスペースについて報告する）</p> <p>第12回：集合住宅計画1 （集合住宅についてテーマを設定し、グループに分かれて住んでみたい集合住宅について討論する）</p> <p>第13回：集合住宅計画2 （各自図書館における文献調査や資料の収集をふまえ、グループごとにKJ法を用いてワークショップを行い、市民参加手法を体験する）</p> <p>第14回：集合住宅計画3 （現地調査、ワークショップに加え図書館資料調査から、各自がイメージする集合住宅のプランをスケッチや平面を描いて検討する）</p> <p>第15回：集合住宅計画4 （各自の集合住宅のプランを発表する）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の授業は関連しているので、授業後に論点整理をしてください。実際に集合住宅のプラン（間取り等）を作成しますので、集合住宅について図書館などの資料や建築の雑誌などでイメージを膨らませてください。						
授業方法	講義・学外見学・演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、作品提出及び発表50%						

教科書	ありません
参考書	指定の参考書はありません

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン論II						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>演習的な内容を含む講義とします。いくつかの空間表現の小課題と、20枚ほどの写真の分析をパワーポイントでしあげる大課題をします。</p> <p>住宅・建築単体よりも広い範囲の空間のデザイン論です。日本や世界にはどんな町、居住地があるのかからあらためて考え、都市デザインの理論を学びます。といってもなかなか都市デザインの理論というのは定番がないのです。そこでK.リンチとC.アレグザンダーのデザイン論を詳しく学びます。リンチはわかりやすいということ都市のあり方の原則にしました。そして大課題と関連するのが、アレグザンダーの『パターン・ランゲージ』です。よい空間の言語化を試み253のキーワードを辞典のようにした本です。わたしが好きなのは「7000人のコミュニティ」「4階建の制限」「どこにも老人」「人前の居眠り」「9パーセントの駐車場」「仕事コミュニティ」「店先学校」「市場のような大学」「つる植物」などです。このキーワードをもとに20まいほどの写真に解説を加える課題です。オリジナルなキーワードも創出してほしい。またNHKの「フォト575」という番組のような俳句をつける写真も試みてほしい。</p> <p>場合によっては学外に出ることがあります。</p>						
授業の概要	【「授業のテーマ」参照、わたしにはこういうものをテーマ・概要・到達目標・授業方法というように細切れには書けないのです、思考が平板になってしまいます。「素晴らしいシラバス」（すばらしいしらばす）（回文、上から読んでも下から読んでも……）】						
到達目標	【「授業のテーマ」参照】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 近年のアーバンデザイン論 2 リンチのアーバンデザイン論 3 都市のわかりやすさ 4 小課題1の案 5 小課題1の完成 6 アレグザンダーのアーバンデザイン論 7 「7000人のコミュニティ」 8 「人前の居眠り」——電車のなかの居眠りの写真を撮ってもダメです 9 「どこにも老人」 10 「四階建ての制限」——アレグザンダーの名言、高い建物が建つと地域が発展していると思っているひとがいる、バカだね 11 小課題2の案 12 小課題2の完成 13 欧米のアーバンデザイン最前線 14 小課題3の案 15 小課題3の完成 						
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。マーフィーの法則「しっかり教材研究した授業は思いどおりに進まない」。						
授業方法	【「授業のテーマ」参照】						
評価基準と評価方法	ほとんどを提出物で採点します。授業への参加の積極性を加味することもあります。評価基準は「%」で書かなければいけないというひとがいます。「ほとんど」「大半を」「おおむね」「いくらかは」とか美しい量をあらわす日本語がありますけどね。「50%」はよくて「半分」はダメ？「5割」もダメかな。こういうばかげたことたかかうのを見せるの教育です。						
教科書							
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特質を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	阪神間における独自の文化を理解し、ライフスタイルを形成する衣・食・住・遊・芸術のデザインがわかった。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは。 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神間に生きた建築家とその作品 5. 阪神間のサロン文化 6. 阪神間の食文化 7. ホテル文化のさきがけ 8. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 9. 阪神間のデザイナーたち 10. 谷崎潤一郎と阪神間 11. 阪神間の美術家たち 12. 阪神間の音楽家や写真家たち 13. 宝塚歌劇レビューのはじまり 14. 阪神間のスポーツ 15. 阪神間の娯楽、最後に試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	試験100%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布。						
参考書	毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ヒトとデザイン						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「人間科学としてのデザイン」						
授業の概要	<p>私たちの身の回りには人工物はほとんどのものが「デザイン」されたものです。言い換えれば私たちは様々な「デザイン」で構成された環境の中に生きていることとなります。それらは色彩や形状などの造形的要因とともに、実用的用途を満たすための機能を有するものです。そのため、デザインの世界はファッションやハウジング以外にもいくつかの領域に専門分化しています。一方で「デザイン」という言葉は広い意味をもち、従来に無い新たな分野も登場しています。この授業ではこうした現状を概観しながら「デザイン」に関する基本的な理解を目的とします。</p>						
到達目標	変化し多様な意味をもつ「デザイン」概念、生物としてのヒトの特性を踏まえた「デザイン」の必要性を理解する。						
授業計画	<p>1: オリエンテーション —デザイン、ライフスタイル、イメージ—</p> <p>2: デザインと人間科学</p> <p>3: 現代デザインの最前線 —ケータイ・デザイン—</p> <p>4: デザインとアート (1) —応用美術としてのデザイン—</p> <p>5: デザインとアート (2) —デザイナーとアーティスト—</p> <p>6: デザインとテクノロジー (1) —産業革命とデザイン—</p> <p>7: デザインとテクノロジー (2) —人間工学から感性工学まで—</p> <p>8: デザインとテクノロジー (3) —コンピュータとメディア・テクノロジー—</p> <p>9: デザイン領域の専門化と学際性</p> <p>10: デザイン概念の拡がり</p> <p>11: 「ヒト」という生物</p> <p>12: 「ヒト」の文明化</p> <p>13: 「ヒト」と機械・人工物環境</p> <p>14: 「ヒト」にとって必要なデザイン</p> <p>15: まとめとテスト</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	幅広い観点から社会の中の「デザイン」に関心をもつこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	テスト50%、レポート20%、平常点30%で評価します。						
教科書	プリントを配布します。授業中に紹介します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ビジネスリサーチ演習						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者の心を数字で分析する						
授業の概要	新商品の企画及び提案のためには、消費者が求めている商品に関して正しく分析できる力が必要である。そのためには消費者の商品を購入する購買行動に関する調査を正しく行う知識と、調査の結果を正しく理解できる知識を得ることが欠かせない。ビジネスリサーチ演習では、消費者調査の方法を理解し、調査データのまとめと調査の結果の考察のための統計処理の知識を学習する。						
到達目標	あいまいな人の意識や考え方などを数字で表すことができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションおよび全体の授業の流れの説明 2. 消費者調査の必要性と目的 3. 消費者調査の方法 4. アンケート用紙の作り方 5. 演習Ⅰ - 調査テーマと背景および目的の決定 6. 演習Ⅱ - 調査計画を立てる 7. 演習Ⅲ - アンケート用紙づくり① 8. 演習Ⅲ - アンケート用紙づくり② 9. 演習Ⅳ - アンケート集計① (基礎-仮説と検定) 10. 演習Ⅳ - アンケート集計② (単純集計) 11. 演習Ⅳ - アンケート集計③ (クロス集計) 12. 演習Ⅳ - アンケート集計④ (複数回答) 13. 演習Ⅳ - アンケート集計⑤ (順位法) 14. 演習Ⅴ - 調査結果の分析およびまとめ方① 15. 演習Ⅴ - まとめと発表 						
授業外における学習(準備学習の内容)	パソコンで専用ソフトを使って行う授業なので欠席をすることについてこれない内容が生じる場合がありますのでできれば出席に心懸けること。						
授業方法	消費者調査に関する例問を細かく専門ソフトを使って演習する						
評価基準と評価方法	レポート40% - 2回, 発表60% - 2回						
教科書	新版 消費者調査法 社団法人 日本衣料管理協会 平成16年						
参考書	プリント資料						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習I						
担当教員	松下 温子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCADの活用 『製図～仮想縫製』						
授業の概要	ファッション業界の中でも、流行の変化が著しく多様なデザインが要求されるアパレル業界では、生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されている。実習Iでは、衣服の型紙を作成するパターンメイキング、サイズ展開を行うグレーディング、パターンを布地に配置するマーキングのプロセスを中心に、実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産のためのCAD技術の修得と活用の有効性を考える。また簡単な仮想縫製（着装シミュレーション）も行う。						
到達目標	型紙製作から仮縫い（仮想縫製）までをパソコンで出来るようになり、アパレル生産に有効なCADの活用を理解する。						
授業計画	第1回 序 ファッション産業でのCADの活用 使用機器・ソフトの紹介と『Pattern Magic』の操作練習 第2回 ブラウスのパターン製作 身頃 第3回 ブラウスのパターン製作 袖・衿 第4回 ブラウスのパターン製作 仕上げ・チェック 『仮想縫製』 第5回 工業用パターンの作成 縫代付け 実寸大パターンの入出力（スキャナ・プロッタ操作） 第6回 グレーディング 第7回 マーキング 第8回 デザイン展開 身頃・衿・袖 第9回 デザイン展開 スカート・パンツ 第10回 パンツの製図 第11回 パンツの製図 仕上げ・仮想縫製 第12回 仮想縫製応用・自由作品レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magic で型紙作成 第14回 自由作品>i-Designer で仮想縫製 第15回 レポート作成・提出、講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日頃より身の回りの衣服構成や縫製箇所等を観察し、型紙作成のための視野を広げる。 授業後学習：CAD操作で不明な箇所は質問し、納得いくまで練習・復習する。						
授業方法	コンピュータを使用したの演習形式						
評価基準と評価方法	作品 50% , レポート50%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習II						
担当教員	松下 温子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCADの活用 『企画・設計～応用技術』						
授業の概要	実習Iで修得したパターンメイキング技術と簡単なバーチャルガーメント（仮想衣服）の技術を基に、実習IIでは、難度なデザイン展開をCADの利用で迅速かつ確実にできる力を養う。またパターン・ボディ・テキスタイルのデータから仮想衣服としてシルエットを生成し、パソコン画面上であらゆる方向からの着装状態、柄のマッチング、ゆとりや伸び、生地、色の検討や、顔の合成・重ね着の設定などファッションコーディネートを実験する。その他CG技術による生地柄の作成など、ファッション産業におけるCADに関する知識を得る。						
到達目標	複雑な型紙を効率よく製図し、仮想衣服上で修正・デザイン変更を行える。色や柄が衣服に与える視覚効果、生地特性・ゆとり量によるシルエット変化など、作成したデータをバーチャルに検証して、理想の衣服設計を考えることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ファッション産業のCADの実状、CAD操作 第2回 生地柄作成>ストライプ・水玉・変形 第3回 生地柄作成>フリー描画、デザイン画・仮想衣服への利用 第4回 デザイン展開・応用 第5回 仮想縫製・応用 第6回 仮想衣服での修正・デザイン線の追加と平面製図への適用 第7回 仮想衣服>パターンと体型・生地変化によるゆとり・伸び・シルエット変化 第8回 仮想衣服>柄のマッチング、着装効果 第9回 マッピング 第10回 その他アパレルCADシステムの有効活用 第11回 ファッションコーディネート・着装シミュレーション 第12回 自由制作のテーマ選び・レポートの説明と制作準備 第13回 自由制作>Pattern Magic、CG Magicでの企画書・生地柄・型紙作成 第14回 自由制作>i-Designerでの着装シミュレーション 第15回 レポート作成・提出、講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：衣服の構成やシルエット、生地の風合いや柄合わせなど、衣服を更に広い視野で観察する。 授業後学習：CAD操作で不明な箇所は質問し、他授業やファッションショー等でCADを活用する。						
授業方法	コンピュータを使用しての演習形式						
評価基準と評価方法	作品 50% , レポート 50%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションプレゼンテーション演習I						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションを描く						
授業の概要	<p>テーマ：ファッションデザインとテキスタイルデザインにおける企画力およびプレゼンテーションする力を学ぶ。</p> <p>衣服の企画、生産、消費の過程をよりよく理解するためには、そこで行われているプレゼンテーションに目を注ぐことが必要である。この演習では、過去から現在までのファッションのプレゼンテーションにはどのような種類、方法があるのか具体例を示して解説したのち、各自にどのような媒体、空間、機会がプレゼンテーションに利用されてきたのかということに関する資料の収集、調査、分析をさせる。さらに、それらの結果についての発表を行い、プレゼンテーションについての理解を深めさせる。</p>						
到達目標	ファッションデザイン画をコンピュータデザインソフトを利用し描く						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「方針・進め方の説明—トレンド分析、フォトフォリオ制作」 2. フォトフォリオ制作のための基本要素の理解 3. ファッションデザイン画について説明 4. ハンガーイラストについて説明 5. Illustrator CS3の使い方およびペンツールの基本操作説明 6. Illustrator CSによる3パスの編集や色の編集 7. Illustrator CSによるテキスタイル（柄）の作成と合成（クリッピングマスク方法） 8. Illustrator CSによるレイヤー説明 9. Illustrator CSによる作品制作 I 10. Photoshopの特徴や基本操作説明 11. Photoshopによるテキスタイル（柄）の合成 12. Photoshopによるレイヤーマスクおよび画像モードを使った合成 13. Photoshopによる素材感描く方 14. Photoshopによる作品制作 II 15. 作品発表および評価 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Illustrator CS、Photoshopテクニックについて学習する						
授業方法	パソコンを使った説明と演習						
評価基準と評価方法	作品提出（50%）、レポート（20%）、発表（30%）を加味する。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションプレゼンテーション演習I						
担当教員	崔 童殷						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションを描く						
授業の概要	<p>テーマ：ファッションデザインとテキスタイルデザインにおける企画力およびプレゼンテーションする力を学ぶ。</p> <p>衣服の企画、生産、消費の過程をよりよく理解するためには、そこで行われているプレゼンテーションに目を注ぐことが必要である。この演習では、過去から現在までのファッションのプレゼンテーションにはどのような種類、方法があるのか具体例を示して解説したのち、各自にどのような媒体、空間、機会がプレゼンテーションに利用されてきたのかということに関する資料の収集、調査、分析をさせる。さらに、それらの結果についての発表を行い、プレゼンテーションについての理解を深めさせる。</p>						
到達目標	ファッションデザイン画をコンピュータデザインソフトを利用し描く						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション「方針・進め方の説明—トレンド分析、フォトフォリオ制作」 2. フォトフォリオ制作のための基本要素の理解 3. ファッションデザイン画について説明 4. ハンガーイラストについて説明 5. Illustrator CS3の使い方およびペンツールの基本操作説明 6. Illustrator CSによる3パスの編集や色の編集 7. Illustrator CSによるテキスタイル（柄）の作成と合成（クリッピングマスク方法） 8. Illustrator CSによるレイヤー説明 9. Illustrator CSによる作品制作 I 10. Photoshopの特徴や基本操作説明 11. Photoshopによるテキスタイル（柄）の合成 12. Photoshopによるレイヤーマスクおよび画像モードを使った合成 13. Photoshopによる素材感描く方 14. Photoshopによる作品制作 II 15. 作品発表および評価 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Illustrator CS、Photoshopテクニックについて学習する						
授業方法	パソコンを使った説明と演習						
評価基準と評価方法	作品提出（50%）、レポート（20%）、発表（30%）を加味する。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションイメージ論						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「ファッション・イメージ用語の理解と活用」						
授業の概要	現代では実際に販売、着用される商品としての衣服以上に、雑誌・新聞、テレビ・映画などのメディア表現によるイメージとしてのファッションの重要性が高まっている。特に世界中のメディアが注目するパリコレをはじめとするコレクション映像はほとんどの聴衆にとっては非現実のイメージに過ぎない。ファッションのこうした側面を、タレント、ミュージシャン、映画スターなどのファッション・リーダー、スーパーモデルの果たす役割、ファッション写真や現代美術に表現されたファッションの意味などの視点から探る。						
到達目標	基本的ファッションイメージ用語の意味を理解し、ファッション写真などから該当するイメージを分析できること。						
授業計画	1) オリエンテーション 2) ファッションイメージ用語の基礎 3) ファッションイメージ用語の収集 4) ファッションイメージ用語リストの作成 5) ファッションイメージサンプルの収集 - 1 - 6) " " - 2 - 7) " " - 3 - 8) " " - 4 - 9) " " - 5 - 10) ファッションイメージサンプルファイルの作成 - 1 - 11) " " - 2 - 12) 「大人かわいい」イメージ - 1 - 13) " " - 2 - 14) " " - 3 - 15) 講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	ファッション雑誌などの写真に対してファッションイメージ用語による分析を習慣化する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点30%、レポート40%、テスト30%で評価する。						
教科書	特に無し。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションカルチャー論						
担当教員	平芳 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代文化におけるファッション						
授業の概要	身体を覆う衣服は実用品であると同時に装飾品であり、民族固有の服飾文化が形成されてきた。しかし西洋発のファッションのグローバル化に伴い、世界各地の人々の装いは急速に均質化の傾向を見せつつある。このように多大な影響力をもつ現代ファッションの状況を、身体、性、アート、マテリアル、メディア等といったキーワードに基づき多角的な視点から考察することによって、現代ファッションに対する理解を深める。						
到達目標	ファッションに関する知識の習得のみならず、ファッションが社会において果たしてきた歴史的・文化的役割に対する理解を深めることを目的とする。						
授業計画	1) ガイダンス (授業の目的、概要、進行に関する説明) 2) ファッションのグローバル化 3) ファッションとメディア(1) : 流行の伝達 4) ファッションとメディア(2) : 版画と人形 5) ファッションとメディア(3) : ファッション雑誌の登場 6) ファッションとメディア(4) : 雑誌ができるまで 7) ファッションとメディア(5) : ファッション・ショー 7) 文化におけるファッション(1) : 美術館と「作品」 8) 文化におけるファッション(2) : ファッションとアート 9) ファッションと身体(1) : 素材の成形加工 10) ファッションと身体(2) : 体の成形加工 11) ファッションと身体(3) : 失われた皮膚 12) ファッションとジェンダー(1) : 男性服とスーツ 13) ファッションとジェンダー(2) : 女性服と装飾 15) まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業ノート、配付プリントを用いて復習し、学習の定着をはかること。 授業中に紹介する参考書に用いて、授業内容に対する見識を広めること。						
授業方法	講義。毎回、DVDやスライド資料を使用する。						
評価基準と評価方法	授業中小レポート(50%)と期末テスト(50%)を実施する。 欠席は減点とする。						
教科書	教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション史						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	古代から現在にいたるまでの服装の流れを社会的・心理的な面も踏まえながら学ぶ。						
授業の概要	古代から現代までの衣服の変遷やその意匠について、時代背景や社会性、心理的な側面をふまえながら学ぶ。ファッション史は、美術や芸術、あるいは社会とは関わりなく捉えられることが多かった。しかし、衣服の成り立ちから20世紀モード、さらに現代のファッションをとおして、人を中心として身体、心理、社会と密接に関わり合い、さらに近代では、美術や芸術、デザインなど他分野との交流によって現代服の基礎が形作られた。これらの要因に重点を置き、特に、現代服の基礎が確立した20世紀前半のモードに焦点をあて、服飾の歴史の流れ、変遷要因、美意識について読み解く。						
到達目標	服飾形態とその変遷、時代背景や他分野との交流から生じる服飾理念（デザイン理念）について知ることができます。さらに、服飾資料を題材として、資料をまとめる力を身につけることができます。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、古代・中世の服飾： ファッション史で何を学ぶのか。15回の授業について。壁画、彫刻、挿絵を手がかりに古代・中世の服飾形態を読み取る。 2. 16世紀の服飾： 肖像画をもとに16世紀の衣服形態と装飾にふれる。 3. 17世紀の服飾： ヨーロッパにおいてモードの中心となったフランスと服飾にみられるバロックの美意識について知る。 4. 18世紀の服飾(1)： 優美なロココの衣服形態と美の価値観にふれる。 5. 18世紀の服飾②： ロココから装飾を拒んだ新古典主義への変化について時代背景等を考慮しながら読み取り、衣装形態を把握する。 6. 19世紀の服飾(1)： 19世紀紳士服の形態について知り、ダンディズムの思考を読み取る。ロマン主義、ペチコートで膨らんだスカート、クリノリン・スタイル、バツル・スタイルへと形態変化した女性の服飾について知る。 7. 19世紀の服飾(2)： モード産業の基盤、ウォルトによりパリ・オートクチュールの基盤が築かれたことについて学ぶ。また、女性解放運動をもとにした改良服の取り組み、ジャポニズム、アール・ヌーヴォーを背景とした服飾について知る。 8. 19世紀後半から20世紀前半の服飾： 他分野(デザイン運動)にみる新しい衣服の芽生え、他分野とファッションの関係性について知る。 9. 20世紀前半の服飾(1)： ファッション分野におけるコルセットをつけない衣服の取り組みについて。ポール・ポワレ、マリアノ・フォルチュニー、マドレーヌ・ヴィオネをはじめとするモードの取り組みについて知る。 10. 20世紀前半の衣服(2)： マドレーヌ・ヴィオネのドレス形態、思考とその周辺について知る。 11. 20世紀前半の服飾(3)： 女性の社会進出と現代服、世界大戦とファッションについて見ていく。 12. 20世紀後半の服飾(1)： 戦後のファッション、既製服(プレタポルテ)産業の発展について。シャネル、ディオールをはじめとするスター・デザイナーの役割を説明するとともにクレア・マッカーデルとアメリカ既製服を考える。 13. 20世紀後半の服飾(2)： 三宅一生、山本耀司、川久保玲をはじめとする日本人デザイナーによる新しい価値観とパリ・モードについて。 14. 20世紀後半から現代へ： ベルギー、オランダをはじめとするモード学校とデザイナーの活動について知り、芸術・アートとファッションの関係性について読み取る。一方、ユニバーサル・ファッション、エコとファッションの関わりなどファッションの多方面への広がりとその可能性について考える。 15. 授業のまとめ、試験： 半期の内容を見直し、復習する。 						

授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画を参考に、教科書に目を通す。 授業後学習：授業で学んだ内容について、時代背景を踏まえながら、要点を文章にまとめる。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	レポート(70%)、小レポート(30%)
教科書	深井晃子編著 『世界服飾史』 美術出版社
参考書	菅原珠子・佐々井啓著 『西洋服飾史』 朝倉書店 青木英夫編著 『服装史』 酒井書店・育英堂 文化服装学院編 『文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑩ 20世紀ファッション』 文化出版局

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン概論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	色・形・素材などからデザイン基礎を学ぶ。						
授業の概要	ファッション領域の科目全体を概観するための必修科目である。他のデザイン分野とは異なる独自性をもって発展してきたファッションデザインの近代以降の歴史的意味を振り返り、現代ファッションの範囲、他分野への拡がりや融合について理解する。また、新しさへの欲求、国境を越えた流行、スタイルと風俗などのファッションの性質、および生活文化としてのファッションを踏まえ、ファッションデザインの意味、形態、色彩、質感と美的性質、目的、発想と表現、ファッション産業の仕組みなどについての基礎的知識を習得する。						
到達目標	デザインの本質であるフォームと色を中心に、衣服としてのデザインをより効果的に表すためのテキストイルとの関係、および人の体形や個性との関連が理解できた。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：ファッションデザインとは何か 2. 服飾デザイン：ファッションとは何か 3. ファッションデザインと造形要素：点・線・形など 4. 服飾の形体：面と立体 5. 流行とシルエット 6. 服飾の歴史：和服、洋服の形、色などの歴史 7. ファッションイメージ 8. ファッション計画と中間試験 9. デザイン美①：ファッションの美的統一とは（プロポーション） 10. デザイン美②：秩序の理論（統一と変化）、アクセントとポイント、ハーモニーとコントラスト、バランスとシンメトリー、リズムとプロポーションなど 11. マテリアル①：材質の表情、材質とデザイン 12. マテリアル②：テクスチャーの構成効果 13. 体型とデザイン効果 14. ファッションイメージとフォーム・色・素材の計画 15. ファッションの美的統一、最後に試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	定期試験70%、提出物30%						
教科書	<p>文化服装学院編：『文化ファッション大系 服飾関連専門講座9 服飾デザイン』、 小林重順著『カラーイメージスケール』（日本カラーデザイン研究所） 尾上孝一、金谷喜子、田中美智、柳澤元子編『カラーコーディネーター用語辞典』（株式会社井上書院） 『新配色カード199b』（日本色研事業株式会社） プリントを配布する。</p> <p>教科書『カラーイメージスケール』『カラーコーディネーター用語辞典』『新配色カード199b』は、授業科目「カラーデザイン論」「イメージリテラシーⅣ（カラーコーディネート演習）」に使用する。</p>						
参考書	授業中に紹介。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習I						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服構成の理解、製作技法の習得						
授業の概要	<p>ファッションデザイン実習I・II・IIIでは、「コンセプト設定」「デザイン」「設計」「製作」「プレゼンテーション」というファッションデザインの基礎となるプロセスをふまえた上で、「設計」「製作」に関わる技法の習得を目的とする。ここでは、衣服製作の過程を段階的に習得し、さらに「デザイン特別演習」や「卒業研究」へ繋がる衣服製作技法の土台作りを行う。特に、「設計」「製作」に関わる平面製図と立体裁断、デザイン展開、サイズ展開(グレーディング)、型紙作製、裁断・印しつけ、縫製、補正、仕上げなどの技法について学ぶ。ファッションデザイン実習Iでは、衣服製作に必要な用具の名称や使用方法、素材の扱い方、アイロンやミシンの使い方などの基礎知識を学び、平面製図法で各自の体型に合わせたセミタイトスカートとブラウスを製作し、衣服製作における基本的な縫製技法を習得する。またマルチン計測法で人体計測を行い、体型と衣服の関係性について実践をとおして学ぶ。</p>						
到達目標	衣服製作に必要な人体計測法、平面製図法、型紙作成、裁断、縫製、仕上げの一連の流れをセミタイトスカートとブラウスの製作を通して習得できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、人体計測： セミタイトスカートとブラウスの授業内容、用具の使い方、部分縫いについて説明する。マルチン計測法で必要な項目について採寸し、各自の採寸表を作成する。 2. セミタイトスカート「製図①」： 平面製図法で前スカートを作図する。 3. セミタイトスカート「製図②、型紙作り」： 後ろスカートを作図する。縫代なしの型紙を作成する。1/5大の製図を提出する。 4. セミタイトスカート「裁断・印付け」： 本布を裁断し、印を付ける(切りじつけ)。裏布を裁断し、印を付ける。 5. セミタイトスカート「くせとり・仮縫い・補正」： 布のくせとりを行い、仮縫いする。試着し、補正を行う。 6. セミタイトスカート「縫製①」： ウエストダーツを縫い、表前スカートと表後スカートを縫い合わせ組み立てる。裾にロックミシンをかけてまっつる。 7. セミタイトスカート「縫製②」： 左脇あきにファスナーをつける。裏スカートを縫製する。 8. セミタイトスカート「縫製③」： 表スカートと裏スカートを合わせる。ベルトを作る。 9. セミタイトスカート「仕上げ」： ベルトをウエスト部分につける。かんぬき止め、ホック付けを行う。 10. ブラウス「製図①」： 上半身原型製図を基にブラウス用スローパーを作る。前身頃と後ろ身頃、衿、袖を作図する。 11. ブラウス「裁断・印しつけ」： 本布を裁断し、印を付ける。縫代にロックミシンをかける。 12. ブラウス「縫製①・身頃」： ダーツ、肩、脇を縫い合わせ、裾の始末を行う。 13. ブラウス「縫製②・衿」： 衿を作り、身頃につける。ボタンホールを作る。 14. ブラウス「縫製③・袖」： 袖を作り、身頃につける。 15. ブラウス「仕上げ/まとめ」： ボタンをつけ、仕上げる。ボタンホールの部分縫い。 						

授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：次の授業までに課題を仕上げること。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	作品提出（セミタイトスカート50%・ブラウス50%）
教科書	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編 I』 文化出版局 2007年 第二版 ISBN978-4-579-10859-6
参考書	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習I						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服構成の理解、製作技法の習得						
授業の概要	<p>ファッションデザイン実習I・II・IIIでは、「コンセプト設定」「デザイン」「設計」「製作」「プレゼンテーション」というファッションデザインの基礎となるプロセスをふまえた上で、「設計」「製作」に関わる技法の習得を目的とする。ここでは、衣服製作の過程を段階的に習得し、さらに「デザイン特別演習」や「卒業研究」へ繋がる衣服製作技法の土台作りを行う。特に、「設計」「製作」に関わる平面製図と立体裁断、デザイン展開、サイズ展開(グレーディング)、型紙作製、裁断・印しつけ、縫製、補正、仕上げなどの技法について学ぶ。ファッションデザイン実習Iでは、衣服製作に必要な用具の名称や使用方法、素材の扱い方、アイロンやミシンの使い方などの基礎知識を学び、平面製図法で各自の体型に合わせたセミタイトスカートとブラウスを製作し、衣服製作における基本的な縫製技法を習得する。またマルチン計測法で人体計測を行い、体型と衣服の関係性について実践をとおして学ぶ。</p>						
到達目標	衣服製作に必要な人体計測法、平面製図法、型紙作成、裁断、縫製、仕上げの一連の流れをセミタイトスカートとブラウスの製作を通して習得できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、人体計測： セミタイトスカートとブラウスの授業内容、用具の使い方、部分縫いについて説明する。マルチン計測法で必要な項目について採寸し、各自の採寸表を作成する。 2. セミタイトスカート「製図①」： 平面製図法で前スカートを作図する。 3. セミタイトスカート「製図②、型紙作り」： 後ろスカートを作図する。縫代なしの型紙を作成する。1/5大の製図を提出する。 4. セミタイトスカート「裁断・印付け」： 本布を裁断し、印を付ける(切りじつけ)。裏布を裁断し、印を付ける。 5. セミタイトスカート「くせとり・仮縫い・補正」： 布のくせとりを行い、仮縫いする。試着し、補正を行う。 6. セミタイトスカート「縫製①」： ウエストダーツを縫い、表前スカートと表後スカートを縫い合わせ組み立てる。裾にロックミシンをかけてまっつる。 7. セミタイトスカート「縫製②」： 左脇あきにファスナーをつける。裏スカートを縫製する。 8. セミタイトスカート「縫製③」： 表スカートと裏スカートを合わせる。ベルトを作る。 9. セミタイトスカート「仕上げ」： ベルトをウエスト部分につける。かんぬき止め、ホック付けを行う。 10. ブラウス「製図①」： 上半身原型製図を基にブラウス用スローパーを作る。前身頃と後ろ身頃、衿、袖を作図する。 11. ブラウス「裁断・印し付け」： 本布を裁断し、印を付ける。縫代にロックミシンをかける。 12. ブラウス「縫製①・身頃」： ダーツ、肩、脇を縫い合わせ、裾の始末を行う。 13. ブラウス「縫製②・衿」： 衿を作り、身頃につける。ボタンホールを作る。 14. ブラウス「縫製③・袖」： 袖を作り、身頃につける。 15. ブラウス「仕上げ/まとめ」： ボタンをつけ、仕上げる。ボタンホールの部分縫い。 						

授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：次の授業までに課題を仕上げること。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	作品提出（セミタイトスカート50%・ブラウス50%）
教科書	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編 I』 文化出版局 2007年 第二版 ISBN978-4-579-10859-6
参考書	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習II						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	デザインから衣服設計、縫製までの衣服製作工程の理解と製作技法の習得						
授業の概要	<p>ファッションデザイン実習IIでは、平面製図を用いたジャケットの製図法と仕立て方法、パンタロンの縫製方法について学ぶ。ここでは、パターンメイキングの基礎とデザインに応じたパターンの展開法にふれ、ファッションデザイン実習IIIで学ぶ平面製図法、立体裁断法、デザイン展開法、サイズ展開法(グレーディング)、補正理論等のパターンメイキング技術の習得に繋げる。</p> <p>ジャケット製作では、ジャケットの設計と仕立ての方法を重点的に学び、特に設計では、4枚はぎの身頃構成法、二枚袖の製図法、デザインにそったダーツ展開法、補正法を経験し、各自のサイズに合ったジャケットを仕上げる。パンタロン製作では、ストレートラインのパンタロン製法について学び、パンタロンの構成と縫製の仕方について理解する。</p>						
到達目標	ジャケット設計製作の一連の流れを習得できる。パンタロンの製作方法を体験できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、デザイン、製図「後身頃」： ジャケット(製図法、仕立て法)、パンタロン(縫製法)の授業内容について説明する。ジャケットをデザインし、身頃原型を基に後身頃を作図する。 2. 製図「前身頃」： 前身頃を作図する。 3. 製図「袖」： 袖を作図する。 4. 製図「仕上げ」、仮縫い①： 見返しを作図し、製図を仕上げる。トワルを裁断し、身頃を仮縫いする。 5. 仮縫い②、補正、型紙づくり： 袖と上衿を仮縫いし、トワルを仕上げる。各自の体型にあわせて補正する。型紙を作る。 ジャケットの1/5製図を提出する。 6. 本布裁断、印しつけ： 型紙どおりに本布を裁断する。接着芯をはり、印を付ける。 7. 縫製「身頃」： アイロンでくせとりし、身頃を縫い合わせる。 裏地を裁断し、印を付ける。 8. 縫製「衿ぐり」： 見返しを作り、衿ぐり、見返し裾を整える。 9. 縫製「裏身頃」： 裏身頃(裏前身頃、裏後ろ身頃)を作る。裏前身頃を前見返しに付ける。 10. 縫製「脇縫い、中とじ」： 中とじし、裏身頃と裾を始末する。 11. 縫製「袖作り」： 表袖・裏袖をそれぞれ作り、表裏の袖を中とじする。袖山をぐし縫いし、袖山を形作る。 12. 縫製「袖付け」： 表袖を身頃に付け、中とじし、裏袖山をまつる。 13. 縫製「仕上げ」、まとめ： まつり縫いし、しつけを取って仕上げアイロンをかける。ボタンホールを作り、ボタンを付ける。 14. パンタロン「トワル裁断」： 布の地直しを行う。パンタロンの型紙どおりに布を裁断する。縫代にロックミシンをかけ、ダーツを縫う。 15. パンタロン「トワル縫製」： 前後パンタロンを左右それぞれ組み立て、股上を縫い合わせる。ファスナー部分を確認し、ウエストにベルトを付ける。 						

授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：次の授業までに課題を仕上げること。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	作品提出（ジャケット80%、パンタロン20%）
教科書	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅱ』 文化出版局 2007年 第1版 ISBN 978-4-579-10860-2
参考書	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習II						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	デザインから衣服設計、縫製までの衣服製作工程の理解と製作技法の習得						
授業の概要	<p>ファッションデザイン実習IIでは、平面製図を用いたジャケットの製図法と仕立て方法、パンタロンの縫製方法について学ぶ。ここでは、パターンメイキングの基礎とデザインに応じたパターンの展開法にふれ、ファッションデザイン実習IIIで学ぶ平面製図法、立体裁断法、デザイン展開法、サイズ展開法(グレーディング)、補正理論等のパターンメイキング技術の習得に繋げる。</p> <p>ジャケット製作では、ジャケットの設計と仕立ての方法を重点的に学び、特に設計では、4枚はぎの身頃構成法、二枚袖の製図法、デザインにそったダーツ展開法、補正法を経験し、各自のサイズに合ったジャケットを仕上げる。パンタロン製作では、ストレートラインのパンタロン製法について学び、パンタロンの構成と縫製の仕方について理解する。</p>						
到達目標	ジャケット設計製作の一連の流れを習得できる。パンタロンの製作方法を体験できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、デザイン、製図「後身頃」： ジャケット(製図法、仕立て法)、パンタロン(縫製法)の授業内容について説明する。ジャケットをデザインし、身頃原型を基に後身頃を作図する。 2. 製図「前身頃」： 前身頃を作図する。 3. 製図「袖」： 袖を作図する。 4. 製図「仕上げ」、仮縫い①： 見返しを作図し、製図を仕上げる。トワルを裁断し、身頃を仮縫いする。 5. 仮縫い②、補正、型紙づくり： 袖と上衿を仮縫いし、トワルを仕上げる。各自の体型にあわせて補正する。型紙を作る。ジャケットの1/5製図を提出する。 6. 本布裁断、印しつけ： 型紙どおりに本布を裁断する。接着芯をはり、印を付ける。 7. 縫製「身頃」： アイロンでくせとりし、身頃を縫い合わせる。 裏地を裁断し、印を付ける。 8. 縫製「衿ぐり」： 見返しを作り、衿ぐり、見返し裾を整える。 9. 縫製「裏身頃」： 裏身頃(裏前身頃、裏後ろ身頃)を作る。裏前身頃を前見返しに付ける。 10. 縫製「脇縫い、中とじ」： 中とじし、裏身頃と裾を始末する。 11. 縫製「袖作り」： 表袖・裏袖をそれぞれ作り、表裏の袖を中とじする。袖山をぐし縫いし、袖山を形作る。 12. 縫製「袖付け」： 表袖を身頃に付け、中とじし、裏袖山をまつる。 13. 縫製「仕上げ」、まとめ： まつり縫いし、しつけを取って仕上げアイロンをかける。ボタンホールを作り、ボタンを付ける。 14. パンタロン「トワル裁断」： 布の地直しを行う。パンタロンの型紙どおりに布を裁断する。縫代にロックミシンをかけ、ダーツを縫う。 15. パンタロン「トワル縫製」： 前後パンタロンを左右それぞれ組み立て、股上を縫い合わせる。ファスナー部分を確認し、ウエストにベルトを付ける。 						

授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：次の授業までに課題を仕上げること。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	作品提出（ジャケット80%、パンタロン20%）
教科書	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅱ』 文化出版局 2007年 第1版 ISBN 978-4-579-10860-2
参考書	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.1 スカート&パンツ編』 文化出版局 2005年 佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習III						
担当教員	笹崎 綾野						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	デザインからパターンメイキング、製作までの一連の流れと技法の習得						
授業の概要	<p>ファッションデザイン実習Ⅲは、ファッションデザイン実習を総括する科目である。ここでは、テーラードジャケットの製作を行い、ジャケットの製図法と縫製技術の習得を目指す。また、実習をとおして、オートクチュールとプレタポルテの衣服生産工程の違いについても理解する。</p> <p>実習内容は、テーラードジャケットの身頃、襟、袖、ポケットの種類について知り、各自のデザイン画やアイテム画にそってジャケットを設計・製作する。特に、設計では、平面製図法(囲み製図)を用い、襟や袖の製図法の習得、デザインにそった製図の展開法について学ぶ。製作では、襟や袖の仕立て法に重点を置き、テーラードジャケットの組み立て方と構造について理解する。</p>						
到達目標	テーラードジャケットの製図法から仕立てまでの技法を習得できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、デザイン： プレタポルテとオートクチュールの製作方法の違いを説明する。テーラードジャケットの授業内容について説明する。テーラードジャケットをデザインする。 2. 製図「後身頃」： 身頃原型を基に、後身頃を作図する。 3. 製図「前身頃」： 前身頃を作図する。 4. 製図「衿」： テーラードカラーを作図する。 5. 製図「袖」： 袖を作図する。 6. 製図「仕上げ」、仮縫い①： 見返しを作図し、製図を仕上げる。トワルを裁断し、身頃を仮縫いする。 7. 仮縫い②、補正、型紙づくり： 袖と上衿を仮縫いし、トワルを仕上げる。各自の体型にあわせて補正する。型紙を作る。 テーラードジャケットの1/5製図を提出する。 8. 本布裁断、印しつけ： 型紙どおりに本布を裁断する。接着芯をはり、印を付ける。 9. 縫製「身頃」： アイロンでくせとりし、身頃を縫い合わせる。裏地を裁断し、印を付ける。 10. 縫製「衿①」： 裏衿・表衿を作り、身頃・見返しにそれぞれつける。 11. 縫製「衿②」： 衿外回りと前端を縫い、衿を完成させる。 12. 縫製「身頃の中とじ」： 裏身頃を作り、中とじして表身頃と合わせる。 13. 縫製「袖作り」： 表袖・裏袖をそれぞれ作り、表裏の袖を中とじする。袖山をぐし縫いし、袖山を形作る。 14. 縫製「袖付け」： 表袖を身頃に付け、中とじし、裏袖山をまつ。 15. 縫製「仕上げ」、まとめ： まつり縫いし、しつけを取って仕上げアイロンをかける。ボタンホールを作り、ボタンを付ける。 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業後学習：次の授業までに課題を仕上げること。						

授業方法	実習
評価基準と評価方法	テーラードジャケット（製図20%、サンプル20%、実物60%）100%
教科書	中屋典子、三吉満智子 監修 『服装造形学 技術編Ⅱ』 文化出版局 2007年 第1版 ISBN 978-4-579-10860-2
参考書	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習I						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション市場の調査分析						
授業の概要	ファッションビジネス演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品企画・生産・販売の流れについて、関連する具体的な職種や実務を想定した演習を通じて理解を深める。演習Iでは消費者や市場の動向を的確に捉える「マーケティング」手法について、市場調査や情報収集の具体的な事例を体験する。またそれらの調査結果や情報、および「ライフスタイル」などの要因を基礎に、消費者のターゲットを定めたファッション予測や分析を行いマップ表現を制作することで、的確な販売戦略、商品企画に結びつけることを目的とする。主としてマーケティング。						
到達目標	ファッション市場の状況を調査し分析する事によってその特徴を知る						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる専門家について解説します 2. アパレル業界の最新市場（春夏） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 3. アパレル業界の最新市場（春夏） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル市場の動向を解説します 4. 日本市場の顧客世代分析 現代女性の世代分析を基にその生活スタイルと消費志向の特徴を分析し解説します 5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う年代と商品テイストの違いを調査する 6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する 7. 百貨店のブランド分析III I IIの調査結果を分かりやすくマップに仕上げ、グループごとにその内容を発表する 8. ファッション着装調査I グループに分かれて着装調査のテーマを決め、どのように実施するか計画を立てる 9. ファッション着装調査II 設定したテーマ（色、素材、スタイル、デザイン等）で今シーズンの着装を調査する 10. ファッション着装調査III IIで調査したファッション着装のデータを基に結果を分析しマップにまとめる 11. ファッション着装調査IV IIIで分析しまとめたファッション着装調査の内容結果をグループごとに発表する 12. ライフスタイル調査I 生活スタイルを調査する方法（アンケート、面談調査）決め調査シートを作成する 13. ライフスタイル調査II グループに分かれて調査世代を絞り込み生活スタイルの特徴を知る調査を実施する 14. ライフスタイル調査III Iの調査シートと面談で行ったIIの調査結果を基に生活スタイルの特徴を分析する 15. ライフスタイル調査IV グループごとに生活スタイル調査の分析結果を発表する。前期の演習内容のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	ファッション市場（百貨店、専門店、量販店）の顧客や取り扱い商品の調査						
授業方法	テキストや具体的な参考事例を基に学び、グループに分かれてマーケットリサーチを実際に体験する（学外実習）。そしてマーケットリサーチによって得た情報を基に商品開発のベースとなるコンセプトマップを作成する。						
評価基準と評価方法	消費者や市場の調査報告書および商品開発のためのコンセプトマップ（レポート、成果物）で評価します。						
教科書	オリジナルテキスト						

参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌
-----	------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習I						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション市場の調査分析						
授業の概要	ファッションビジネス演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品企画・生産・販売の流れについて、関連する具体的な職種や実務を想定した演習を通じて理解を深める。演習Iでは消費者や市場の動向を的確に捉える「マーケティング」手法について、市場調査や情報収集の具体的な事例を体験する。またそれらの調査結果や情報、および「ライフスタイル」などの要因を基礎に、消費者のターゲットを定めたファッション予測や分析を行いマップ表現を制作することで、的確な販売戦略、商品企画に結びつけることを目的とする。主としてマーケティング。						
到達目標	ファッション市場の状況を調査し分析する事によってその特徴を知る						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる専門家について解説します 2. アパレル業界の最新市場（春夏） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 3. アパレル業界の最新市場（春夏） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル市場の動向を解説します 4. 日本市場の顧客世代分析 現代女性の世代分析を基にその生活スタイルと消費志向の特徴を分析し解説します 5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う年代と商品テイストの違いを調査する 6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する 7. 百貨店のブランド分析III I IIの調査結果を分かりやすくマップに仕上げ、グループごとにその内容を発表する 8. ファッション着装調査I グループに分かれて着装調査のテーマを決め、どのように実施するか計画を立てる 9. ファッション着装調査II 設定したテーマ（色、素材、スタイル、デザイン等）で今シーズンの着装を調査する 10. ファッション着装調査III IIで調査したファッション着装のデータを基に結果を分析しマップにまとめる 11. ファッション着装調査IV IIIで分析しまとめたファッション着装調査の内容結果をグループごとに発表する 12. ライフスタイル調査I 生活スタイルを調査する方法（アンケート、面談調査）決め調査シートを作成する 13. ライフスタイル調査II グループに分かれて調査世代を絞り込み生活スタイルの特徴を知る調査を実施する 14. ライフスタイル調査III Iの調査シートと面談で行ったIIの調査結果を基に生活スタイルの特徴を分析する 15. ライフスタイル調査IV グループごとに生活スタイル調査の分析結果を発表する。前期の演習内容のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	ファッション市場（百貨店、専門店、量販店）の顧客や取り扱い商品の調査						
授業方法	テキストや具体的な参考事例を基に学び、グループに分かれてマーケットリサーチを実際に体験する（学外実習）。そしてマーケットリサーチによって得た情報を基に商品開発のベースとなるコンセプトマップを作成する。						
評価基準と評価方法	消費者や市場の調査報告書および商品開発のためのコンセプトマップ（レポート、成果物）で評価します。						
教科書	オリジナルテキスト						

参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌
-----	------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	商品開発及び商品販売の為のコンセプト立案（ブランディング）						
授業の概要	ファッションビジネス演習II 演習IIでは演習Iの分析・予測から、具体的な商品企画のステップであるターゲット、情報、コンセプト、コーディネート、デザイン、プロモーションなどの各企画段階をシュミレーションすることで、「マーチャダイジング」の役割と方法について理解する。また、それに伴うライフステージ・サイクル、シーズンサイクル、ファッションマインド、テストレベルなどの要因に関しても理解しながら、変化の速いファッション業界に置いて、如何に消費者に的確に訴求できる商品を生産できるかという手法を修得することを目的とする。主としてマーチャダイジング。						
到達目標	対象マーケットを設定し、ブランドの構築をする。 ターゲット及びライフスタイル分析と商品企画コンセプトの立案。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレル業界の最新市場（秋冬） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 2. アパレル業界の最新市場（秋冬） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル等の動向を解説します 3. 商品企画Ⅰ ターゲットの設定 誰のための商品企画をするのかを設定する（性別、年齢、ライフスタイル、価値観等） 4. 商品企画Ⅱ ライフスタイル分析 ターゲットが365日どのような生活スタイルを持っているのかを分析する 5. 商品企画Ⅲ ライフスタイル分析 ターゲットの365日のライフスタイルを雑誌切り抜きでマップに表現する 6. 商品企画Ⅳ 商品イメージの分析 商品化したい商品（ファッション関連商品）の市場や商品の情報を集める 7. 商品企画Ⅴ 商品イメージの分析 商品化したい商品のイメージを具体的に雑誌切り抜きでマップに表現する 8. 商品企画Ⅵ 商品展開計画の作成 どのチャンネルでどのように販売するのか（価格、サイズ等）を決める 9. マップ作成Ⅰ コンセプトマップ コンセプトマップを作成する基本テクニック（画面づくり、構成、文字） 10. マップ作成Ⅱ コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（マップをつくるパソコンの基本操作） 11. マップ作成Ⅲ コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（スキャン、切り抜き、張付け、文字） 12. マップ作成Ⅳ コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 13. マップ作成Ⅴ コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 14. プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの仕方の解説（分りやすく話して伝える、マップを活用する） 15. プレゼンテーションⅡ 各自、作成した商品企画マップを使ってプレゼンテーションする（企画書提出） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	対象ターゲット（アンケート）及びファッション市場の調査（マーケットリサーチ）						
授業方法	様々な事例を参考にブランドコンセプトマップを個別に作成する。（マンツーマン対応）						
評価基準と評価方法	最終成果物（オリジナルマップ）で評価する。						
教科書	オリジナルテキスト						

参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌
-----	------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	商品開発及び商品販売の為のコンセプト立案（ブランディング）						
授業の概要	ファッションビジネス演習II 演習IIでは演習Iの分析・予測から、具体的な商品企画のステップであるターゲット、情報、コンセプト、コーディネート、デザイン、プロモーションなどの各企画段階をシュミレーションすることで、「マーチャダイジング」の役割と方法について理解する。また、それに伴うライフステージ・サイクル、シーズンサイクル、ファッションマインド、テストレベルなどの要因についても理解しながら、変化の速いファッション業界に置いて、如何に消費者に的確に訴求できる商品を生産できるかという手法を修得することを目的とする。主としてマーチャダイジング。						
到達目標	対象マーケットを設定し、ブランドの構築をする。 ターゲット及びライフスタイル分析と商品企画コンセプトの立案。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレル業界の最新市場（秋冬） 小売市場全般とレディス・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 2. アパレル業界の最新市場（秋冬） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル等の動向を解説します 3. 商品企画Ⅰ ターゲットの設定 誰のための商品企画をするのかを設定する（性別、年齢、ライフスタイル、価値観等） 4. 商品企画Ⅱ ライフスタイル分析 ターゲットが365日どのような生活スタイルを持っているのかを分析する 5. 商品企画Ⅲ ライフスタイル分析 ターゲットの365日のライフスタイルを雑誌切り抜きでマップに表現する 6. 商品企画Ⅳ 商品イメージの分析 商品化したい商品（ファッション関連商品）の市場や商品の情報を集める 7. 商品企画Ⅴ 商品イメージの分析 商品化したい商品のイメージを具体的に雑誌切り抜きでマップに表現する 8. 商品企画Ⅵ 商品展開計画の作成 どのチャンネルでどのように販売するのか（価格、サイズ等）を決める 9. マップ作成Ⅰ コンセプトマップ コンセプトマップを作成する基本テクニック（画面づくり、構成、文字） 10. マップ作成Ⅱ コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（マップをつくるパソコンの基本操作） 11. マップ作成Ⅲ コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（スキャン、切り抜き、張付け、文字） 12. マップ作成Ⅳ コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 13. マップ作成Ⅴ コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 14. プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの仕方の解説（分りやすく話して伝える、マップを活用する） 15. プレゼンテーションⅡ 各自、作成した商品企画マップを使ってプレゼンテーションする（企画書提出） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	対象ターゲット（アンケート）及びファッション市場の調査（マーケットリサーチ）						
授業方法	様々な事例を参考にブランドコンセプトマップを個別に作成する。（マンツーマン対応）						
評価基準と評価方法	最終成果物（オリジナルマップ）で評価する。						
教科書	オリジナルテキスト						

参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌
-----	------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習III						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション商品を販売する小売業における知識とスキルの習得						
授業の概要	演習Ⅲでは演習Ⅰ、Ⅱの商品企画までのプロセスを踏まえ、ファッション商品が店頭でどのように販売されるか、その販売促進の手法であるヴィジュアル・プレゼンテーション (VP)、ヴィジュアルマーチャンダイジング (VMD) の事例を具体的に学ぶ。売り場におけるPOP広告、顧客管理とダイレクトメール、売り場のレイアウトと演出、サイン・ディスプレイ企画と立案などの演習を通じて、商品企画・構成、コンセプトに応じたファッション商品のための魅力的な売り場づくりの手法を習得することを目的とする。コーディネートとスタイリングディスプレイ。						
到達目標	ファッションコーディネータとしてのスキル ①ファッショントレンド分析 ②ファッション商品販売 売り場作り (陳列と演出) ③小売業のマーチャンダイジングの知識						
授業計画	<p>1～3 ファッション市場の現状を知る 最新ファッション市場のトレンドを分析する インターナショナルデザイナーコレクションをもとにトレンド分析をする</p> <p>4～6 12ヶ月のマーチャンダイジング計画に着いて学び、シーズン計画書を作成する 小売業における品揃え計画書の作成 52週MD (マーチャンダイジング)</p> <p>7～8 DM、カタログ作成の知識を学び、設定した小売業のDM、POPを作成する</p> <p>9 ヴィジュアルプレゼンテーションⅠ 商品陳列の手法 (商品の並べ方の基本とカラー陳列)</p> <p>10 ヴィジュアルプレゼンテーションⅡ 商品演出の手法 (ボディを使ったコーディネート提案)</p> <p>11 ヴィジュアルプレゼンテーションⅢ 売り場作りと売り場運営の基本、販売促進のための知識 什器のレイアウトと導線、照明、サイン計画など</p> <p>12 ファッション商品の販売知識Ⅰ パーソナルアドバイス コンサルテーション販売 販売テクニック・個人に似合う色とデザインを知る</p> <p>13 ファッション商品の販売知識Ⅱ ファッションコミュニケーション (ファッション心理を学ぶ) パーソナリティを支援する服、パーソナリティを映し出す服</p> <p>14 ファッション販売実習 接客コミュニケーション 販売用語とコミュニケーションスキル</p> <p>15 ファッション販売実習 ロールプレイ 接客実習 いい接客と悪い接客の実践と評価</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	ファッション市場の調査 (トレンド、売り場作り)						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	課題レポートと最終課題作品の評価						
教科書	オリジナルテキスト (各項目でプリントして渡します) FN (ファッションニュース) 雑誌を各自1冊購入して頂きます						
参考書	各自で事前にご購入して頂く書籍は特になし、随時適切な資料や書籍を紹介します						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス論Ⅰ						
担当教員	石田原 弘						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション産業、アパレル産業の研究						
授業の概要	アパレル産業を中心とするファッション産業をハウジングやレジャー産業などまで視野に入れた広い意味での生活産業と位置づけ、その現状を、繊維素材、流通販売、企画広告宣伝などの関連業界の動向を含め、広い角度から概観する。 また、ブランド、マーケティング、マーチャンダイジングなどの基本概念から、企画・生産・流通・消費のプロセスまでを理解し、消費生活における流行、ファッション性の意味を位置づける。 本論はファッションビジネス論Ⅱと併せて同演習ⅠⅡⅢにおける実践的なビジネス体験への導入とする。						
到達目標	ファッションという市場を消費者という立場ではなく、生産者・販売者の立場から見るようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッションビジネスとは 2. ファッションビジネスのマーケティング① 3. ファッションビジネスのマーケティング② 4. アパレル産業、繊維産業の構造 5. アパレル産業の流通 6. アパレルメーカーの変遷と現状① 7. アパレルメーカーの変遷と現状② 8. SPAの変遷と現状 9. ファストファッションの変遷と現状 10. ファッション小売り産業の変遷と現状 11. 百貨店の変遷と現状① 12. 百貨店の変遷と現状② 13. 量販店、SCの変遷と現状 14. 専門店の変遷と現状 15. アウトレットの変遷と現状 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前は特に準備の必要はないが、授業後には、学習した内容を実際の市場で検証してみることに。						
授業方法	主として講義、 また、学外研修としてアパレルメーカー、物流会社、ファッション美術館等の見学を実施する可能性もあります。						
評価基準と評価方法	課題レポートの提出（60％）および、出席状況（40％）						
教科書	特になし。 必要であればプリントを配布。						
参考書	特になし。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス論II						
担当教員	石田原 弘						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション産業、アパレル産業の研究						
授業の概要	ファッションビジネス論 I に続き、デザイナーをはじめとする専門職種の業務の実際、マーケティングやライフスタイル情報の収集、マーチャンダイジングの企画方法、ファッションコーディネートとスタイリング、ディスプレイなどファッションビジネスを支える実務に関する知識を体系的に習得する。 また、デザインの果たす役割、消費社会とライフスタイル、技術革新や環境問題などの要因も考慮し、消費者、生活者の視点から創造的なライフスタイルを提案できるファッションビジネスの在り方を探る。						
到達目標	ファッションという市場を消費者という立場ではなく、生産者・販売者の立場から見るようになる。						
授業計画	1. 昨今のファッションビジネス① 2. 昨今のファッションビジネス② 3. 昨今のファッションビジネス③ 4. 昨今のファッションビジネス④ 5. 昨今のファッションビジネス⑤ 6. ファッションビジネスの計数知識 ① 7. ファッションビジネスの計数知識 ② 8. ファッションビジネスの計数知識 ③ 9. ファッションビジネスの計数知識 ④ 10. ファッションビジネスの計数知識 ⑤ 11. ファッションビジネスの広告宣伝 ① 12. ファッションビジネスの広告宣伝 ② 13. 繊維素材の基礎知識 ① 14. 繊維素材の基礎知識 ② 15. ファッションビジネスの変遷と現状						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前は特に準備の必要はないが、授業後には、学習した内容を実際の市場で検証してみる。						
授業方法	主として講義、 また、学外研修としてアパレルメーカー、物流会社、ファッション美術館等の見学を実施する可能性もあります。						
評価基準と評価方法	課題レポートの提出（60%）および、出席状況（40%）						
教科書	特になし。 必要であればプリントを配布。						
参考書	特になし。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションブランド論						
担当教員	平芳 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション・ブランドとは何か						
授業の概要	現代ファッションにおけるブランドの影響力は大きく、憧れの商品を手に入れることは消費者の夢でもある。この講義では代表的なファッション・ブランドを取り上げ、ブランド形成の歴史とデザイナー個人が果たす役割、ブランドの独自性と永続性、商品企画とメディア戦略、ブランド・イメージの意味について考える。また、日本人のブランド嗜好や現代日本におけるブランドの役割を考慮に入れながら、文化産業としてのブランドの象徴性や物語性等について考察する。						
到達目標	ファッション・ブランドに関する知識を習得するのみならず、ファッション・ブランドが社会において果たしてきた文化的役割に対する理解を深めることを目的とする。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス (授業の目的、概要、進行に関する説明) 2) ファッション・ブランドとは 3) ポール・ポワレ(1) : デザイナーとしてのポワレ 4) ポール・ポワレ(2) : ブランドとしての発展と限界 5) シャネル(1) : ガブリエル・シャネルの生涯と作品 6) シャネル(2) : シャネルという神話 7) シャネル(3) : 名としてのシャネル・スーツ 8) シャネル(4) : シャネルと現代のオートクチュール 1 9) シャネル(5) : シャネルと現代のオートクチュール2 10) エルメス(1) : 19世紀パリと馬車の文化 11) エルメス(2) : 馬具からファッションへ 12) ルイ・ヴィトン(1) : 19世紀パリと鉄道 13) ルイ・ヴィトン(2) : トランクからファッションへ 14) ルイ・ヴィトン(3) : LVMHのブランド展開 15) まとめと試験 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業ノート、配付プリントを用いて復習し、学習の定着をはかること。 授業中に紹介する参考書を用いて、授業内容に対する見識を広げること。						
授業方法	講義。DVDとスライド資料を使用する。						
評価基準と評価方法	授業中小レポート (50%) と期末テスト (50%) を実施する。 欠席は減点とする。						
教科書	適宜、資料を配布する。						
参考書	山田登世子著『ブランドの世紀』マガジンハウス、2000年。 深井晃子編『ファッション ブランド・ベスト101』新書館、2001年。 その他の参考書は授業中に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションプレゼンテーション演習II						
担当教員	崔 童殷						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	新商品企画の挑戦						
授業の概要	この演習では制作者の立場から、ファッション・ショーというプレゼンテーションの仕組みを理解させ、より現実的な企画力を習得へ導く。初めにはファッション・ショーの歴史、役割、近年の事例について解説し、次に、ファッションショーの実施のために必要な様々な要素の総合的な提案をさせる。このとき、デザイン特別演習での制作を考慮し、その作品を含めたヴィジュアル資料の作成とプロジェクト全体のプレゼンテーションを行わせる。						
到達目標	ブランドのリサーチおよび分析を行い、次期トレンドの予測を試みる						
授業計画	1回. 授業の全体の流れの説明 2回. ファッションショーの仕組み 3回. ブランドの企画 4回. ファッションブランドの調査① 5回. ファッションブランドの調査② 6回. ファッションブランドの調査③ 7回. 発表および評価① 8回. 新商品提案の企画の計画 9回. ターゲット、ブランドポリシー、コンセプト設定 10回. イメージ作り 11回. 商品構成 12回. 新商品企画① 13回. 新商品企画② 14回. 新商品企画③ 15回. 発表および評価②						
授業外における学習（準備学習の内容）	トレンドが読めることはたくさんの雑誌を読むとともにマーケットリサーチを楽しむこと。発表のまとめはIllustrator, photoshopで行うのでデザインソフトを学習しておくとう助かります。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	課題レポート（30%）と最終課題作品の評価（20%）、出席状況（30%）、発表（20%）						
教科書	授業中に知らせる						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションメディア演習						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「ファッション・イメージ・コミュニケーション」						
授業の概要	ファッション写真、イメージ映像から、コレクションの展示、ファッションショーに至るまで、メディアを利用した多様なファッションイメージ表現の現状を踏まえ、優れた表現手法の分析・検討を通じて、オリジナルな発想に基づく写真・映像表現を提案する。また、そうした表現を素材に、特定のブランドを想定したDM、ポスター、雑誌広告などのメディア企画やデザインを試みる。						
到達目標	ブランドコンセプトの的確な理解を踏まえたブランドイメージの企画とツールデザイン						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「ファッションメディア」の分類と現状 3. ブランドプロモーションツールの種類（カタログ、DM、ショップカードなど） 4. ブランドプロモーションツールの収集・整理 5. ブランドロゴとタイポグラフィ 6. 仮想ブランドのロゴ制作 7. 仮想ブランドロゴの応用（Tシャツデザイン） 8. ブランドプロモーションツール研究（1）調査・企画・制作の選択 9. ブランドプロモーションツール研究（2）対象・範囲・方法の検討 10. ブランドプロモーションツール研究（3）コンセプト・計画の説明 11. 収集資料の要約・整理 12. レポート・提出物概要の検討 13. レポート・提出物制作（1） 14. レポート・提出物制作（2） 15. プレゼンテーションと講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	自身が関心をもつファッション・ブランドのショッピングバッグなどのプロモーションツールを収集する。						
授業方法	演習・実技						
評価基準と評価方法	平常点（授業への積極的な参加、欠席の場合は減点）20%、プレゼン20%、レポート・成果物60%						
教科書	特に無し。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ボディファッション論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	身体装飾、身体変形の領域を社会現象とともに学び、現代ファッションの意味を考える。						
授業の概要	現代のファッションは衣服やアクセサリーを含む服飾という範囲を超え、スポーツウエアや下着などはもちろん、より身体に密着した領域であるヘアスタイル、化粧などの美容、ピアス、タトゥーなどの身体装飾・身体変形の領域にまで拡張し、様々な社会現象として注目を集めるに至っている。身体そのものを基盤とするようなこうしたファッション領域をボディファッションと捉え、その歴史を多様な民俗的な習慣にまでさかのぼり、その精神的・文化的な背景とともに現代ファッションに及ぼす意味について考える。						
到達目標	身体変形や身体装飾を理解し、現在のファッション現象を読み解く能力が身に付いた。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：人間はなぜ衣服を着るのか？ 2. なぜピアスをつけるのか、現象を考える。 3. 身体の加工（コルセットや纏足など） 4. 衣服の始まりと役割 5. 衣服の社会性①（ジェンダー） 6. 衣服の社会性②（制服とは） 7. モード化する社会（流行の理論を考えよう） 8. 身体装飾①（化粧） 9. 身体装飾②（ボディーペインティング、タトゥーなど） 10. 世界モードと日本の衣服の交配（ハイブリット） 11. 「包む」文化と「着方」文化 12. 衣服のライフスタイル 13. 衣服とコミュニケーション 14. 肌で感じるファッション 15. からだの日本文化と試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	定期試験100%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	バーナード・ルドフスキー著『みっともない人体』（鹿島出版会） 鷲田清一著『ファッションという装置』（河合ブックレット17） ジョアン・フィンケルシュライン著、成実弘至訳『ファッションの文化社会学』（せりか書房）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	まちづくり論						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>前半は都市計画・まちづくりの歴史、後半は都市のあり方の新しい理論を学びます。その歴史ではおもに産業革命以降のイギリスにおける田園都市運動やフランスにおけるパリ大改造の話を中心とします。こうした歴史をへてうまれてきた都市計画の理論を学びます。わたしはほかの授業でも強調しているのですが、19世紀を重視しています。都市計画とは直接関係しないようですが、美術史のなかでも燦然と輝く印象派マネとカルノワールとか、ポスト印象派のゴッホとかの時代です。それと、北斎もね。歴史を大づかみにして、産業革命後つまり近代の出発点である19世紀（イギリスではヴィクトリアン）をしっかりと頭の中にすえてほしいのです。が、これがなかなかむずかしい。</p> <p>まちづくりの新しい理論では日常生活圏の重視・文化財の保全・脱自動車社会の試みなどが焦点となります。日本の都市計画法についてもそのしくみを概括的に学びます。法律の説明で終始するような授業をしている大学もあると思いますが、わたしはむしろ法にもとづいた都市計画行政が都市を悪くしたという点を強調します。</p> <p>そして、それに対抗して、よりよい住宅・都市・地球環境をうみだすために、人間はいろいろな運動をしていることを学んでいただけたらと願っています。</p> <p>こういうことも考えてもらいたい。各地で路上喫煙防止条例ができています。自動車の排ガスに比べて格段に毒性の弱いタバコをどうしてとりしまりたいのでしょうか。これはファシズムです。人びとの日常生活に権力をふるおうとする勢力の作戦なのです。ほんとうに人びとの健康をねがってやっているのでしょうか。</p>						
授業の概要	【「授業のテーマ」参照、わたしにはこういうものをテーマ・概要・到達目標・授業方法というように細切れには書けないのです、思考が平板になってしまいます】						
到達目標	【「授業のテーマ」参照】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに—地域生活空間の学問 2 職住緑近接 3 居住地の構成 4 世界の大都市 5 中小都市・農村・ニュータウン 6 都市論の基礎+テスト1 7 産業革命が出发点19世紀のイギリス 8 パリ大改造 9 田園都市論 10 日本の都市計画のしくみ——ほんとうに日本の行政は悪いことばかりしてきた、すっかりクルマ社会にしまった 11 都市計画史の+まとめ 12 新しいまちづくりの考え方——それでも前進していることもある、とくに海外では 13 人間的な交通・景観 14 地球環境問題 15 新しいまちづくり+テスト2 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>森羅万象に興味をもってください。日常生活において、ところを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。こういう問題に関しては学外に素晴らしい教材があります。話を聞いてほしいひとたくさんあります。ゲストスピーカーという制度があって、呼んだらいいのですが、報酬が安いのとめんどろなのでわたしは呼びません。ところがこのゲストスピーカーの数を制限しようとする動きがあります。ゲストスピーカーを呼んでいる教員はとても熱心な教員なのに、それを助けようとしません。</p>						
授業方法	【「授業のテーマ」参照】						
評価基準と評価方法	<p>授業中に行う2回のテストにより、ほとんどの評価を行います。授業への参加の積極性を加味する場合もあります。わたしの評価は甘いといわれている。つまりこの点では優しい。「優しい教師はいい加減な教師である」（「マーフィの法則」より）。</p>						
教科書	<p>図解住居学編集委員会編（彰国社）『図解住居学1住まいと生活』、2年次以降の「景観論」「建築計画学」でも使います。</p>						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ライフスタイル論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活文化を軸としてライフスタイルを考える。						
授業の概要	ファッションおよびハウジングデザインは個人や家族の生活様式、ライフスタイルと密接な関係にある。戦後の経済発展とライフスタイルの多様化・個性化、モノからこころへの価値観の変化とライフスタイル、レジャー・スポーツと衣食住、生活創造産業とライフスタイル・マーケティング、少子化・高齢化時代のライフスタイル、健康福祉とライフスタイル、エコロジーや省資源・省エネルギーとライフスタイルなどの観点からライフスタイルについて考える。						
到達目標	ライフスタイルの意味が理解でき、ライフスタイルと市場の動向の関連性がわかった。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 課題テーマ、方針・進め方の説明 2. ライフスタイルとは何か? 3. ライフスタイル①: TPOと購買行動 4. ライフスタイル②: パーソナルカラー 5. ライフスタイル③: ワードローブチェック 6. 家族周期と私のライフスタイル 7. 家庭生活と家族Ⅰ - 家庭と家族のあり方の変化 - 8. 家庭生活と家族Ⅱ - 女性のライフスタイルの変化 - 9. ライフデザイン (生活設計) とその考え方 10. 世代によって異なるライフデザイン 11. 生活時間の管理・労働・余暇 12. 雑誌から読み取るライフスタイル 13. ライフスタイルとファッション計画 14. ライフスタイルの社会調査 15. アンケートの留意点、最後に試験 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習は、授業内で説明する。授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	講義と演習。プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	定期試験50%、提出物50%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						